移(一)-537
1200700122542

移(一)
537

[illegible]-8

Itaquera

イタケーラ日本植民地

寫眞帖

73

伯國サンパウロ州サンパウロ市郊外

建設五年記念

KATSUNO

KATSUNO

ALBUM DA COLONIA NIPPONICA EM ITAQUÉR

COMMEMORANDO O QUINQUENNIO DA SUA FUNDAÇÃO

1925 — 193

CIA. COMMERCIAL PASTORIL E AGRICOLA

SÃO PAULO - BRASIL

(EDIÇÃO JAPONEZA)

移(一)
537

旭旅館
秋田条次三郎
アラメーダ クレベランド 一七一六 左側
電話五一三二八〇

174

國立國會圖書館藏書
62. 1. -9

86W56481

第一章　建設の沿革略史

回顧すれば日月の流れは早いものである當植民地も創設されてから今年の七月で滿五年と爲つた。

一九二五年二月頃より、愈々當植民地の創始を見て位置を決定し、イタケーラ日本植民地（Colonia Nipponica em Itaquéra）と名づけた。測量に取掛りロッテを區分し道路を開設すると同時に同年七月十日の邦字新聞ブラジル時報紙上で左記の如き創立趣旨を發表し廣く日本人の入植を勸誘した。

一九二五年七月發行紙上

一、建設の趣旨

南米のニューヨークは伯國の聖市であらふ、現時の聖市の膨脹の急劇なる事は世界稀に見る處だと評されて居る。首府リオ市を追ひ越して近い將來に人口二百萬以上の大都會に成るだらうと實際に聖市事情を知る人の皆言ふ所である。聖市の膨大に伴ふて注意す可きは野菜、果實の消費、需要の激增と且つは其の價格の驚く可き騰貴である。夫で聖市郊外の野菜作は最も收入が迅速で且つ有利確實である事は誰でも承知の筈である。然も日本人は元來此の集約的の野菜作には最も獨特の技倆を持つて居る事は已に北米各地に於て證明された事實である。然るに今日迄日本人の此の有望な聖市郊外野菜作に從事して居る者の至つて稀であるのは何故であらう乎。此には別に深い理由はない、其は一にその適地を見出す事が至難であるのと且つは見當つても中々地價の高い市の郊外であるから其の地代拂込法に就て地主の方で特別に容易の法を講じて呉れるものがないからであらう。

其處で郊外に適地を有する當農牧商會（Commercial Pastoril e Agricola）はイタケーラ町に接續する所有農場の一部を撰擇して特に野菜作の目的で日本人諸君に提出するに地代支拂法を五ケ年としたのである。此と同時に多年伯國農商務省に奉職する日本人唯一の技師石橋氏を顧問として茲に理想的の野菜、果樹栽培を目的とせる日本人植民地を設立したのである。

二、當植民地の特色

當植民地は曾てない特殊のもので野菜、果樹を主作とする計りでなく次に列記する樣な特色を有して居る。

(イ)當會社は日本人植民地の完全なる發達を計る爲に勉勵能く働く日本人農家族の入植を望むは勿論であるが、進歩せる理想的の一致團欒の農園を立てたい精神であるから、我利的で人と共同の出來ない日本人家族及び土地を買入れ放棄し置き地價の騰貴を待つ樣な者は絕對に入植を望まない。

(ロ)當植民地の各區は大略一域內外で必ず區內には流水と車道とが通うじてゐる。

(ハ)入植家族の子弟の敎育には最も便宜である事は大いに注意す可き事と思ふ、當植民地に接するイタケーラ町には公立(州立)の小學校あり無月謝で立派な敎育を日本人子弟が受くる事が出來る。此公立小學校迄は植民地から車道を徒步にて小供も三十分內外で達する事が出來る。亦進んで高等敎育を受くるにも植民地から聖市の學校に容易に通學が出來る。

(ニ)入植者で住宅を建築する時は當會社で或る程度迄煉瓦其他の建築材料を一ケ年の月賦仕拂方法で貸付する。

(ホ)當會社は植民地在住日本人の物質的發達を計り是に依つて大いに儲けしむると共に他方智識、體育の完全を期する目的で特に地內中央部に體育、敎育、遊戲、娛樂機關の設置用地として約半域を無代提拱する。

三、地代及び其の拂込法

當植民地は一區を略一域宛に區劃してあつて各一域に對し六コントスの地價である、一度聖市郊外地を見た人は首肯する如く一米突四方を單位として賣買して居る聖市の膨張と共に近い內に此の地も市街地たるべき土地なれば實に格外と安價云ふべきである。殊に拂込法に於ては日本人農業の發達を容易ならしむる爲に五ケ年の六十ケ月々賦拂としたので、卽ち每月百釬を拂込めば宜いのである、若し一時に一ケ年分又は全額を前拂する場合は一割引をす

る事になつて居る。

四、位置、地勢、地味

當植民地の位置は上圖にある如く中央線イタケーラ町に接續してジャク河の左沿岸地帶を占めて居る。地勢は一般に平坦、內部には數多の清流があり水利の便は最善、地味は敢て最上とは言へないが、野菜、果樹栽培に適する砂質壤土である。

五、交通

交通の點は當植民地の特色とする處で地內には上圖にある樣に縱橫に車道があり、イタケーラ驛までは立派な自動車道がある。又イタケーラ町から聖市迄は二本の自動車道が通じ孰れも四十五分內外で聖市の中央メルカード迄往く事が出來る。イタケーラ驛から聖市のノルテ驛迄は每日二十餘回の往復郊外鐵道があり僅かに往復賃三百鈩レース、一ヶ月乘車券五鈩である。此の外に目下イタケーラ町から聖市迄通ずるカミニヨンの設けがあるが當會社でも他日地內の產物增加と共に、必要に應じカミニヨンを每朝定期に出すの計劃もある、又リオ市に野菜の出荷を爲すの場合は每朝野菜貨車が當驛を通過するが故に極めて低廉な運賃にてリオ市迄送出す事が出來る。

六、生産した野菜、果實の販路

當植民地の產物の販賣先は三ヶ所である。第一がイタケーラ町で、當町は植民地に接續して居る町で現に千五百戶を有し日に月に住民が劇增しつゝあるから此の町での野菜の消費は夥しい上に他に野菜專門業者のないが故、殆ご此の町で大部分は賣り盡される事は事實である。當會社では植民地產の野菜の生產增加する時はイタケーラ町に靑物市場を設立する積りである。

第二の得意先は聖市であつて聖市のメルカードに植民地から出す時は世人の知る如く販賣に困る事は絶對にない。

第三の販賣先はリオ市で既に云へるが如く野菜貨車があるから容易にリオ市場に出して儲かる筈である。

◇注　意

當植民地實地視察希望者又は詳細を問合はさんとする方は當會社聖市事務所に午後三時＝四時迄に來訪あらば石橋技師と親しく面談する事が出來る。亦手紙で問合せの方は當會社事務所内同技師宛差出されたし。

五年前當植民地創設當時は、サンパウロ市郊外で蔬菜、果樹栽培に從事してゐた日本人は極く少かつた。聖市の消費する青物は主に郊外のポルトガル人の作るものに限られて、今日の如く完全な灌水裝置と合理的施肥の下に幾萬本のトマテー、キウリ、數段歩の苺を作る等は夢にも思ひ及ばない事であつた。其の時代に當植民地は生れたので誰も日本人で蔬菜栽培に就て多くの經驗なかつた、サンパウロ州の各地方から入植し來た人は、皆相當に蔬菜作には自信のあるもの、亦故國で實驗と學理に通じた人も少なくなかつた。然るに入植後の實績は思ふ樣にあがらなかつた。而も最も賣り易ひ筈のトマテーは市場に出せば一箱三十基入のもので僅かに七釺と云ふ相場であつた。入植者の多くは肥料に就ての研究が少なく、唯野の草を苅込み或は其を灰化するのみ、牛馬の厩肥を買入れ使用するに過なかつた。化學肥料を使用するものも化學肥料と地質との關係に對し無經驗であつた爲め其の施肥は亂暴であつた、亦各種野菜を何時頃植付くる可きか亦相場の高い時は何時であるか等の諸問題に就て誰も智識を缺いて居つた。入植者によき指導者をかき、各自苦い實驗を積みつゝ茲に二ケ年内外を經過した。持つた資金の大半は消費し盡し、肥料は買入れなければならない、喰はなければならない、地代は毎月拂らはなければならない、實に植民者は深刻なる苦境に陷つた。此の時である植民者の間に何となく不安焦燥の念が動き初め、野菜作は儲らないものと云ひ不平を洩すものがあり、地代拂込の澁滯は全般的と成つた。斯る時代に當

りサンパウロ市の某邦字新聞の如きは廣告掲げざりしの故にてか、當植民地の惡口を紙上に掲載し曰く『イタケーラ植民地は地味が惡しく作物は出來ないので植民者は居たまらないで大半出耕して植民地は空に成る』云々と。

然るに創立第二年目であつたと思ふ、中村今朝吉氏のトマテー作が見事豊作で然も相當の價格で賣買され一時に日本金の一萬圓内外の大金を握つた。此れに次いで元家氏も亦トマテー作で二、三十コントスの收入をあげ始めて植民者間にトマテー作は有望なものとの考へ起り爾來その栽培隆盛を來し當植民地の蔬菜中最も重要のものと成つた。一方サンパウロ市の青物市場を見るに漸次トマテーの消費增加し需要は生産に比して年々增加の趨勢を示した、トマテー生産者の栽培面積が此の二、三年前から非常に增加し且つ相場は昨年より一箱につき二十銒を下る事がなかつたのを見ても證せらる。

當植民地の植民者は益々トマテー其の他の蔬菜栽培法と販賣法に經驗を得て初めて植民地の地盤は堅固に成りつゝ創立後第三年目の農年を經過した。斯く述べ來た如く創設滿三ケ年は入植日本人は皆非常なる苦境時代であつた。

此と同時に當植民會社も經濟上大打擊を被むつた。即ち地代の支拂はれるもの少なく、新入植者もなくその將來も非觀された。廣大な道路開設費、植民者に永年支拂法で建てた家屋建築費の回收も望みなくなり毎年日本人植民地の方では缺損を見てゐた。若しかゝる際當會社にして植民者よりの地代收入を唯一の收入として投資經營したものであつたなら植民地閉鎖の悲境に陷つたであらふ。幸ひ當會社はイタケーラ町の過半の宅地を所有する故堅固なる經濟基礎を維持し且つ日本人植民者の悲境に同情し地代支拂に對して寛大な處置に出たのである。即ち地代支拂不可能のものには其の都合の出來る時迄其の土地を安い小作料を以つて借地さする事に決定した。サンパウロ州には無數の植民地が存在するが斯る寛大の地代支拂を實施せる地主は殆ど皆無と言ひ得る。斯く苦境に際した我日本人植民地は第四年目よりぼつ〳〵景氣を恢復し、植民者は種々の作物の良好なる成績に依り、其の經濟狀態順調になり、曰く某はキウリ、某はイタリヤ南瓜、花椰菜、誰は莓と云ふ樣に今までの失敗が産んだ經驗と技術に依つて非常なる良結果を得るに及んだ。或る家族の如きは數萬本のトマテー作より一時に數十コントスを擧げサンパウロ市

郊外の蔬菜王と云はれしものさえ此の植民地から出て來る時代に達した。

サンパウロ州の各地に住む日本人は、昔時の新聞の惡評が尙耳底に殘り當植民地に注目するものが少ない時代に、日本より來た新來の日本人は直接當植民地に入植するものが一昨年より漸次增加し來つゝある。

此の新入植者は先輩の植民者の指導に從ふて皆相當の收入を擧げた、玆に苦い五年の年月を經て植民者も會社も相當の經驗を得た事を確信する。

今後の五年間には植民者の大なる發展を希望すると同時に尙植民會社の有する八百アルケーレスの土地に大なる日本人植民地を擴張し建設を期するものである。

第二章　當植民地の現況

創始後五年の今日當植民地は日本人家族四〇家族と、十九の諸外國人の入植家族を持つてゐる。

植民者は一般に長い經驗より日々の基礎が固まりつゝある。安全な樂しい田園生活が營れる時代に近づいて來た。新しく入るものは先輩より指導され大なる失敗なく生活し得るから益々植民地は好況に向ひつゝある。今やサンパウロ州の農界は珈琲相場の下落に因つて農民の困窮時代である。珈琲地帶の奥地で豆、米、キビを作つても運賃の高い伯國では生產者は儲け得るものでない。

然るに此の郊外植民地に入つては每日市場に送り出す青物、鷄卵、果物は値の高低に拘らず、皆生產費を差引きて充分の儲けがある。皆賣れ行く、當植民地は夫で經濟的見地から見ても最も好況に在るものと斷言し得る。

第三章　五ヶ年の經驗より入植希望者に次の事を述べたい

（一）當植民地では『儲ける』と云ふことは第二として氣候のよい健康地で心持よく働き大切な子弟の敎育が充分出來ると云ふ點を高調し。

(二)新しく入植するものは土地の地味の善惡を氣に掛けるよりも土地に適する施肥法と作物の管理法を能く先輩の植民者から敎はる事が必要である。

(三)當植民地の地價の高い事を他の土地に比較して驚くよりもイタケーラ町は程なく大サンパウロ市の擴張に伴れ連絡するのは近い將來で電車はサンパウロ市より延長されるも決して遠い事でなく、植民地はイタケーラ町と同樣にサンパウロ市役所の直轄で眞の郊外地である事を忘れてはならない。此と同時に交通の便利は他の凡ての植民地でも當植民地に及ぶものはない。

(四)元來蔬菜、果物は市場に一足でも近い程其丈有利である。當植民地からサンパウロ青物市場迄は四十五分で貨物自動車で達する、其故運賃は安いのである。

(五)當植民地の產物は唯にサンパウロ市の需要を充すに留まらない、次にリオ・デ・ジャネイロ市には鐵道便にて安く輸送される。夕方送出せば翌朝早くリオ・デ・ジャネイロ市場に着荷する。リオ市の人口は百五十萬人で然も其の郊外は氣候、地質の關係で野菜が出來ない、殆んど大部分は他地方のものを供給してゐる。野菜の生產過剩は少し位の日本家族の增加では起る心配はない。

(六)郊外列車で安くサンパウロ市に往復が出來る。聖市諸學校へ子弟を通學させるに、亦聖市に於て働かるゝ人にも至て便利である。

(七)子弟の敎育に就ては當植民地は申分のない好位置に在る。吾人伯國人は在伯日本民族の前途を想ひ深甚なる注意を子弟の敎育に致さなければならぬ日本人子弟即ち第二世は日本語も伯國語も何方も徹底せず、其故智識がブラジル人子弟に劣つたものが多い。日本人の父兄は美田を子孫に殘すよりも充分な敎育を施し知識を磨かせるのが現代の父兄の一大義務であらう、子弟の幸福また之に若くものはない。

第四章　新しき入植希望者と資金

當植民地の入植希望者に對しては第一に資金の額と其の支出方法に就て五ケ年の苦い經驗を以て次の樣に提案したい。

資金額によつて大中小に分けて簡單に説明する、要するに初めから資金を全部支出しないで少なくとも入植一ヶ年間位は生産からの收入がないでも第二年度迄經營が出來る様にするのが最も重要である。

（A）十二コントス（日本金約三千圓）の資本の入植家族

地代は五年又は七年の年賦拂で入植と共に一ヶ年分を前納する。

地代一ヶ年分年賦代（一アルケール） 面積は一アルケール（二町半）	一、五〇〇釬
家屋、家具代	一、八〇〇釬
農具買入代	二五〇釬
開墾代（五段歩）	五〇〇釬
肥料種子代	一、二〇〇釬
一ヶ年家族（五人〆見て）	一、五〇〇釬
雜費（衣服、學費、交際、日用品等）	一、〇〇〇釬
合計	七、七五〇釬

備考　一ヶ年の內には運のよい人は數コントスの收入あるもの亦經費丈は儲ける人は一般である。然し皆無の收入〆して最も安全の經營を豫想したものである。

（B）二十コントス（五千圓）の資本で

土地（二アルケール買入）一ヶ年賦前納	三、〇〇〇釬
家屋（少しく大きいもの）	二、〇〇〇釬
家具、農具	二、〇五〇釬
開墾費（一町歩內外）	一、〇〇〇釬
肥料種子代	二、二〇〇釬
食料一ヶ年分	一、五〇〇釬
雜費（前述同様）	二、〇〇〇釬
初年度果樹苗木買入	一、〇〇〇釬
人夫賃（青年一人一ヶ年を雇入る）	一、二〇〇釬
合計	一五、九五〇釬

備考　前述した様に初年度は若し收入がなくても第二年度に經營が出來る様

に資金を保有する。

（C）三十二コントス（八千圓）の資金で

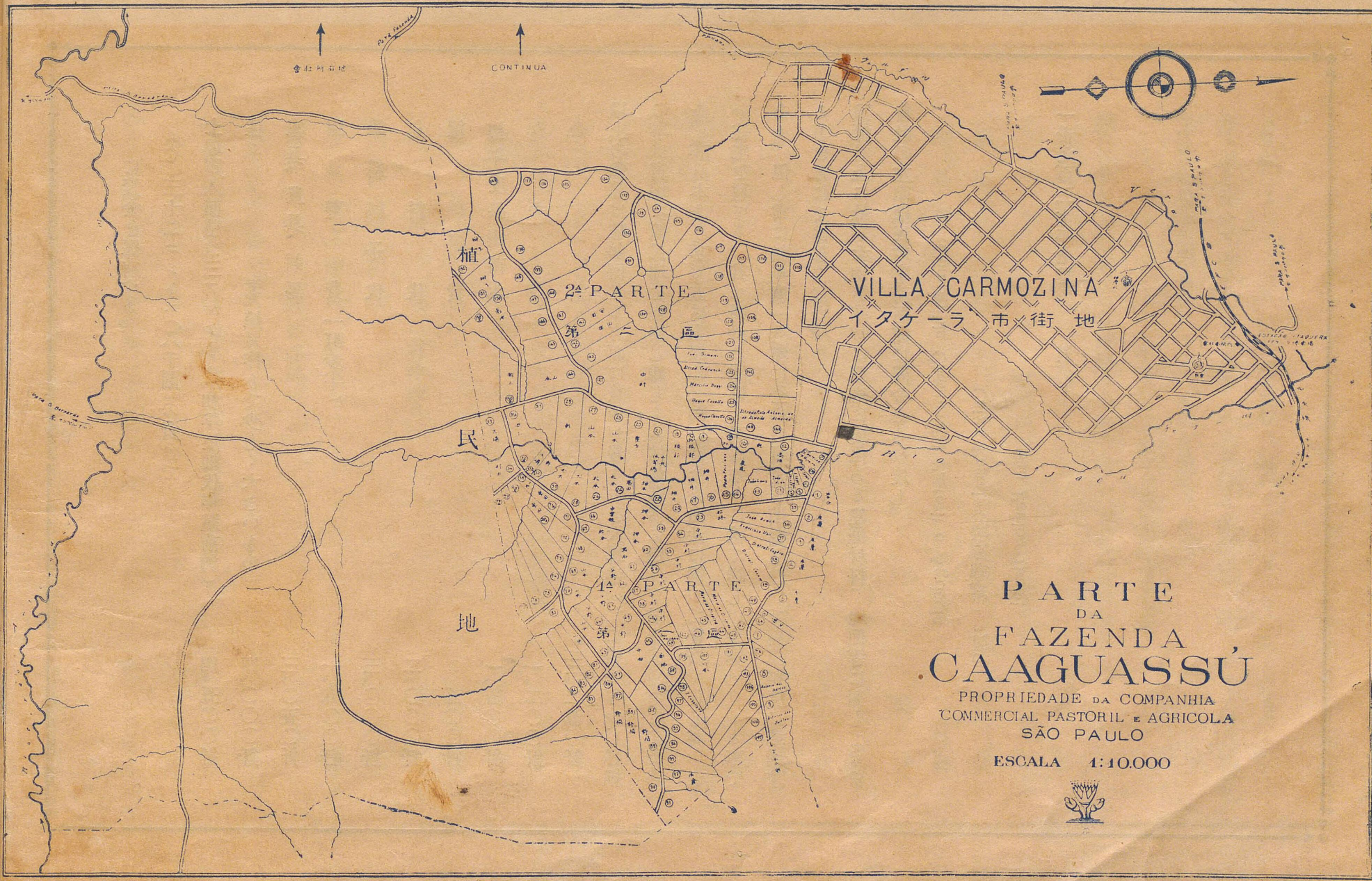
土地買入面積は三アルケール（初年度地代年賦前納）	四、五〇〇釬
住　宅（煉瓦作りで少しく大きいもの）	四、〇〇〇釬
家具、農具、耕馬	三、〇五〇釬
開　墾　費（一町歩半）	一、五〇〇釬
肥料種子代	三、〇〇〇釬
食　料　代	二、〇〇〇釬
雜　費	二、五〇〇釬
初年度果樹苗木	一、五〇〇釬
人　夫　賃	一、二〇〇釬
合　計	二三、二五〇釬

以上の豫算は唯如何なる方面に資金が費るかを大畧述べたに過ぎない、詳細の事は實地に植民地を視察し親しく入植先輩者に遇ふて計上す可きものである。亦日本より來る方は上記の三例の資金支出法に從つて經濟で住心持のよい住宅を建てる、其と同時に同縣人又は知人に就て詳しい豫算を立てる事である。但し常に初年度一ヶ年に全部の資金を消費しないで第二年度に準備する事を忘れてはならない。

豫算計上に最も大切で亦時に價格に變化ある建築材料、地價等に對しては當會社の左記植民地事務所宛に問合せられ度し。

Companhia Commercial Pastoril e Agricola
Caixa Postal,（郵函番號）2740
São Paulo Brasil

一千九百三十年七月　日


會社所有地
CONTINUA
Para Fazenda
VILLA CARMOZINA
イタケーラ市街地
2ª PARTE
第二區
1ª PARTE
第一區
植
民
地
Rio Jacu
Rio Verde

PARTE DA FAZENDA CAAGUASSÚ

PROPRIEDADE DA COMPANHIA
COMMERCIAL PASTORIL E AGRICOLA
SÃO PAULO

ESCALA 1:10.000

當植民地地價表

區劃番號	面積 米突四方	價格 一米突四方
六A	一四、二五八	〇（ミル）、四〇〇
七	一三、九七三	〇、四〇〇
七A	九、八〇〇	〇、四〇〇
三五	二四、二四〇	〇、四〇〇
四〇	二五、〇六〇	〇、三八〇
四一	二四、一八〇	〇、三八〇
四二	二四、一〇〇	〇、三八〇
四五	二五、八四〇	〇、三八〇
四六	二三、六八〇	〇、三八〇
四七	二一、七八五	〇、三八〇
五〇A	二七、七二八	〇、三五〇
五一	一三、八四〇	〇、三七〇
五二	二七、九九八	〇、三五〇
六八	二三、八三〇	〇、三九〇
七一	七、五八八	〇、三五〇
七二	一〇、五六五	〇、三五〇
七三	二四、〇八五	〇、三五〇
七四	二四、二七四	〇、三五〇
七五	二四、九一八	〇、三五〇
七六	二三、八七〇	〇、三五〇
七七	二三、〇四六	〇、三五〇
七九	二四、〇三八	〇、三七〇
八〇	二三、〇八四	〇、三七〇
八二	一九、六二六	〇、三五〇
八三	二三、九七〇	〇、三五〇
八四	二四、四〇五	〇、三五〇
八五	二四、四一八	〇、三五〇
八六	二四、三三二	〇、三五〇
九三	二三、一二九	〇、三五〇
九四	一七、三四九	〇、三五〇
九五	一八、一三〇	〇、三六〇
九六	一七、三三〇	〇、三六〇
九七	一四、二五七	〇、三六〇
九九	二一、三三四	〇、三五〇
一〇一	二〇、四六〇	〇、三五〇
一〇二	二四、九八〇	〇、三七〇
一〇三	二六、〇九五	〇、三八〇
一〇四	二五、六三八	〇、三八〇
一〇五	二四、一七〇	〇（ミル）、三八〇
一〇六	二四、〇〇〇	〇、三八〇
一〇七	二三、六九一	〇、三八〇
一〇八	二四、〇八七	〇、四〇〇
一〇九	二一、六二六	〇、四〇〇
一一〇	三六、〇六〇	〇、四〇〇
一一一	二九、九八五	〇、四〇〇
一一二	二九、〇九四	〇、四〇〇
一一三	三五、八〇〇	〇、四〇〇
一一四	二三、〇九八	〇、三九〇
一一五	一九、七六〇	〇、三九〇
一一六	二九、七三三	〇、三九〇
一一七	四一、七〇四	〇、三七〇
一一八	三七、四〇五	〇、四〇〇
一一九	五二、三五九	〇、三七〇
一二〇	三二、八二二	〇、四〇〇
一二一	三四、〇九五	〇、四〇〇
一二八	六一、〇〇九	〇、三五〇
一二九	四三、八一五	〇、三八〇
一三〇	三三、五二二	〇、三八〇
一三一	三九、一八七	〇、三八〇
一三二	三九、五六八	〇、三八〇
一三三	六八、三三一	〇、三五〇
一三四	五四、九〇三	〇、三七〇
一三五	三五、一四〇	〇、三七〇
一三六	二一、五一三	〇、三七〇
一三七	三三、二〇五	〇、三七〇
一三八	六三、五八〇	〇、三五〇
一三九	四〇、〇四五	〇、三六〇
一四〇	二八、〇九七	〇、四〇〇
一四一	三五、七〇三	〇、四〇〇
一四三	四四、二五八	〇、四〇〇
一四五	二八、七五五	〇、三九〇
一四六	二七、四九一	〇、三九〇
一四七	二四、一八八	〇、三九〇
一四八	二八、一〇二	〇、三九〇
一四九	八〇、四五一	〇、三五〇

（備考）

前頁に見る様に現時、第一、第二區に七十五區劃の賣りものが準備してあります

入植の資金の都合にて、即時拂、五年、七年の永年月賦拂で賣却致します

◎詳細は當事務所に直接問合はせ下さい

イタケーラ日本植民地 寫眞帳目次

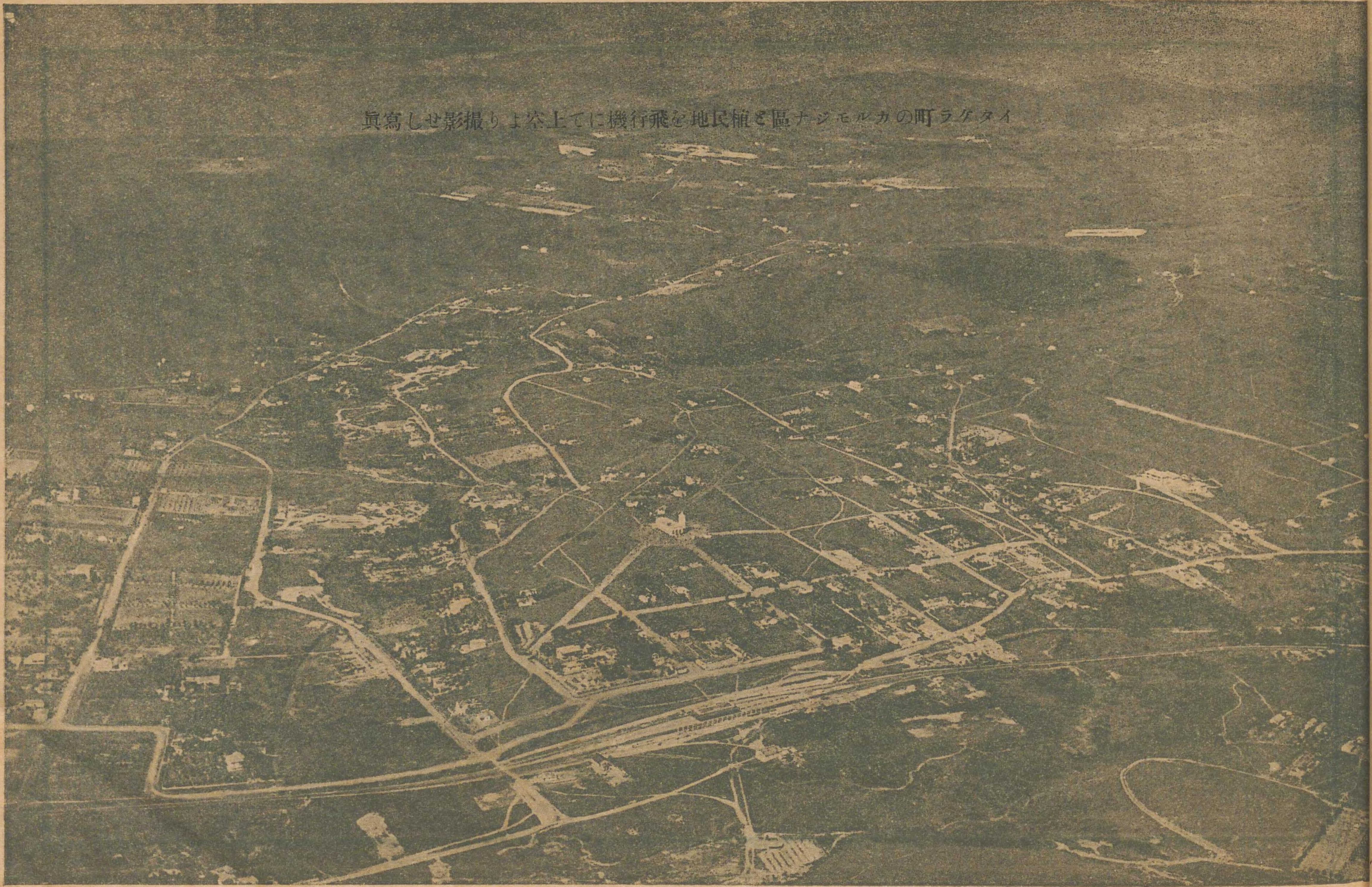
イタケーラ植民地沿革史……一
イタケーラ町カルモジナ區と植民地を飛行機にて上空より遠望……一
イタケーラ町カルモジーナ區の景遠望……一
中村今朝吉氏のトマテ畑の遠望……一
サンパウロ市ノルテ驛……一
イタケーラ町の停車場……二
イタケーラ驛前に在る豐吉商店……三
イタケーラ町に於けるサンパウロ市役所……四
イタケーラ町の藥品店……五
イタケーラ町の大寺院……六
イタケーラ町にあるカント氏の住宅……七
イタケーラ町に於ける美しい邸宅……八
イタケーラ町に於けるレーテ氏の宅住……九
スダン印巻煙草製造主のイタケーラ町に於ける別莊……一〇
イタケーラ町の孤子養老院……一一
イタケーラ公立小學校の生徒の一部……一二
植民地よりサンパウロ市の學校に通學する學生……一三
イタケーラ町郊外にある煉瓦工場……一四
當植民地の一部……一五
イタケーラ町の一部の景……一六
植民地の入口一帯の景……一七
當植民地のジャクー河の沿岸地帯の景……一八
共同運動場に開かれた天長節祝賀運動會……一九
イタケーラ日本植民地の森林の景……二〇
石橋恒四郎氏の住宅と家族……二一

石橋氏の果樹園に於けるパイナプル……二二
石橋氏の果樹園の一部……二三
石橋氏の農園内の池畔……二四
菅谷咸氏の果樹園と家族……二五
菅谷咸氏の果樹園のレモン樹……二六
高垣忠兵衛氏の苺栽培……二七
服部秀吉氏の苺栽培……二八
中村氏の新築された住宅……二九
中村今朝吉氏の六萬本トマテの收穫……三〇
中村今朝吉氏のトマテ保管所と其の荷造……三一
中村氏のキウリ畑の耕耘の景……三二
中村氏の畑に使用する種々の農具と機械……三三
豐吉竹次郎氏のトマテ畑の收穫……三四
萬木繁氏のトマテ栽培……三五
萬木繁氏の農園の耕耘……三六
乾俊衛氏の住宅……三七
乾俊衛氏の農園……三八
柳生兵衛氏の住宅と家族……三九
柳生氏のトマテ栽培……四〇
森光次氏の住宅……四一
園原千鶴氏のトマテ栽培……四二
大場龍三郎氏の家族……四三
岡上與之助氏の苺栽培……四四
村田氏のロツテ切り開き……四五
重田義一氏苺栽培……四六
永島巖氏の養鶏……四七
永島氏野菜畑の甘藍の移植……四八

永島氏の住宅……四九
松本圭一氏の住宅と家族……五〇
松本氏の養鷄……五一
山本辰藏氏のトマテ畑の中耕……五二
平野元義氏の伊太利南爪畑……五三
平野元義氏所有地内の森林……五四
山中三五郎氏の莢豆とトマテ栽培……五五
山中三五郎氏の甘藍畑……五六
野間常夫氏の農園と家族……五七
佐藤善一氏の疏菜園……五八
菊地常八郎氏の家族……五九
竹本京藏氏の蔬菜園……六〇
渡邊泰一郎氏の茄子栽培……六一
松林氏の住宅と家族……六二
夏目萬平氏の苺栽培……六三
押本瀧輔氏の住宅と家族……六四
押本瀧輔氏の果樹園……六五
押本瀧輔氏の雲州ミカン苗木仕立……六六
押本氏の花椰菜栽培……六七
富田實氏の白色レグホン種の飼養……六八
ペードロ氏の苺畑……六九
當植民地に活動する獨逸農家ウリ氏……七〇
當植民地の植民者伊太利人ロケ・カブト及
イボ・シモニー氏のトマテ畑……七一
植民地のアントニオ・アルメーダ氏の住宅と家族……七二
植民者の住宅建築……七三
生産する蔬菜を市場へ送出す貨物自動車……七四

TERRAS PARA CULTURAS
EM
ITAQUÉRA
LOTES RURAES
A 30 MINUTOS DA CAPITAL
Comp. Commercial Pastoril e Agricola

青物市場前に開場を待つ青物生産者の列……七五
近く落成を告ぐるサンパウロ市中央大市場……七六
サンパウロ市の青物市に於ける日本人の野菜賣り……七七
植民地と三大市場の關係地圖……七八



イタグラ町のカルモジナ區と植民地を飛行機にて上空より撮影せし寫眞

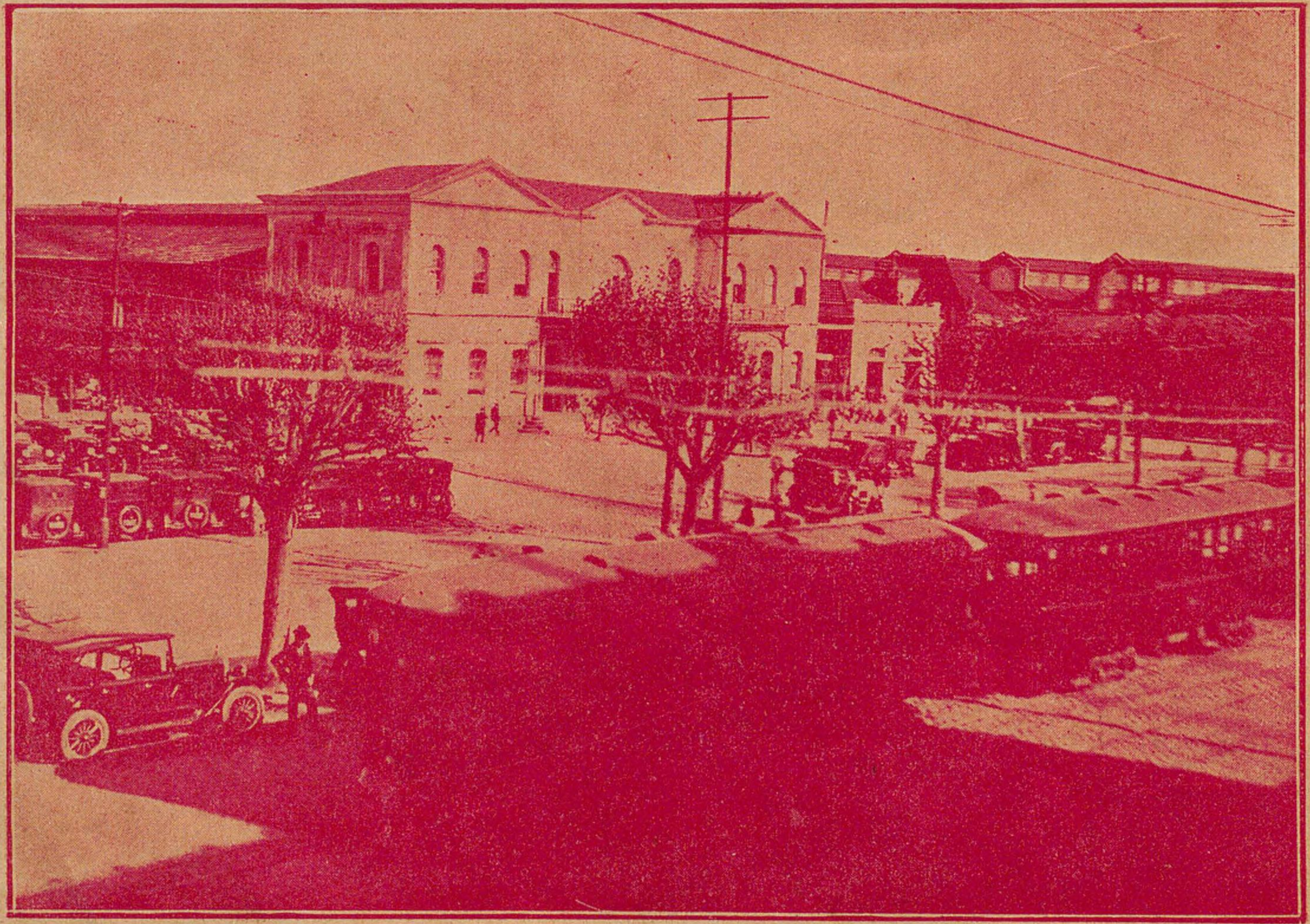
圖中下部中央の細長いのは停車場、圖の上方遠く白色に見へるのは植民地である、驛より植民地迄は圖に見る樣に立派な車道があり、入口迄約二粁半（日本の二十町餘）である。此の圖にあるイタケラ町はカルモジナ區と呼ばれ植民地の地主で同じ會社の所有である、數年前迄は數十戸の寒村は現今では殆ど二千戸に近い町である、イタケラ町は此のカルモジナ區の反對側にサンタナ町と云ふて現今約一千戸を有する、兩區合計して三千戸に近く全イタケラ町は一萬五千の人口である。

サンパウロ市の擴張は益々延長し近い内にイタケラ町は其れと連絡する、電車のイタケラ町に通るも決して遠い事ではない。

圖中A停車場、A^1小學校、B豊吉商店、C寺院、D D^1 D^2 D^3 D^4は驛より植民地に通ずる車道で約二粁半、E孤兒院F石橋氏農園、G墓地、H中村氏農園、I松本氏農園、J大場、岡上氏農園、K大谷氏農園、L平野氏農園、M柳生氏農園、N N^1 N^2 N^3は植民地豫定擴張地八百アルケーレス、現在植民地は約三百アルケーレスでD^4 K G G^2 K M J I Lを連結した地方である。

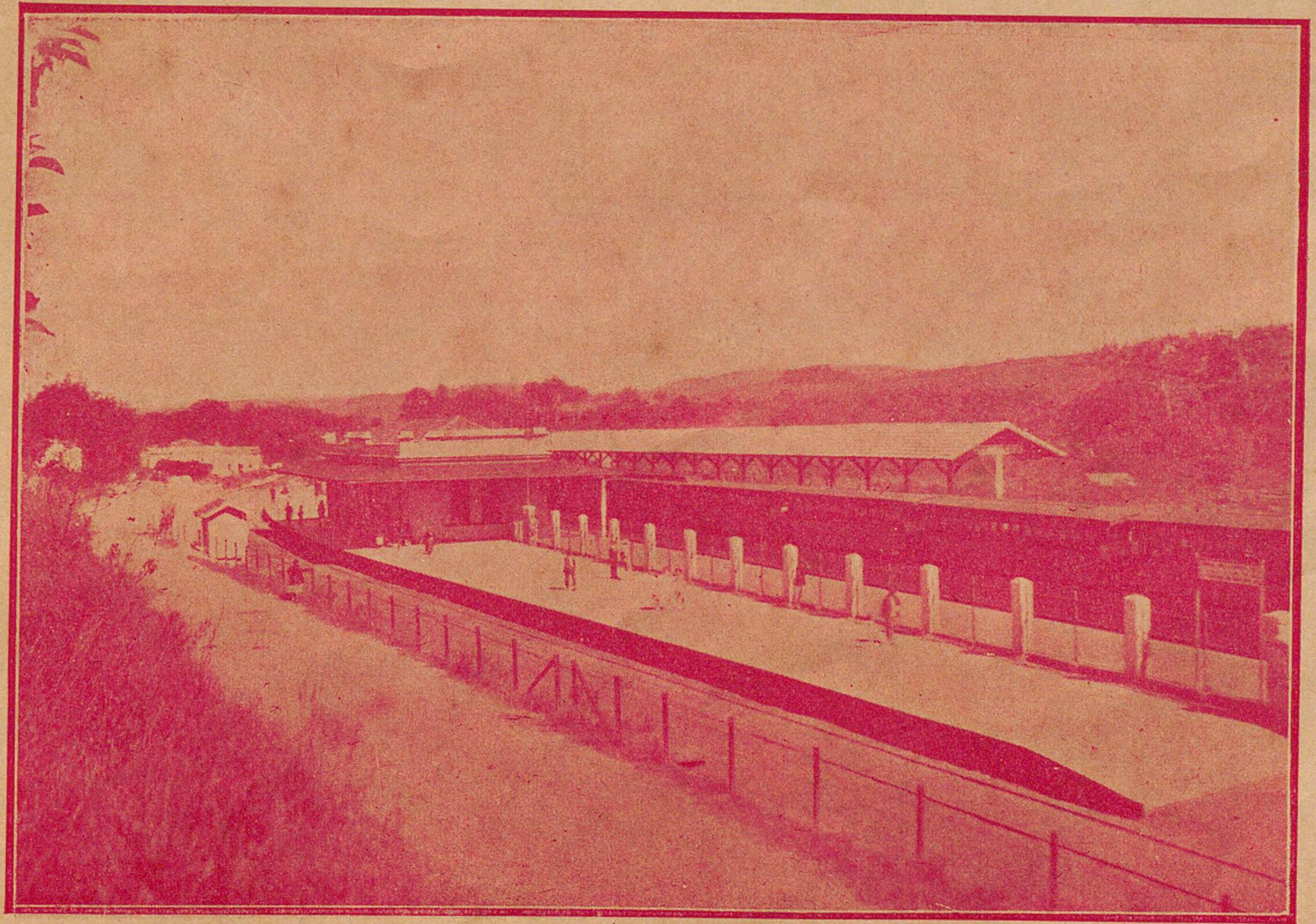
サンパウロ市のノルテ驛

當驛はサンパウロ市と首府リオ・デ・ジヤネイロ市を連絡する中央鐵道の發着點である。イタケーラ町は此の中央線にあるのでサンパウロ市に往復するには是非此の驛を經るイタケーラ驛より當驛まで十八キロで郊外鐵道で略四十五分を要する。



Estação do "Norte" E. F. C. B.

イタケーラ町の停車場



"ESTAÇÃO DE ITAQUÉRA"

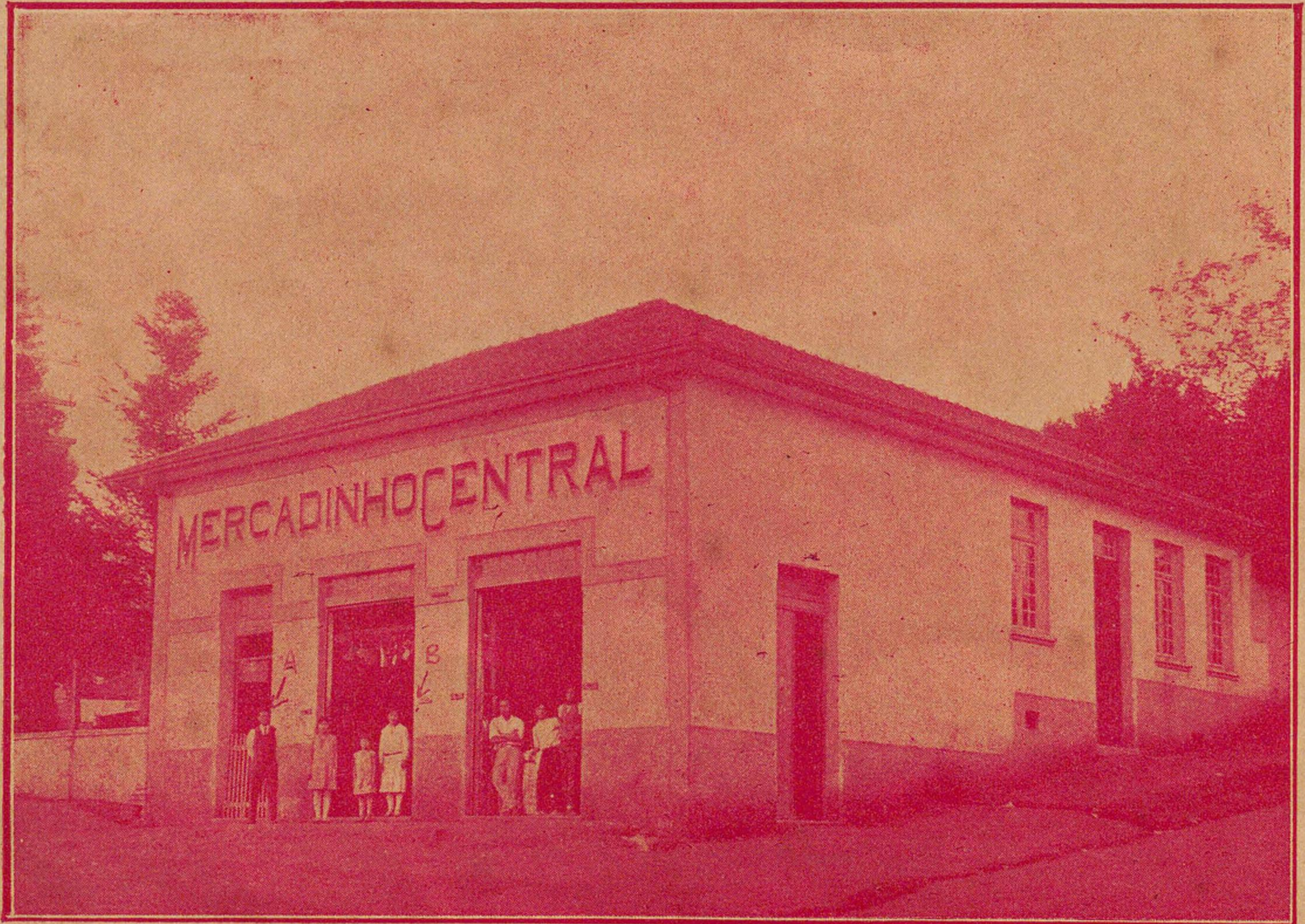
當驛は首府リオ、デ、ジャネイロ市とサンパウロ市とを連結する中間驛に在る。サンパウロ市より十九基米、急行列車で三十分、郊外列車なら四十分である、此の線は聯邦政府の直轄經營で運賃は模範的で當國中最も安い、例へば郊外列車でサンパウロ迄二等往復劵は僅かに三百レース（七錢）市内電車賃よりも安いのである。

政府は近郊の開發を計る爲に郊外列車を益々増加する計畫である。目下毎朝四時頃より一日に十數回の往復列車がある、當驛よりサンパウロ市の工場、商店に出勤する者の便乘は益々増加し目下九百餘人と云はれてゐる。

イタケーラ驛前に在る豊吉商店

豊吉眞水路氏は北海道十勝國加東郡出身、大正十三年渡伯、同十五年當植民地に入植し農業に從事す、昭和二年石橋氏より當商店を讓り受け更に大改善と擴張を加へ經營す。當商店は驛前の良位置にあるのと廉價多賣主義と正確とが益々店の繁榮を增進しイタケーラ町の商店中最も忙しい商店である。

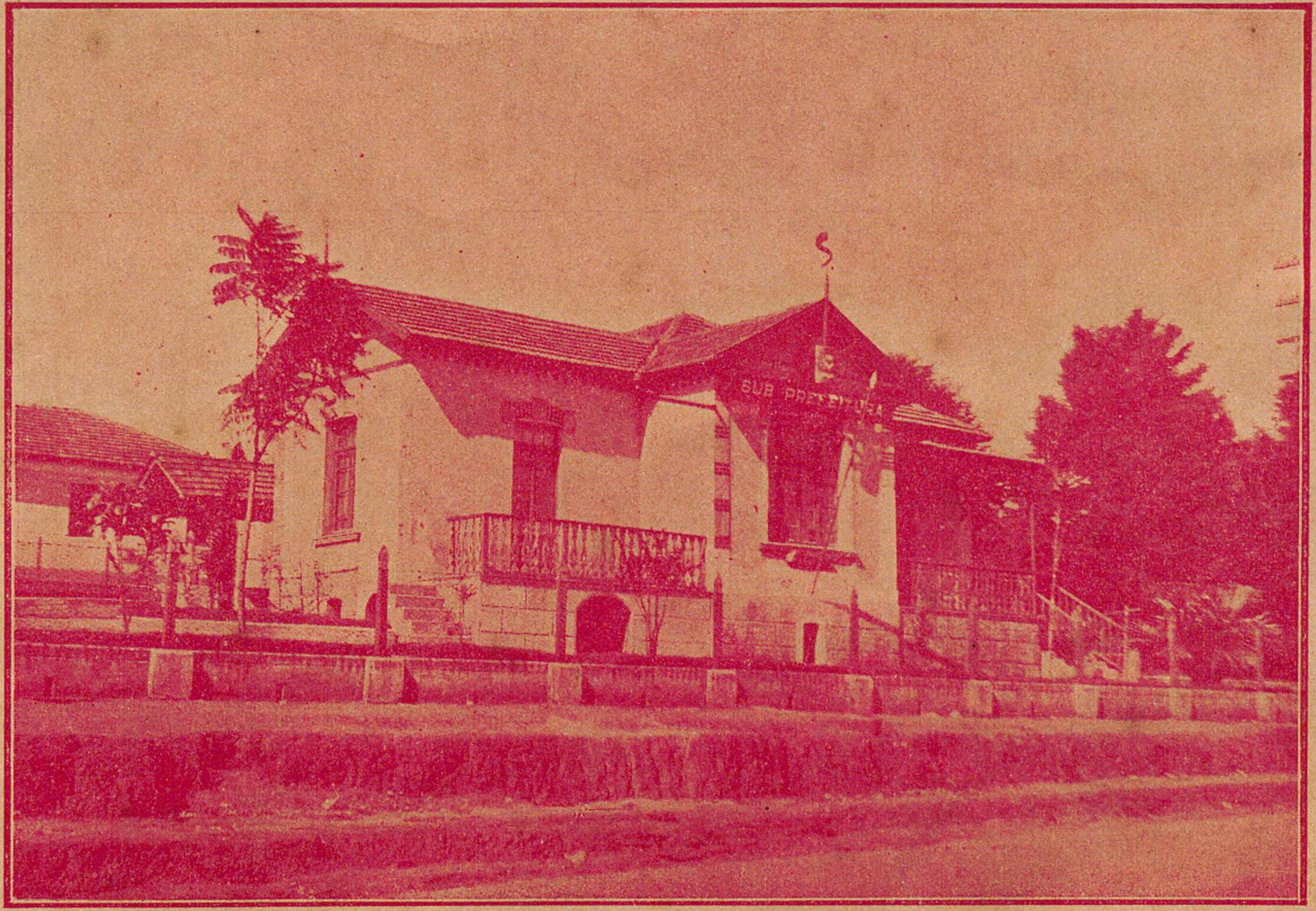
今年同氏はブラジル希望社聯盟主事と成り全伯國に希望社精神の宣傳に務られ同時に亦當植民地の爲めに專心盡力を惜ない人である。圖中Aは豊吉氏、Bは同氏の令閨と店員一同。



Armazem de propriedade do Snr. M. Toyoshi.

イタケーラ町に於けるサンパウロ市役所支部

サンパウロ市の近年の膨脹は米國のニューヨーク市の昔時の樣だと迄謂れる、十數年前迄は三、四十萬の人口、現今一躍にして百萬を突破したのである、伯國首府リオ市百五十一萬人を凌ぐも近い將來と期待さる。



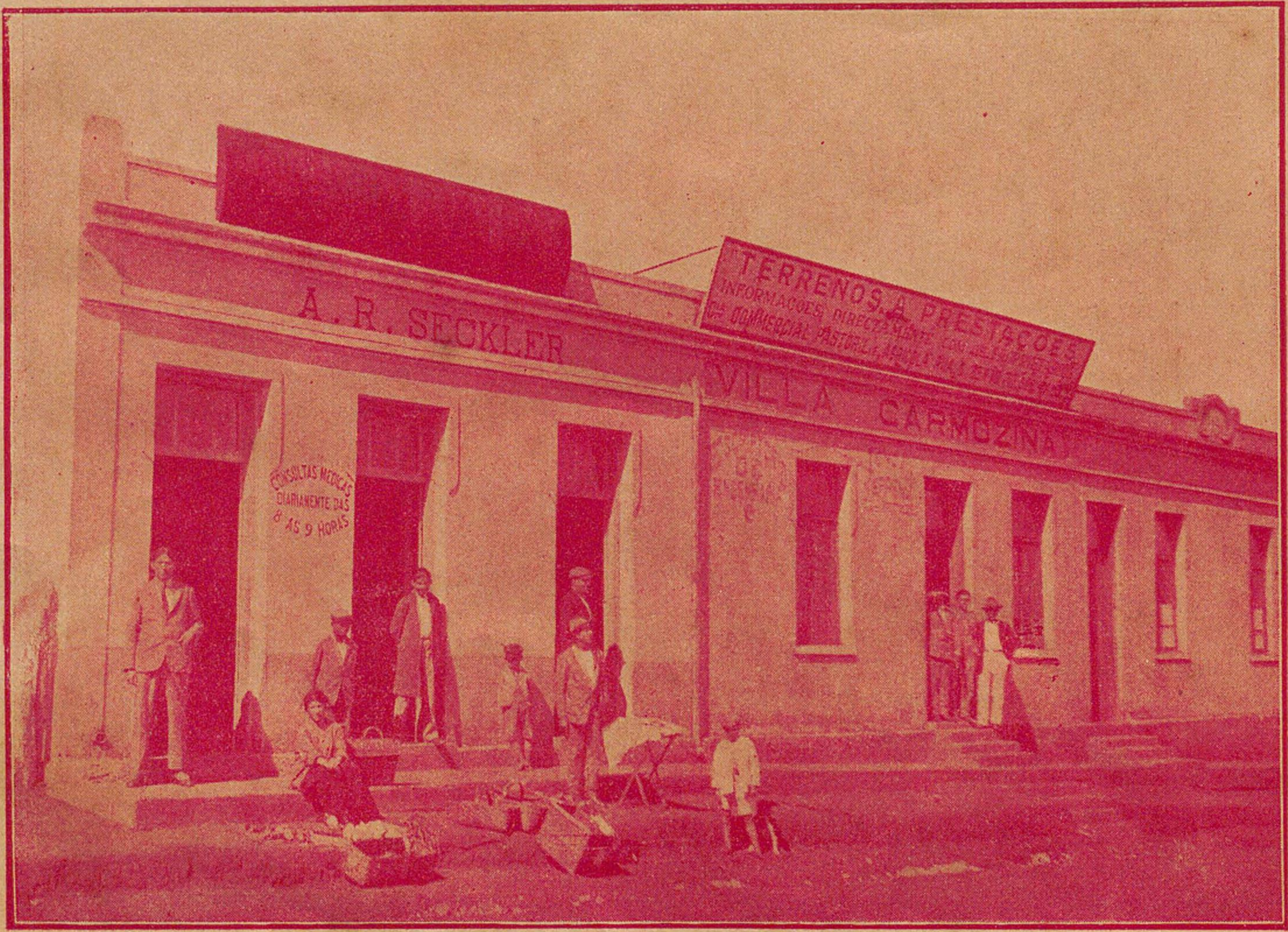
Sub-Prefeitura de Itaquéra (Villa Carmozina).

サンパウロ市郊外の驚く可き擴張に伴ひ市役所では便宜上郊外區を四大別し此に支部を設けた、イタケーラ町には一昨年より支部が設けられたのである。

イタケーラ町の藥品店

當藥品店はオグスト・セクレル氏の經營に係る植民地に最も近く且親切に取扱ふので同胞間に最も信用がある、當國の習慣として藥店には皆醫師が特約し其の一室で診療に從事してゐる、當藥店にも毎日ドトール・アフォンソ氏が居て普通の疾病に對し診療される何と云ふても大サンパウロ市は自動車で三十分の近い所にあるので立派な專門醫に見て貰ふ便利がある

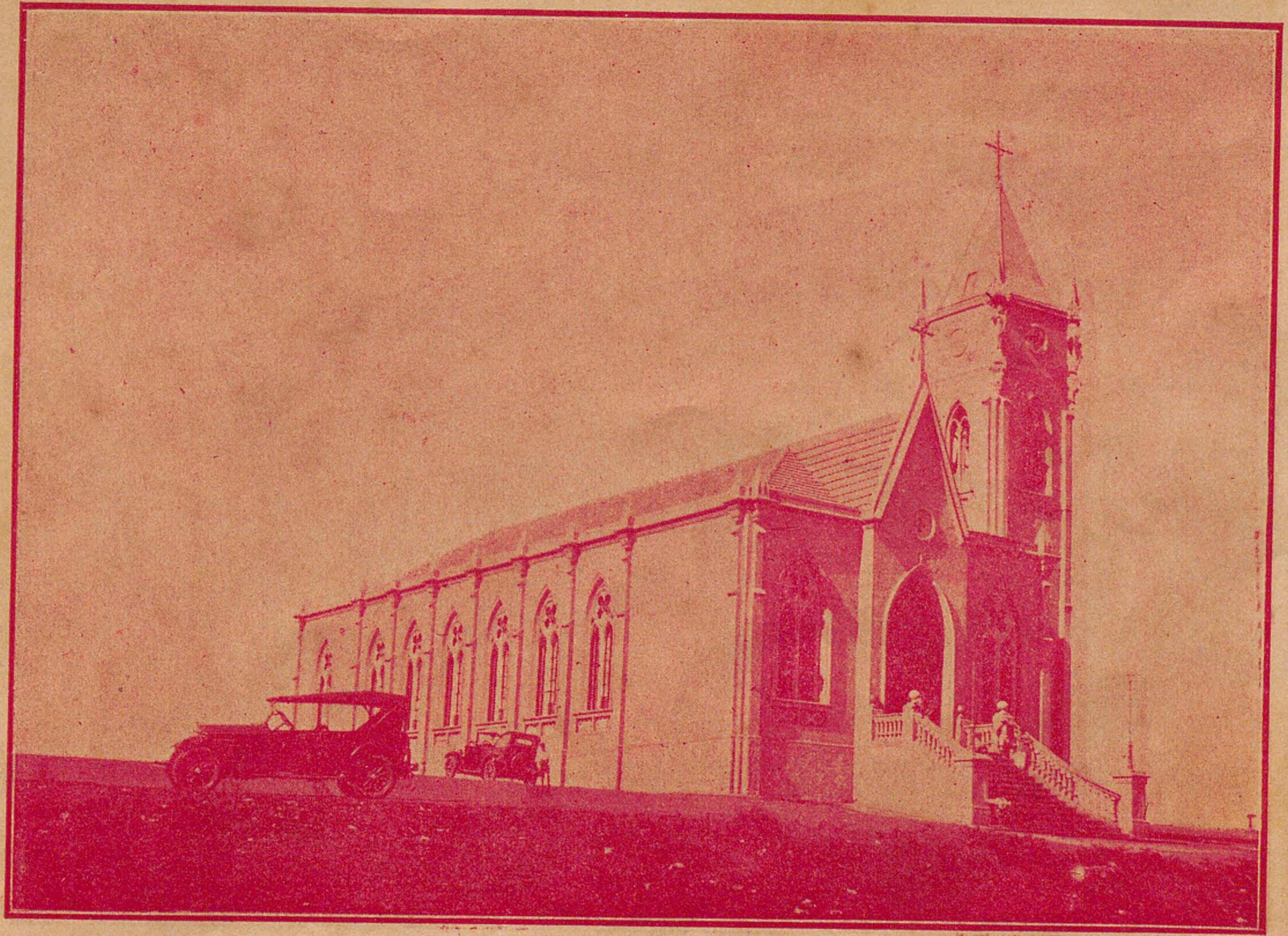
當藥店主の令兄コロネル・セクレル氏は有名な教育界の人で現に藥學齒科學校長、モラサントマ中學校長であり且つイタケラ町長の榮職を帶びて居る。


A. R. SECKLER
TERRENOS A PRESTAÇÕES
VILLA CARMOZINA
CONSULTAS MEDICAS DIARIAMENTE DAS 8 ÁS 9 HORAS

Pharmacia e Escriptorio da Comp. Commercial Pastoril e Agricola em Itaquéra (Villa Carmozina).

イタケーラ町の大寺院

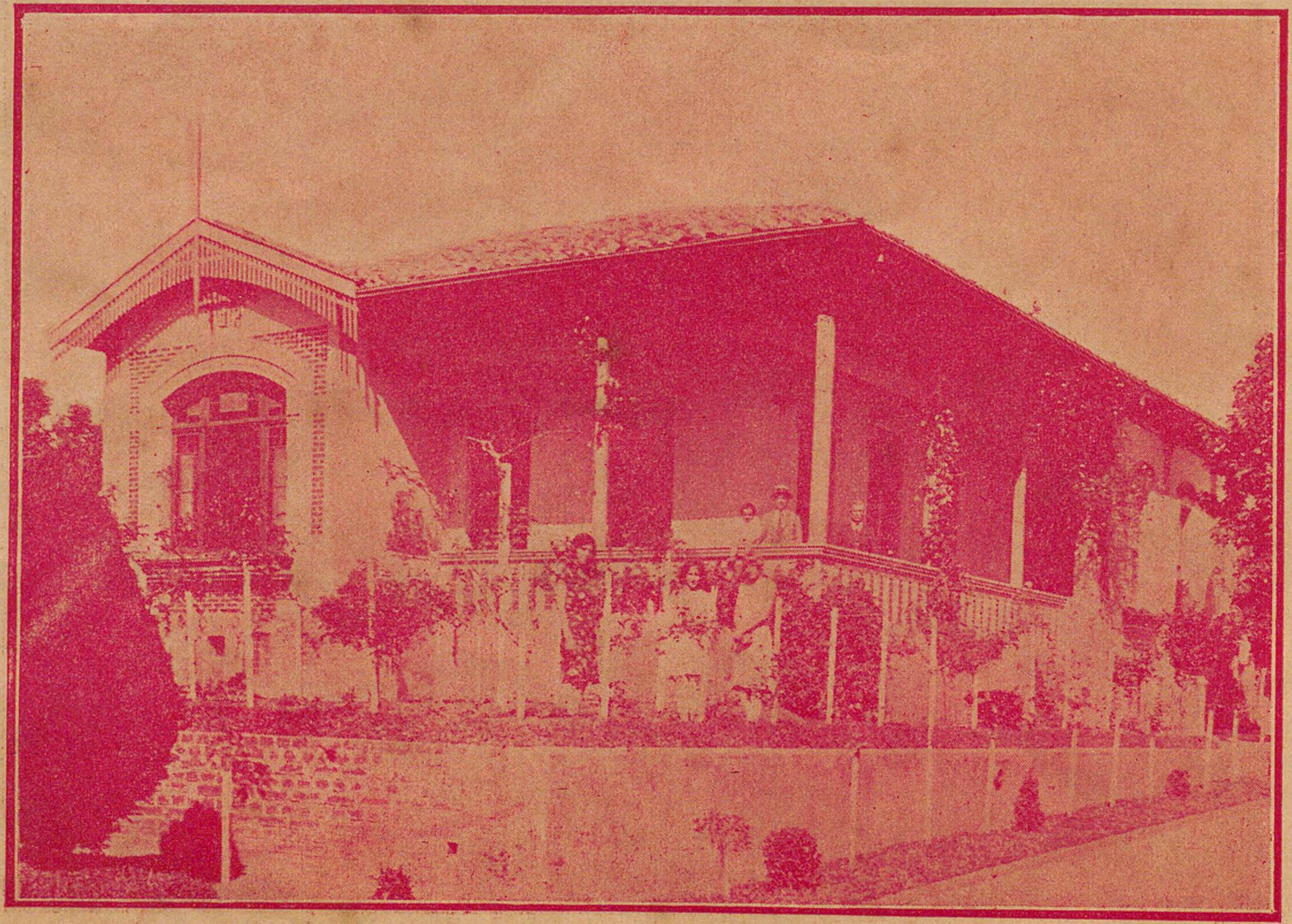
當寺院にイタケーラ町の最も眺めの好い丘上に建てられて當町を飾る一大美觀で、三年前より工事に取掛り漸く今年初期に落成した工事費は約二百コントス（日本金五萬圓）内外に達した。其の建築費の大部分は當町に別莊を持つスダン印卷煙草大工場主サパド氏の寄附金に因つたと言はれてゐる。



"MATRIZ DE ITAQUÉRA"

イタケーラ町にあるカント氏の住宅

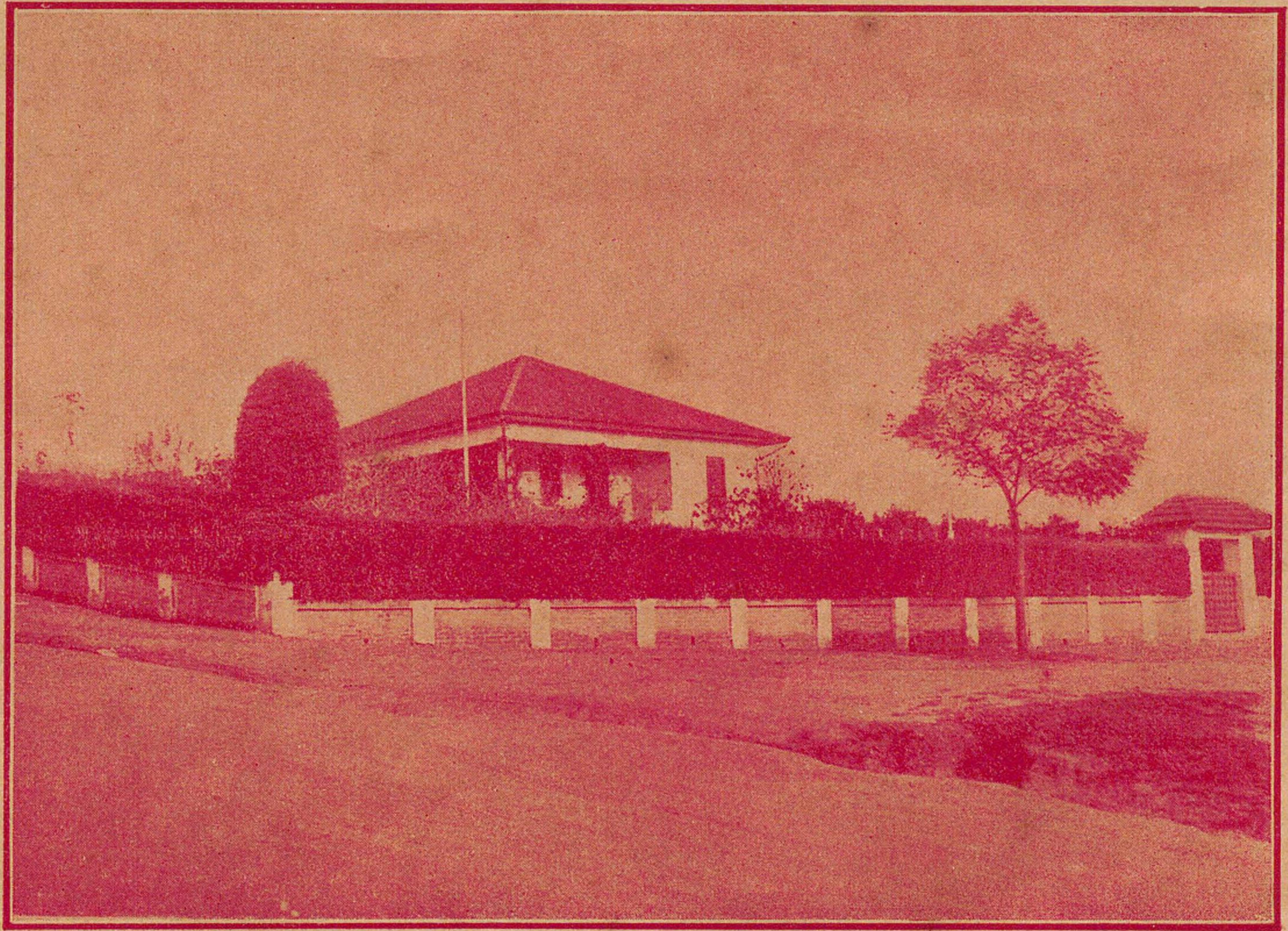
イタケーラ驛に近く風車の高く見ゆる氣持のよい一住宅はカント氏の所有のものである、裏手には行届いた果樹園があり四時果物の絶へる事がない。



LINDA RESIDENCIA DO SNR. CATÃO MONTEZ.

イタケーラ町に於ける美しい邸宅

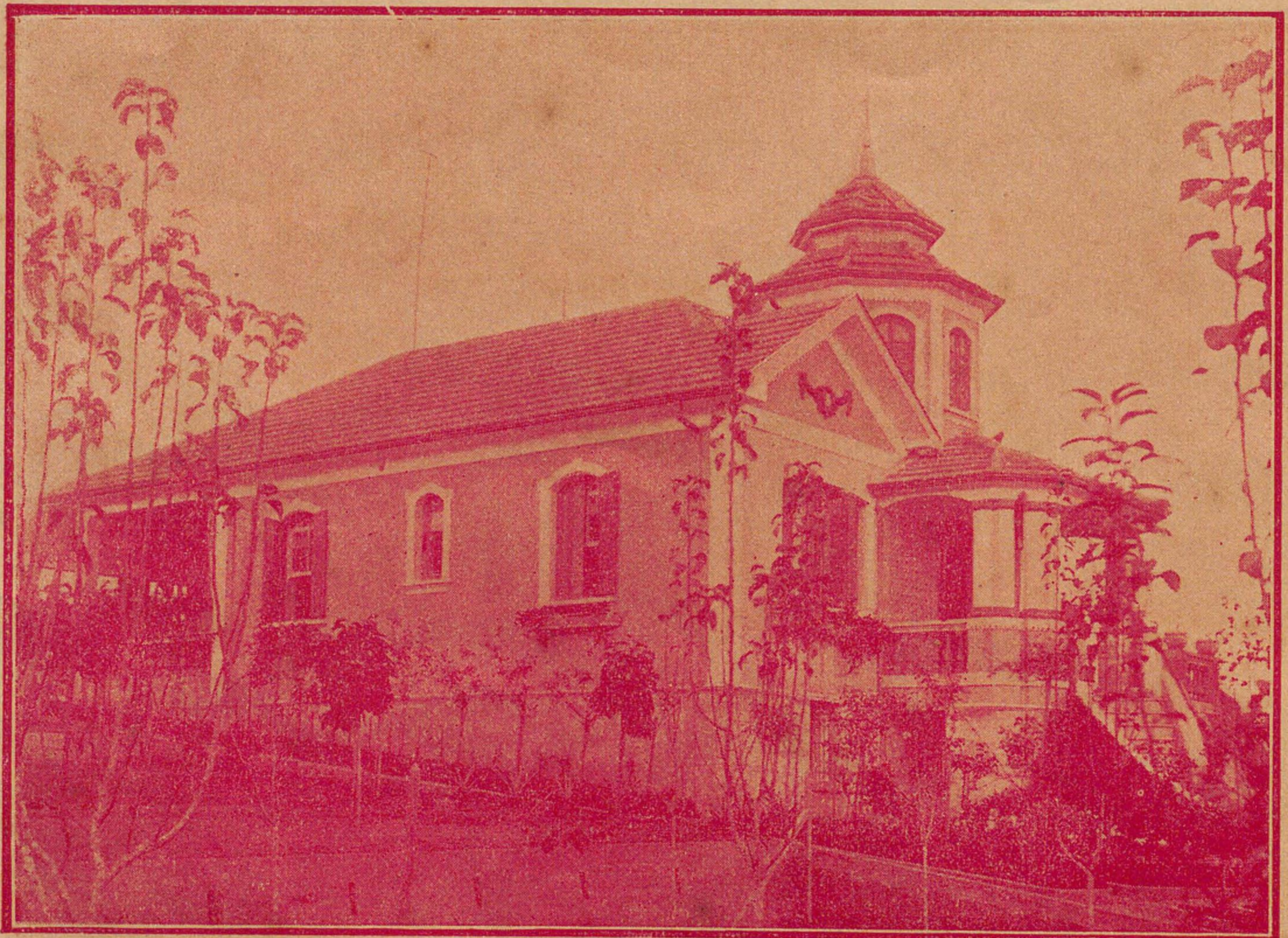
イタケーラ町はサンパウロ市から僅かに自動車で三十分の短距離に在るのと氣候が高燥で至つて健康に適するので別荘として知られてゐる、當邸宅も一資本家の別荘である。



Linda moradia em Itaquéra "Villa Yole" da familia Manzione.
(Villa Carmozina)

イタケーラ町に於けるレーテ氏の住宅

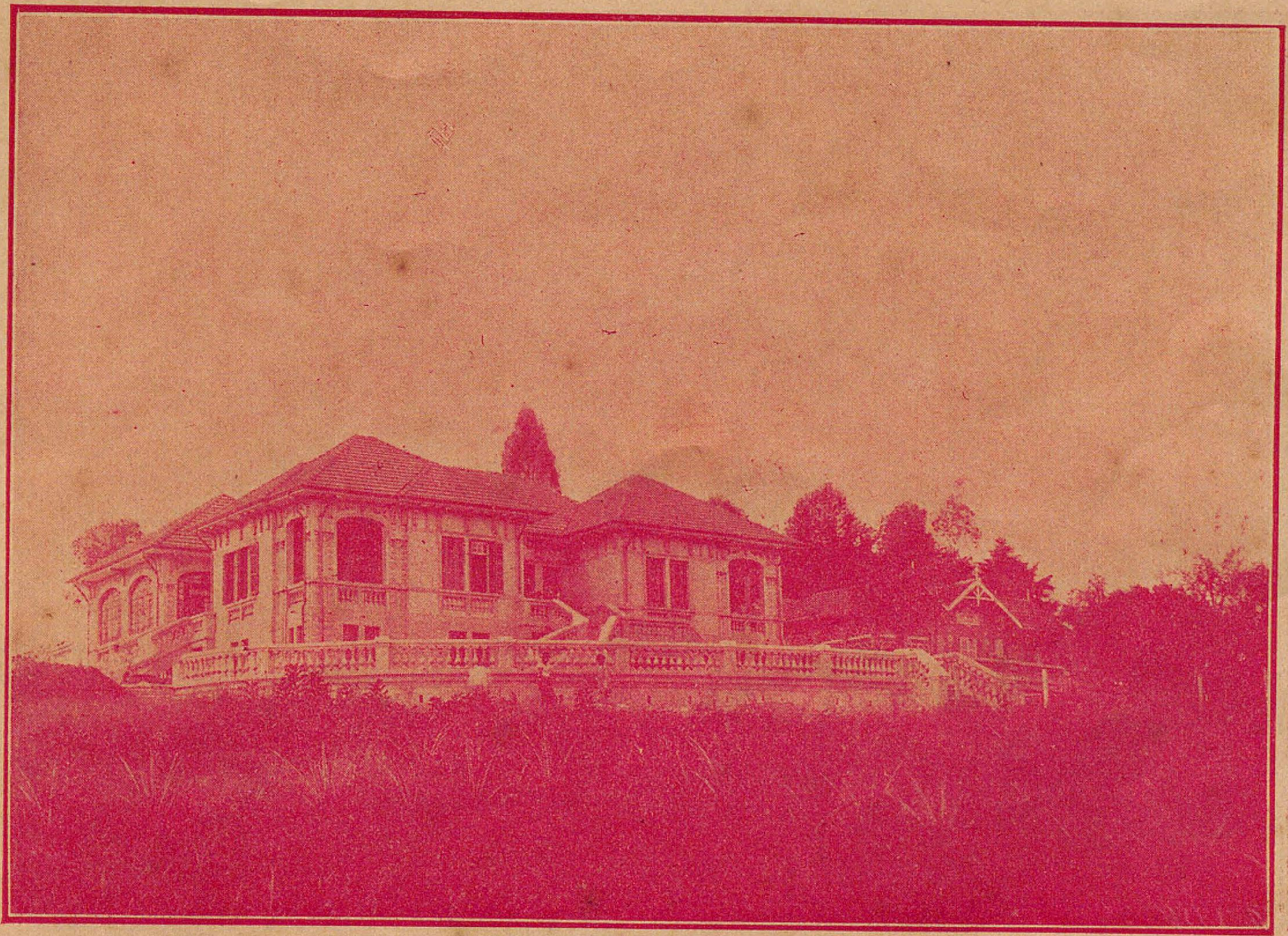
聖市ノルテ驛に近く、牛乳會社がある、ンーテ氏は當會社の重役の一人で昨年イタケヲ町に壯麗な圖にある様な一大住宅を建築した建築費約百二十コントス（三萬圓）を要したと云ふ。



PALACETE DE PROPRIEDADE DO SNR. LEITE EM ITAQUÉRA (VILLA CARMOZINA).

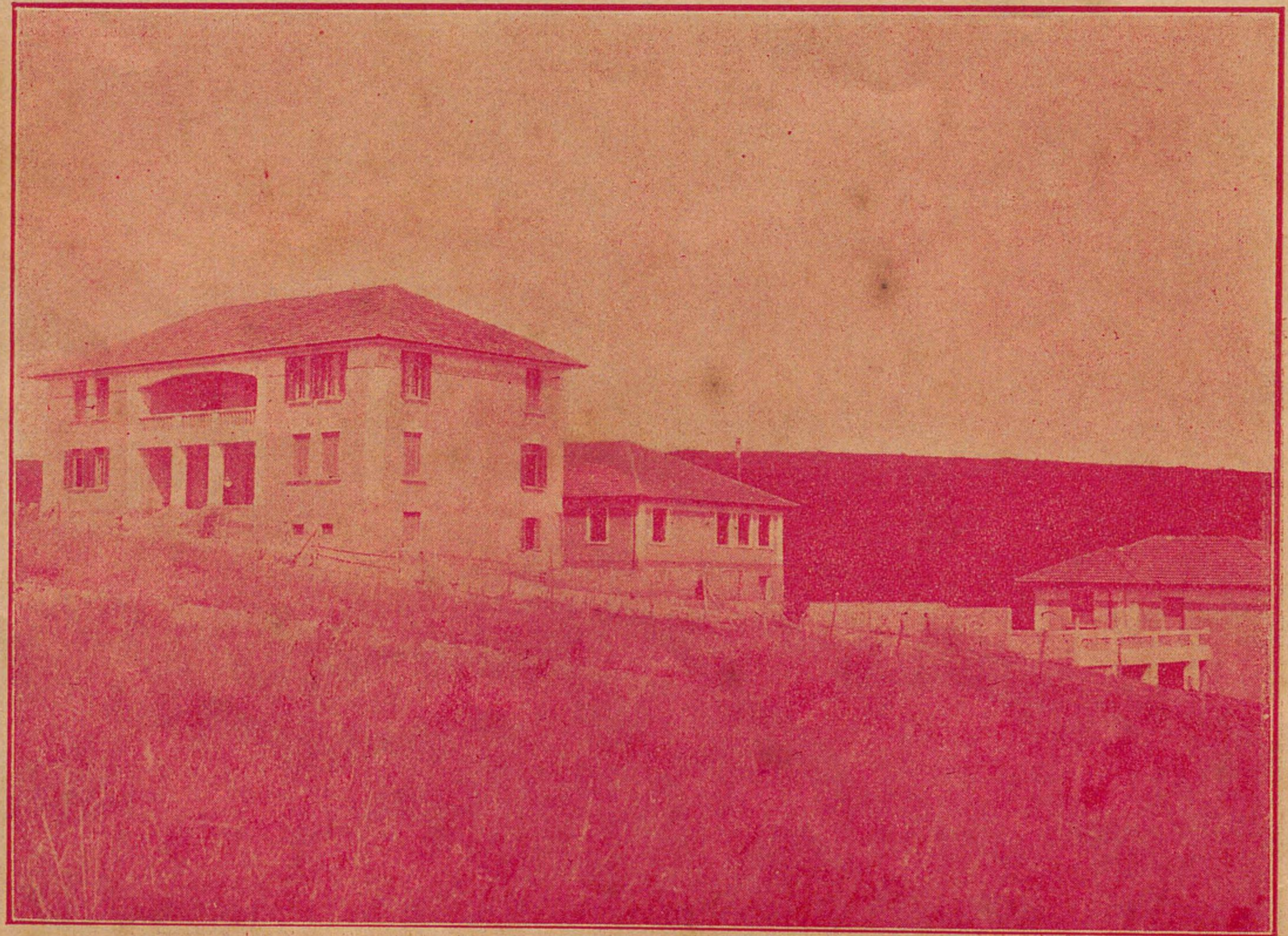
スダン印巻煙草製造主のイタケーラ町に於ける別莊

スダン印シガル製造主、サバド・ダンゼル氏は巨萬の財産家である、サンパウロ市、リオ・デ・ヂャネイロ市に大工場を有す、氏は健康の爲め高燥で氣候の好いイタケーラ町を撰定し四年前より此處に住み朝夕自動車でサンパウロ市に往復して居る、先月頃から圖に見るが如き壯大なる別莊の建築を始めた、此の工事費は五〇〇コントス（畧日本金十二萬圓）と云ふ



PALACETE DE PROPRIEDADE DO SNR. SABBADO D'ANGELO EM ITAQUÉRA.
GRANDE INDUSTRIAL DOS CIGARROS "SUDAN".

イタケーラ町の孤子養老院

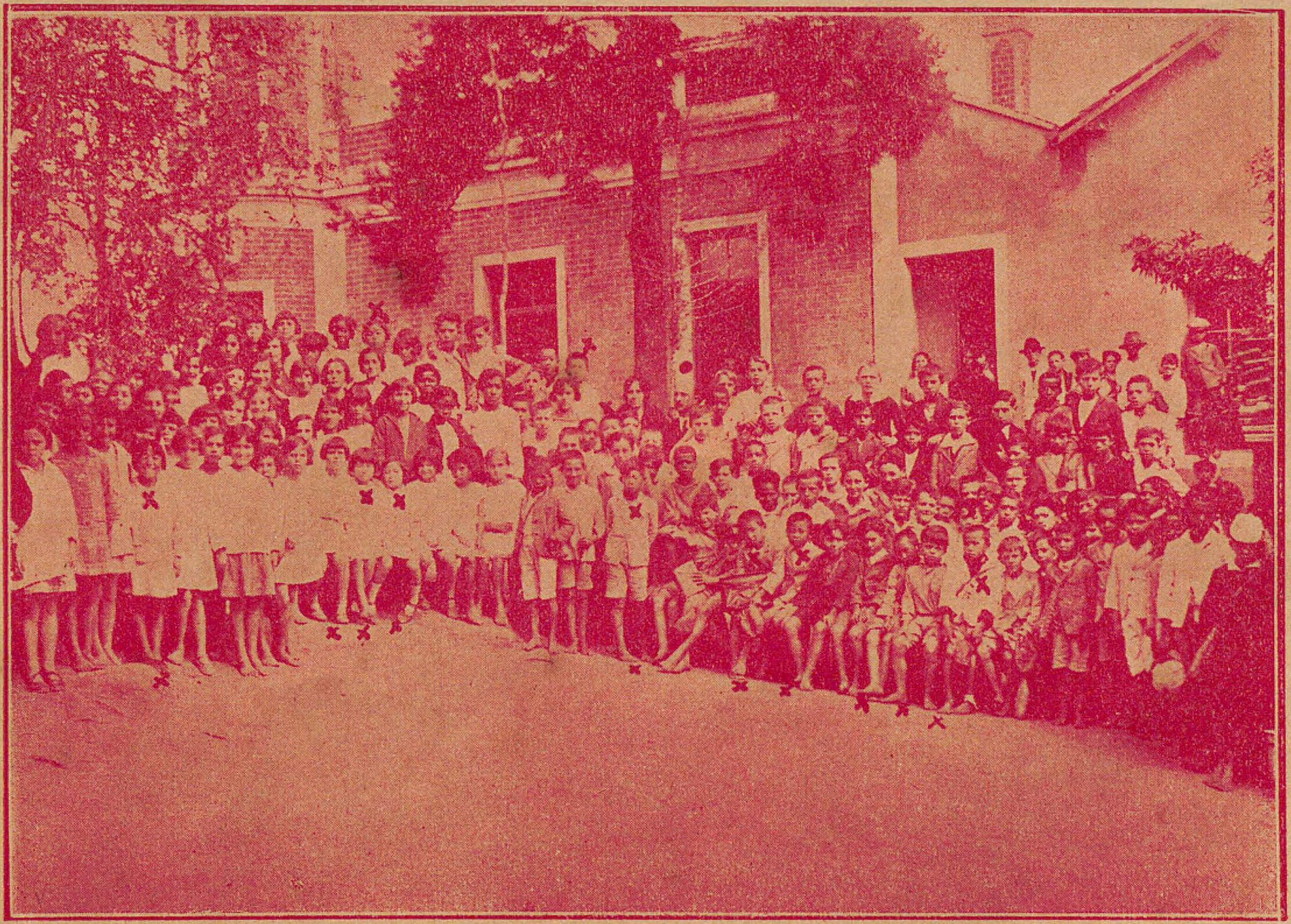


Pavilhões "Da. Gertrudes Pires de Campos" do Asylo da Divina Providencia em Itaquéra (Villa Carmozina).

當院は一昨年工事を起し漸く開院したのは昨年（一九二年）である、サンパウロ市に本院があり、デビナ・プロビデンシア童貞協會の經營にある。當イタケーラ支院は三つの大なる建物あり、尙今後二つの建物と寺院增築の豫定。

イタケーラ公立小學校の生徒の一部

當小學校には植民地より我同胞の子弟の通學するもの現今では三十五名に增加してゐる、一般日本人生徒は品行のよいのと學績の好いので先生方より特に可愛がられてゐる事は誠に喜ばしい。

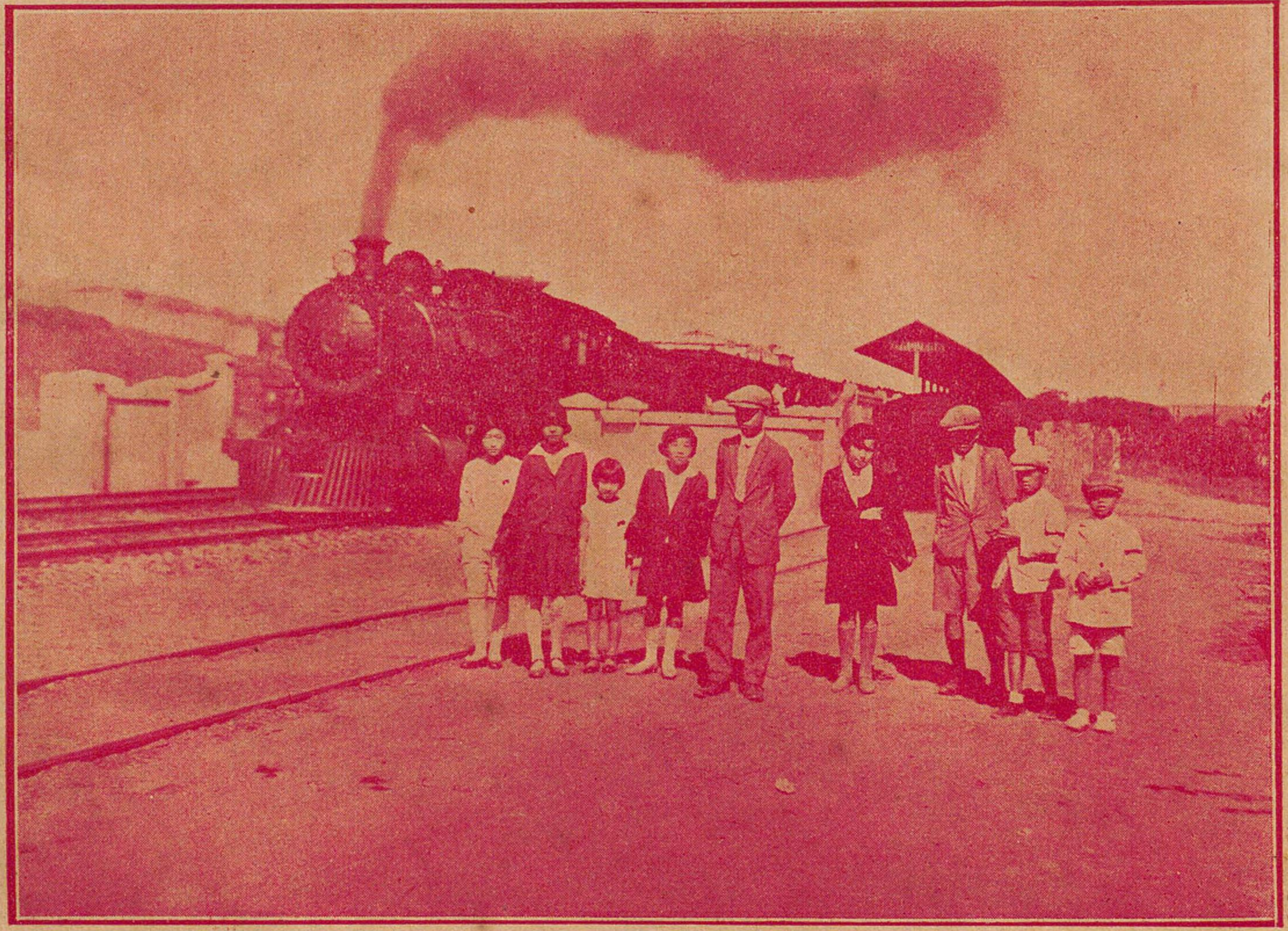


Professores e Alumnos do Grupo Escolar de Itaquéra.

當國小學校は在學期四ヶ年で卒業し其れから中學校、女學校に進むのである、圖中〇印は校長ミランダ氏、×印は同胞生徒、

植民地よりサンパウロ市の學校に通學する學生

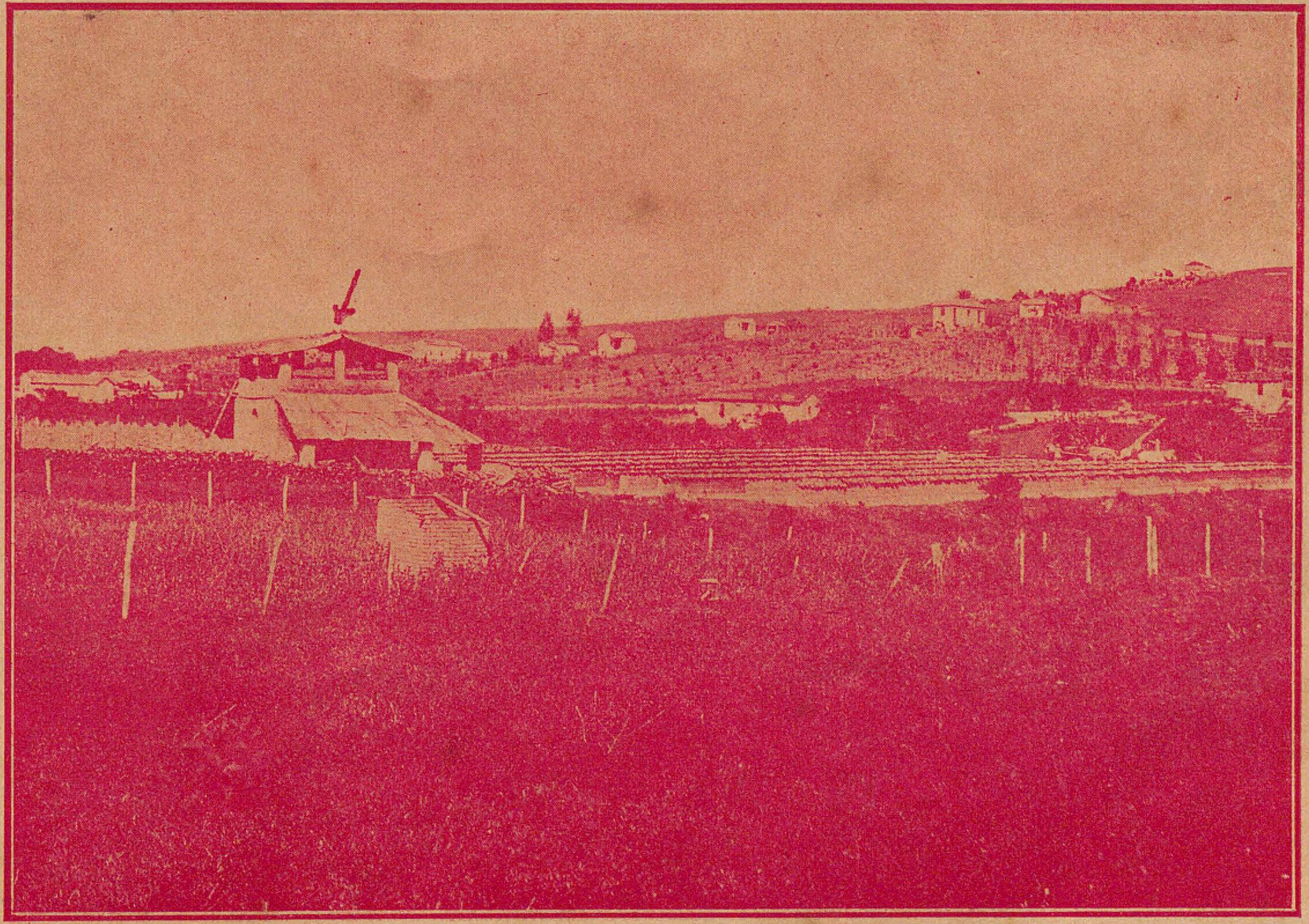
我在伯同胞の第二世の教育の必要は敢て說く迄もない、當植民地の父兄は碎身農業に從事しつゝ然も自己の子弟をサンパウロ市の高等學校に通學せしめつゝある事は當植民地の第一の誇である。



Grupo de estudantes japonezes de volta de São Paulo,
onde frequentam escolas superiores.

イタケーラ町郊外にある煉瓦工場

イタケーラ附近はサンパウロ市の大擴張に要する煉瓦の製産地の一部に入る、植民地の附近に二、三ヶ所の煉瓦工場がある、製造地であるから煉瓦は至つて安價で現價一千枚植民地着六十釺（日本金十四圓）內外である、圖中矢印は煉瓦燒の爐を示す。



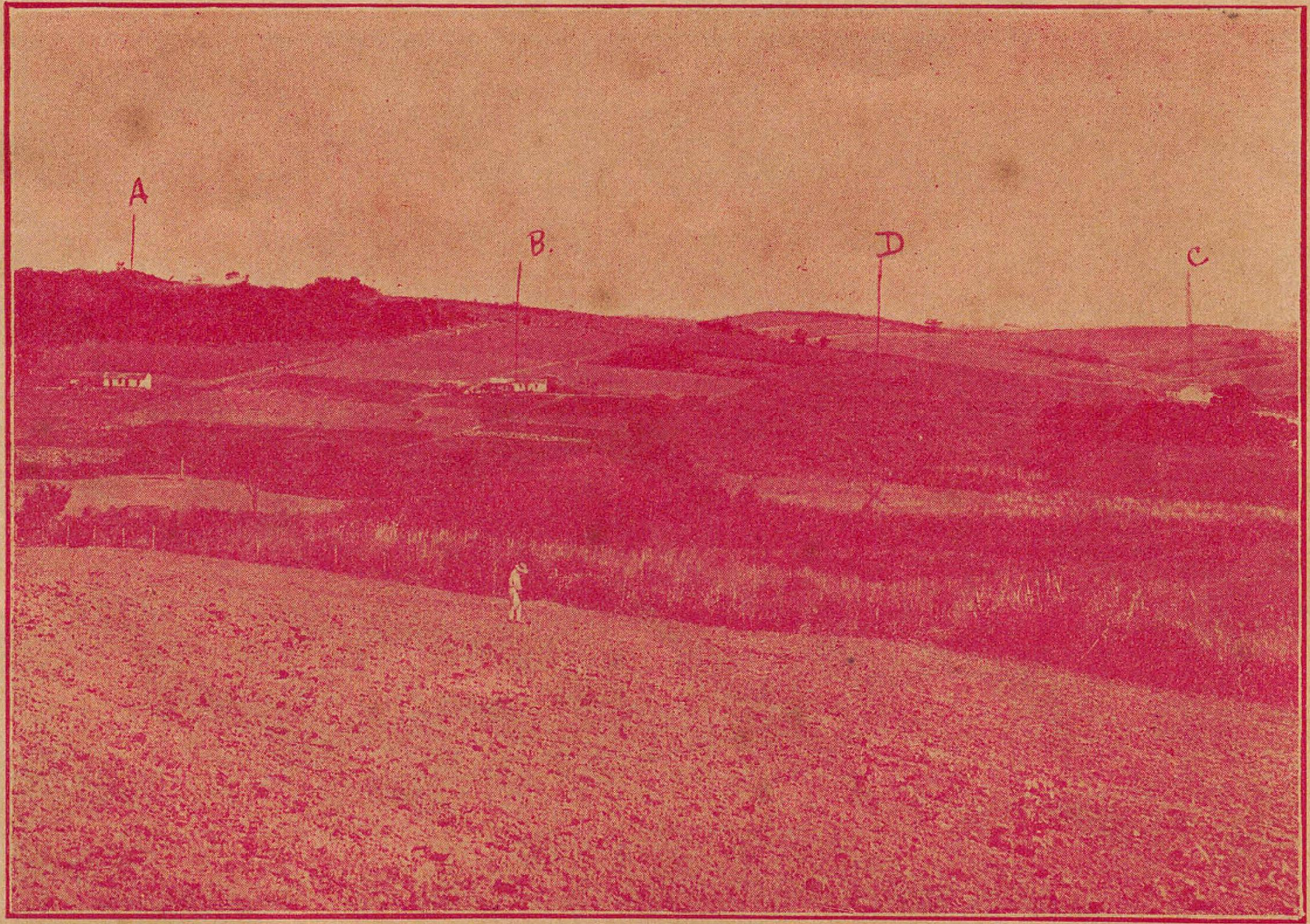
Uma das Olarias em Itaquéra.

當植民地の一部の光景

圖は押本瀧輔氏の畑よりジャクー河を越へ其の對岸地帯を眺む。

A、萬木繁氏の宅。

B、豊吉竹次郎氏住宅。



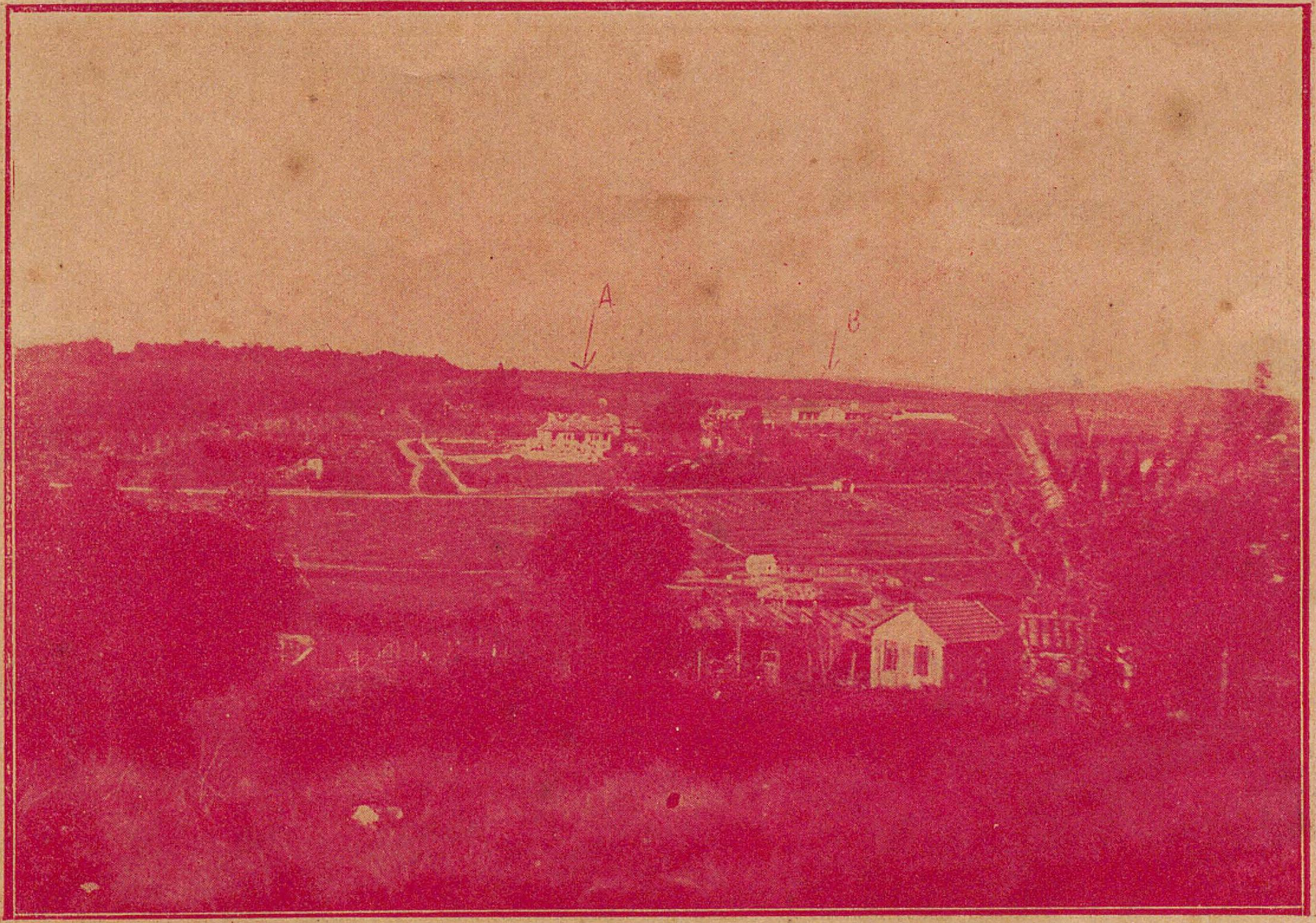
C、中村今朝吉氏の住宅。

D、當植民地共有の遊戯、運動塲敷地（二町五段）、將來は此處に青年會館、農事、圖書室、娛樂機關を兼備する建物を建設するの豫定。

VISTA PARCIAL DA COLONIA NIPPONICA EM ITAQUÉRA.

イタケーラ町の一部景

寺院の裏手の高臺より東方を遠眺すればジャクー河の岸畔に煉瓦大工場が見え、其の上方に見える大住宅。Ａは巻煙草王と稱せらるゝサバド・ダンゼロ氏の別莊である。Ｂは同氏の家畜場で搾乳用の五十頭内外の山羊と、多くの鶏が養はれてゐる。

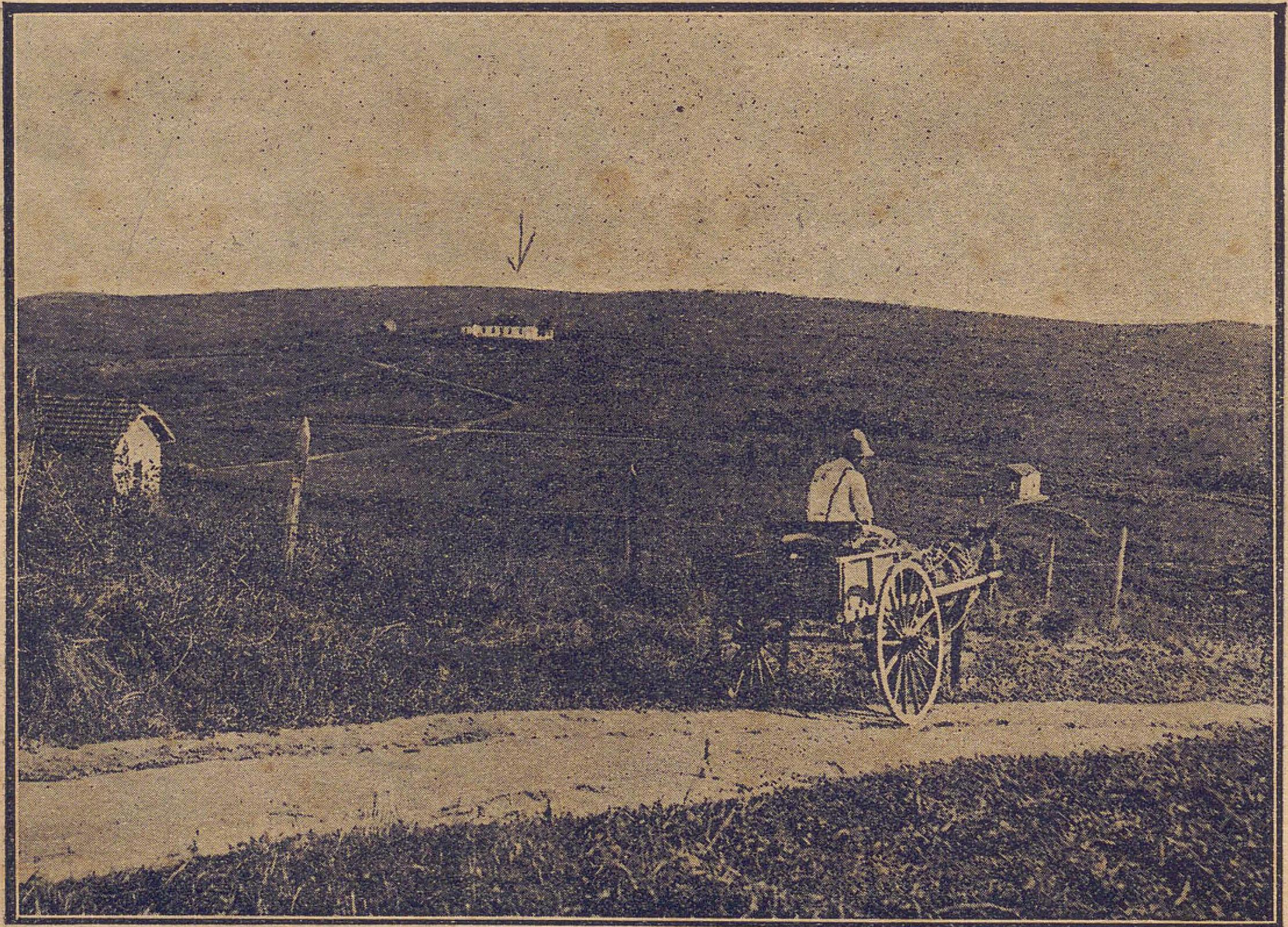


VISTA PARCIAL DA VILLA CARMOZINA (ITAQUÉRA)

植民地の入口の一帶の景

當植民地の入口地帶はジャクー河に沿ふた緩漫の傾斜地である。

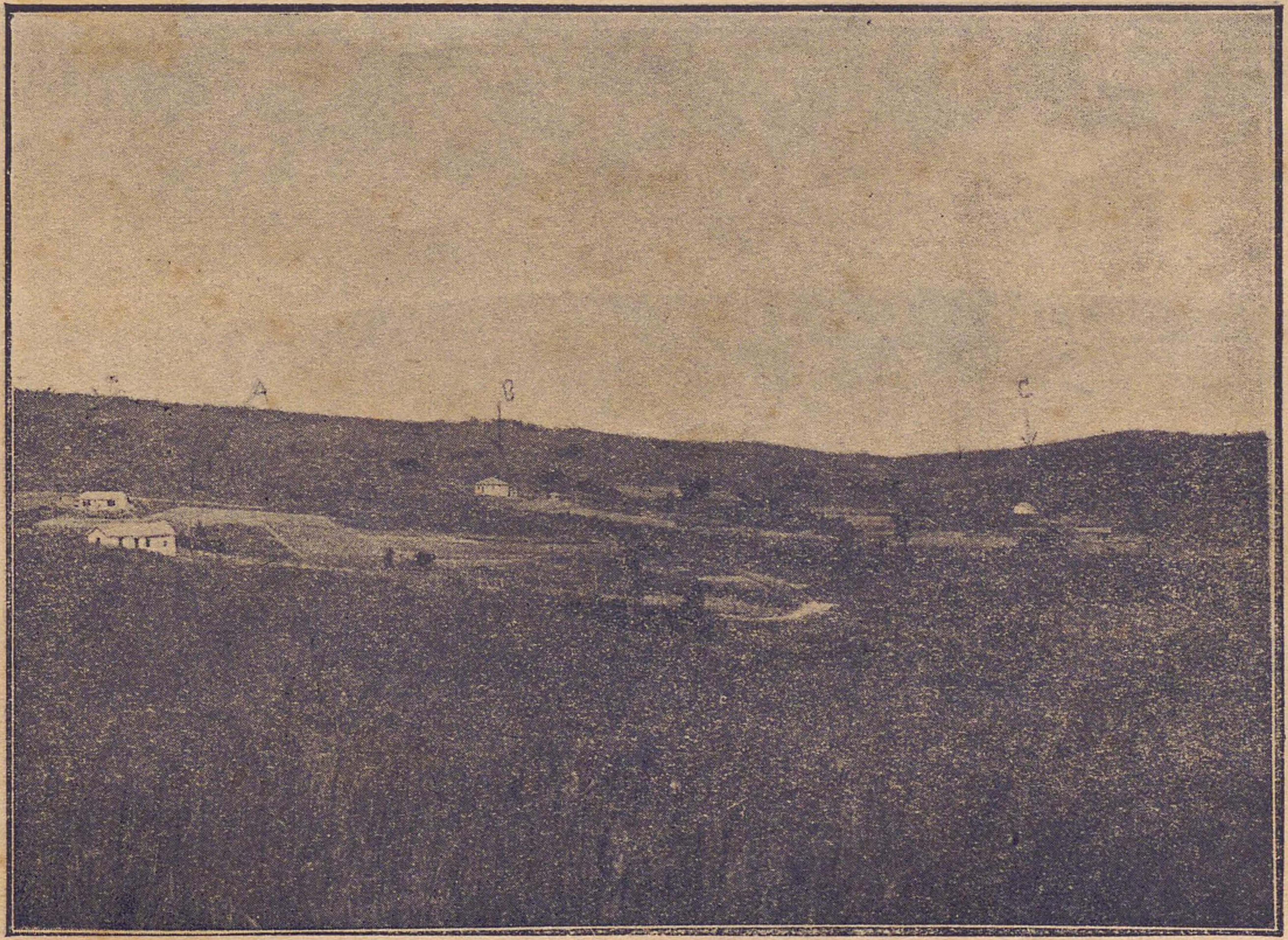
圖に矢印のある住宅は北海道人小笠原尙衛氏の建たもので部屋の數は七個ある廣莊な住宅である、今は此れに葡萄牙人の植民者が住む、亦圖中の馬車はイタケーラ町の豊吉商店のもので植民者の買入食料品を屆けるもの。



PANORAMA DA ENTRADA DA COLONIA.

當植民地のジヤクー河の沿岸地帯の景

ジヤクー河は當植民地の第一區、第二區を分つ最も大なる河である、植民地内を流れる諸流は皆此のジヤクー河に入る、ジヤクー河の水は年中を通じて實に美しい清流で其の支流も皆同様である、植民地内の流水の清い事は健康地である事實を證明してゐる。



Panorama de uma parte da Colonia Nipponica á margem do Rio Jacú.

圖中

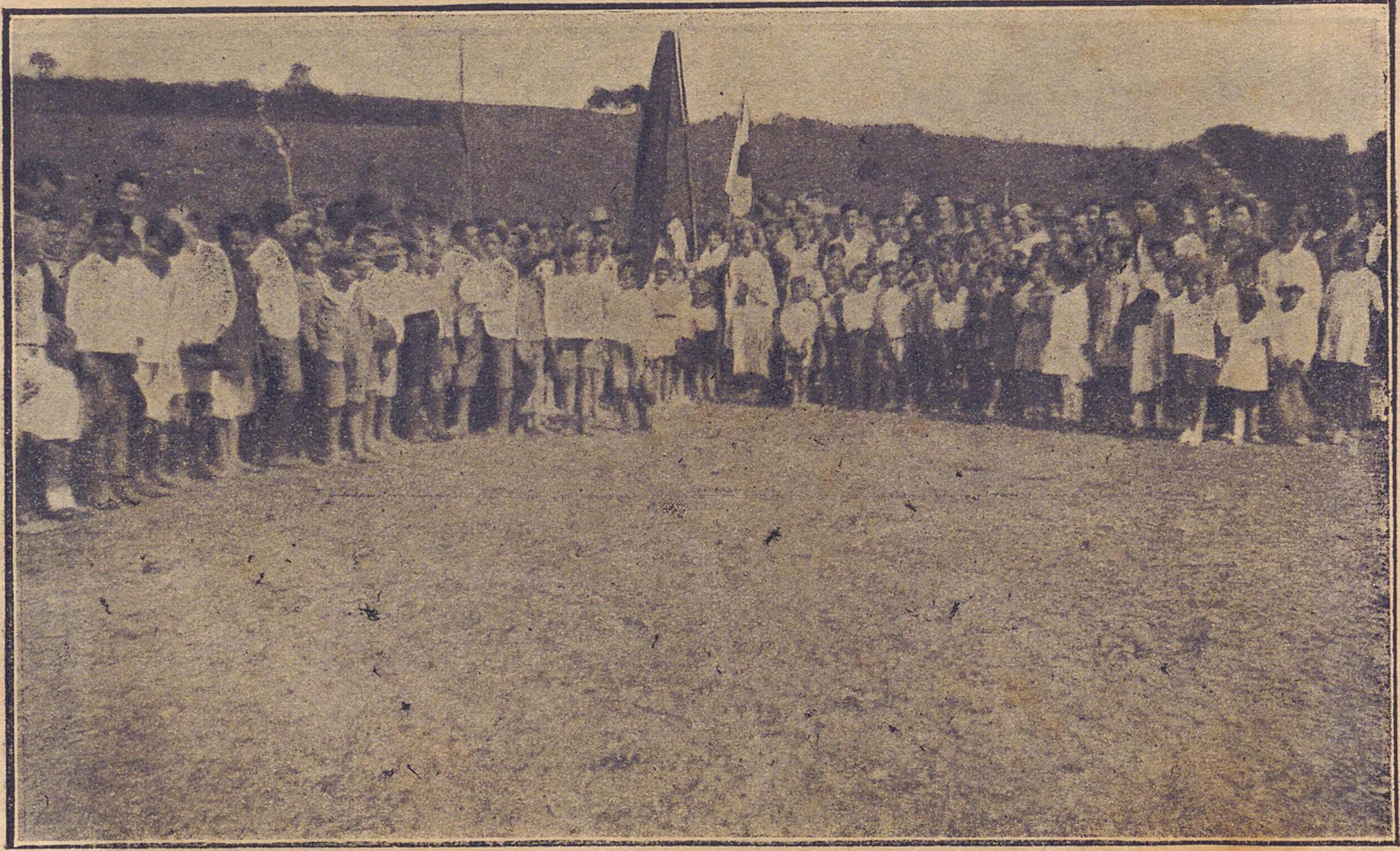
A、押本瀧輔氏住宅。

B、松本圭一氏宅。

C、永嶋巖氏宅。

共和運動會場に開かれた天長節祝賀運動會

毎年植民地では青年會員が主催さなり天長節には祝賀運動會が開かれる、今年は殊に日曜日を利用して此を催したのでイタケーラ町の小學校の生徒四百名は校長、教員に導かれて來會した、此にイタケーラ町エスコテーロ團員や競技團員も加はり招待された、聖市イタケーラ町の家族も數多く見受けられた。



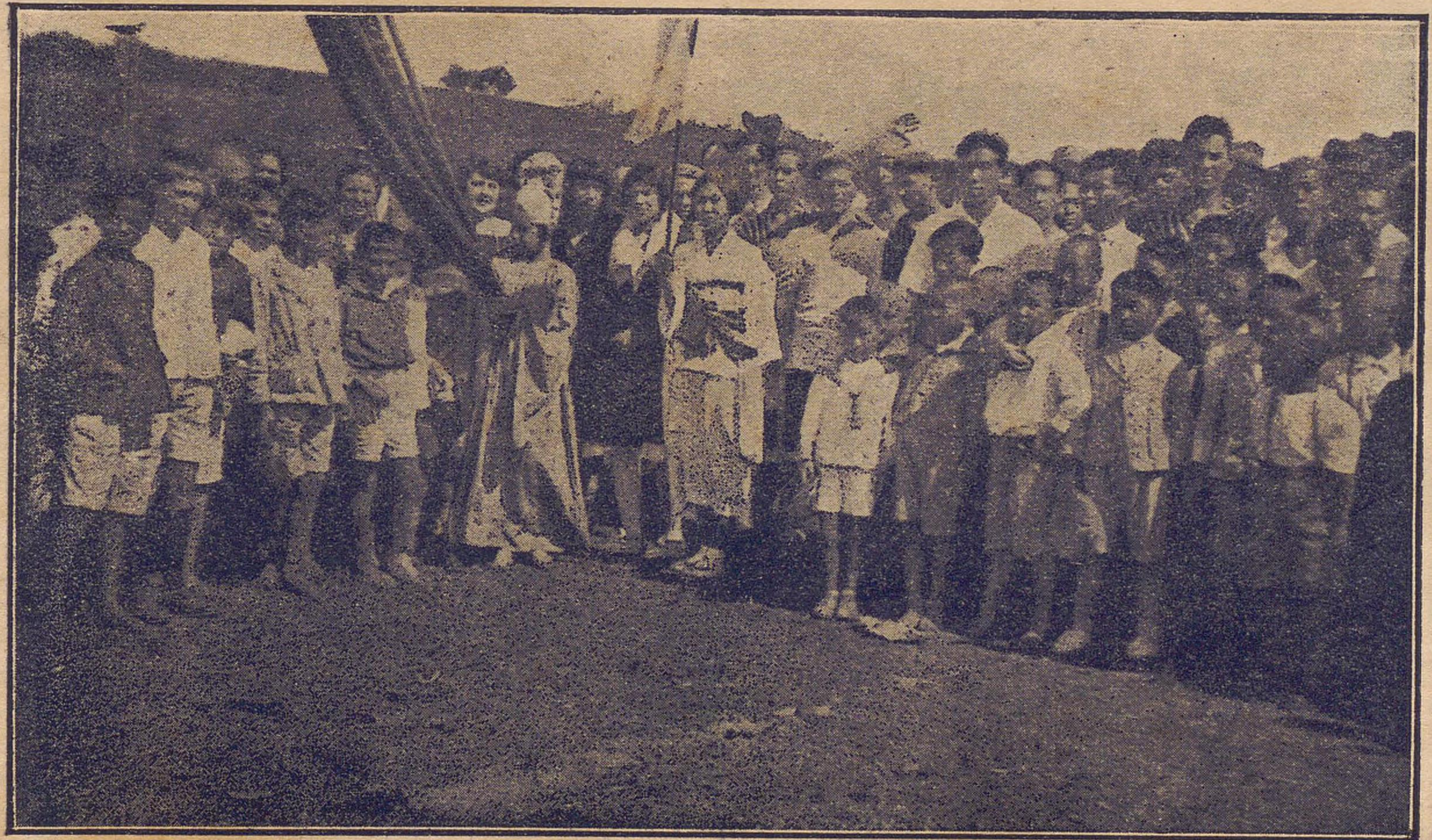
Festa na Colonia Nipponica no dia do anniversario do Imperador do Japão.

青年會員の企てた日本式の種々の珍しい競技が行はれた、日伯兩國の小供も婦人連も紳士連中も加はつて一日を樂しく笑ふて愉快に此の佳節を祝し合ふたのは何さ云ふても青年會員の大手柄で此が日伯親善の基礎さなる。

植民地に開かれた天長節の祝賀會

當地植民地では毎年天長節には共同運動場敷地に全植民が集つて祝賀式を擧げるを例とす。

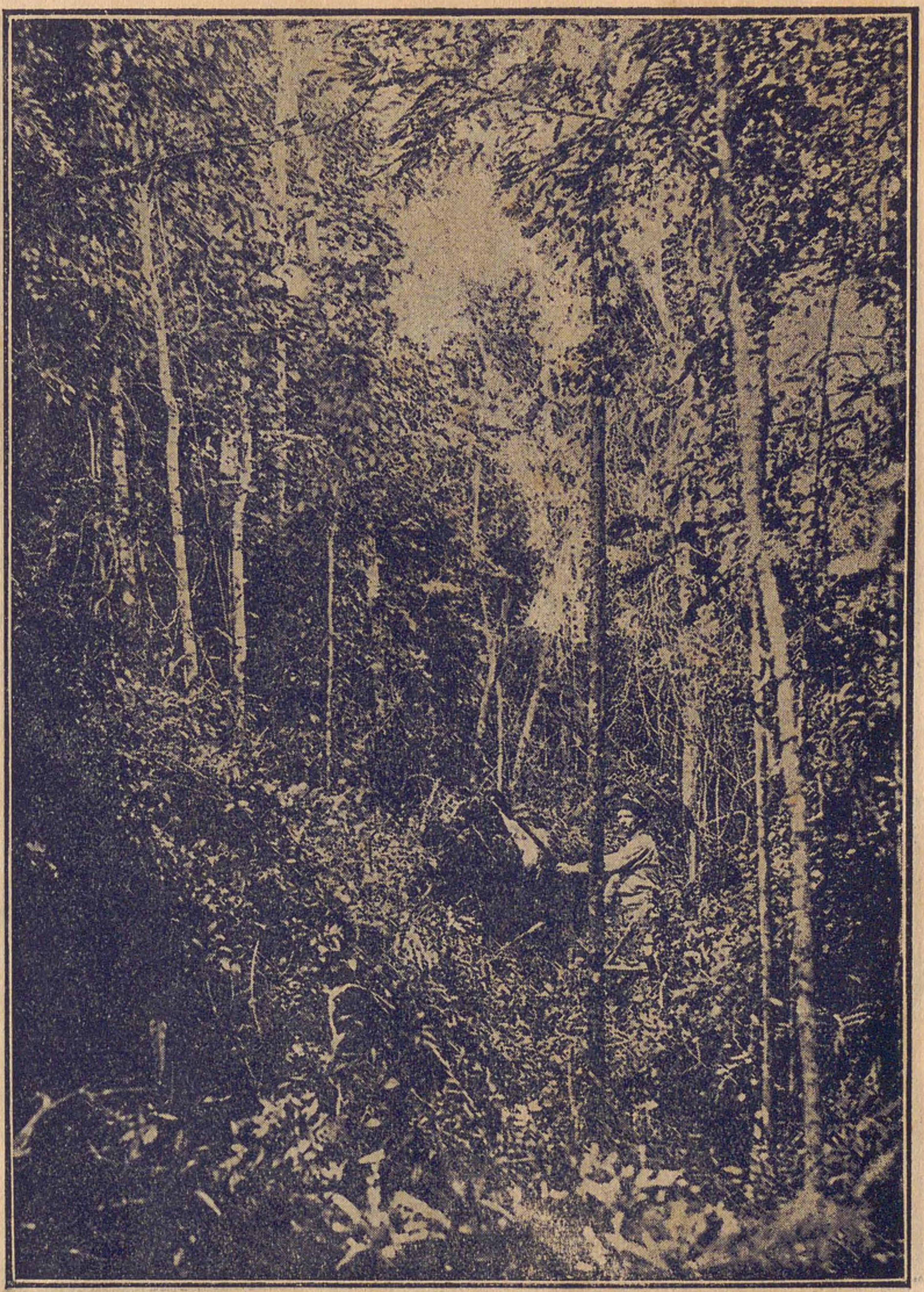
圖中、日本國旗を掲げ日本衣装するは高垣氏の令孃で、伯國旗を持つて共和女神を裝ふは石橋氏の令孃である、日伯兩國の學生々徒を初めとして兩國民が玆に集つて兩國々歌を唱ふて目出度く遙かに陛下の萬歳を三唱した。



Festa de Commemoração do anniversario do Imperador do Japão
realisada na Colonia Nipponica em Itaquéra.

MATTAS NA COLONIA NIPPONICA EM ITAQUÉRA.

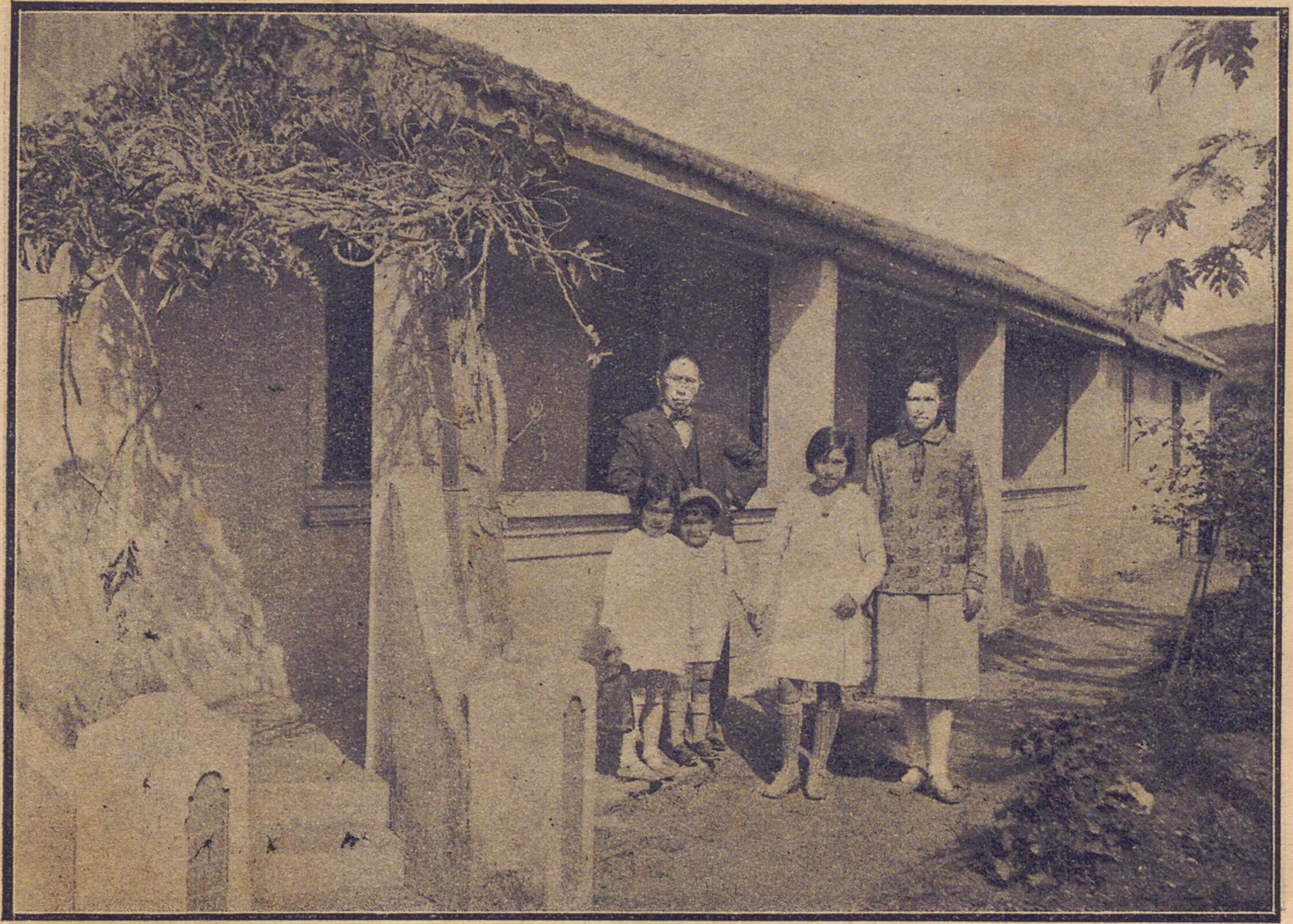
イタケーラ日本植民地森林の景



植民地に今尚殘る昔の森林の一部で圖中の人が手を置く黒色のものは切り倒されたる木の株である。一般に森林の地は地味肥沃である然し莫大な經驗を以つて木根を引抜き果樹蔬菜等を栽培するよりも木根のない所に肥料を買入れ培つた方が正確に然も迅速に資本の回收が出來る。

石橋恒四郎氏の住宅と家族

氏は北海道根室町出身、明治四十一年東京駒場獸醫科を出て直に故山縣勇三郎氏に從ふて渡伯、十有餘年間同氏は伯國聯邦農商務省の畜産技師を奉職して伯國各州を轉任したので稀なる農牧業には精通の人である、一九二一年以來サンパウロ市畜産局に駐勤以來郊外イタケーラ町に住宅建設官職の側ら果樹蔬菜の栽培を樂む、其れが緣故さなり一九二五年當植民會社の招聘に應じイタケーラ日本植民地の建設顧問さして働き從來の官職を辭し專ら當植民地の發展に盡力して居られる、同氏の令閨は伯國人であつて女子師範出身其れ故子女の敎育には特に熱心現に長女はサンパウロ市の高等女學校に通學中。



RESIDENCIA DO SNR. T. ICIBACI

石橋氏の果樹園に於けるパイナプル

石橋氏の果樹園に種々の果樹が植付けられて居る、イタケーラ植民者の果樹栽培に對し實際の實驗地である。

圖中にあるパイナプルはイタケラ地方で最も有望の果樹で、植付けてから一、二年で結實を初める、殆んど年中生產するからサンパウロ市に近い當植民地では此のパイナプル栽培は面白いものである、百個平均して三十鈩（七圓內外）一町步から一ヶ年一萬個の生產がある、パイナプルは近頃歐米に輸出が開かれて來た。

Cultura do ABACAXI na Chagara do Snr. Icibaci.

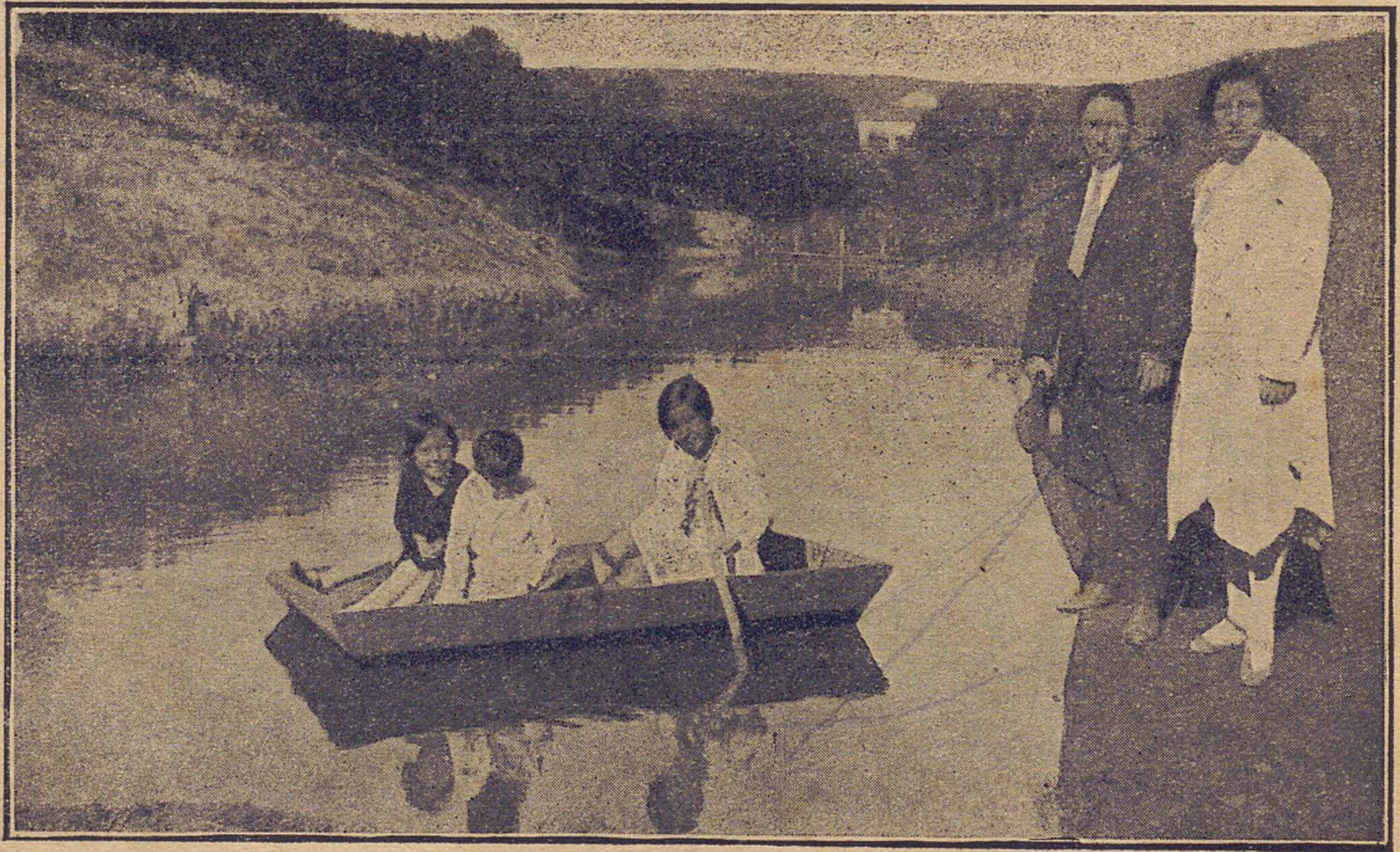
石橋氏の果樹園の一部

當地方では石橋氏は日本人中最初の果樹栽培者である、圖は一九二四年の秋に植付けた梨桃李を其の間に植付けたパイナプル畑である、同氏の果樹園での實績に因れば李桃は非常に立派な美味のものを產し頗る有望であるさ、現に日本人で一本の桃より平均二百鈩（日本金四十圓）の收穫を擧げて居るのがある。

SNR. ICIBACI E FAMILIA

同氏の農園内には小川があり其れを利用して溜池を作り、水の落差を利用して自動水力ポンプを据付けてある、是れは晝夜絶えず水を高い畑地のタンクに壓上げる便利のもゝである、

石橋氏の農園内の池畔



LAGÔA NA CHACARA DO SNR. ICIBACI.

池は當地方で鯉の飼養に最も有望で同氏も其れ目下計畫中である、食後夕色斜の頃家族打揃ふて池畔に戯れる、田園の眞の趣味は玆にあるのである。

菅谷咸氏の果樹園と家族

氏は東京府下世田ヶ谷村出身、大正十一年渡伯、一九二六年當植民地入植、當植民會社より測量技師として招聘され亦同時に植民地の萬事の世話をしつゝ専ら植民地の發展に盡さる、果樹園は漸く滿三年主として蜜柑、リンゴ、柿等で蜜柑の發育は圖に見るが如く成績が良い

PROPRIEDADE DO SNR. K. SUGAYA.

菅谷咸氏果樹園のレモンの樹

LIMOEIRO NA CHACARA DO SNR. K. SUGAYA.

植付てから満三年のレモン當植民地は特に此の種類の發育は一般に良好である。レモンの樹の生育する地方は氣候の順良なるの徵さする。圖中の青年は菅谷氏の長男正雄君でイタケーラ町小學校を卒業後サンパウロ市公立中學校に入學現時二年生で毎日植民地の私宅より通學してゐる。級中でも學績非常に良い末頼もしい第二世の在伯同胞である。

高垣忠兵衛氏の苺栽培

氏は和歌山市出身、大正十五年渡伯、直ちに當植民地に入る、氏は山口高商を卒へた人に似ない農業に熱心である、目下二段歩半の苺の大栽培をなし、毎日盛んに市塲に送出して居る千五百籠の收穫の豫想、苺丈で十五コントス（日本金三千八百圓）の收入の見込、此の外にトマテ一萬本、キウリ一萬本、イタリヤ南瓜一段半を栽培中である。

Grande Cultura de MORANGOS do Snr. T. Takagaki.

先頃より一九二五年オリムピツク競技にレスラの日本選手として有名な内藤氏はアマゾン河より來て高垣氏と共同蔬菜栽培をなして居る、内藤氏は高農出身で學術兼備の人、二人相援け合ふ時必ずや見るべき發展が現出するであらふ。

服部秀吉氏の苺栽培

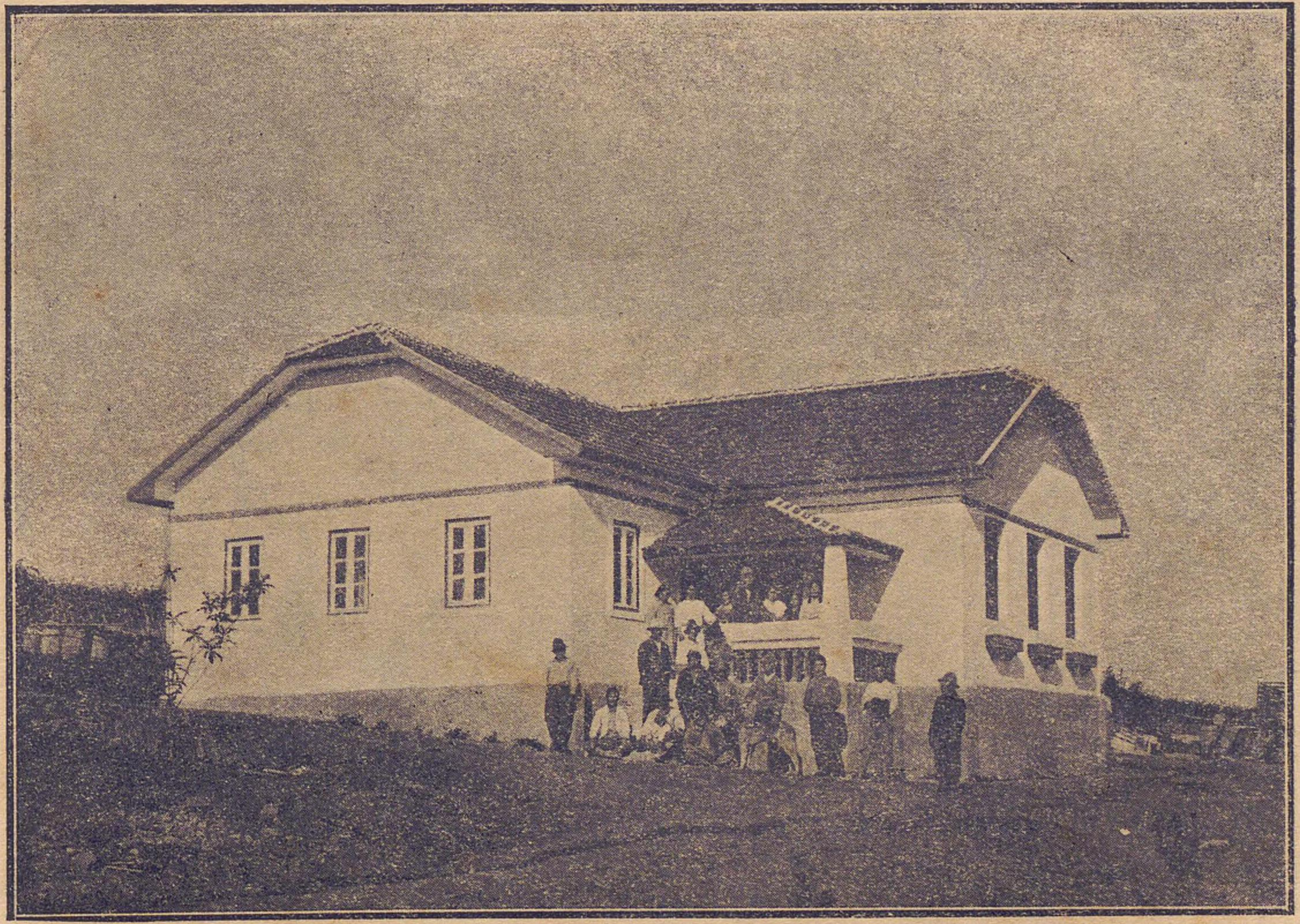
氏は茨城縣稻敷郡瀧ヶ崎出身、大正十一年渡伯、大正十五年當植民地に入植した。苺栽培は氏が今年初めたもの、面積二段歩、小川の流水をガゾリナ發動機ポンプに利用して苺畑を容易に灌水出來得る樣裝置してゐる、發育がよく一段五〇〇籠收穫の見込、平均十舒

Cultura de MORANGOS do Snr. Hattori.

と見て十コントス（二千五百圓）の收入を持つ、此の外トマテ二千本、イタリヤ南瓜一段歩を栽培してゐる、圖中に見る少女は同氏の長女で毎日植民地からサンパウロ市の高等女學校に通學して居られる。

中村氏の新築された住宅

中村今朝吉氏は當植民地内最大の地主であり亦蔬菜の最大栽培者である、同氏は齡五十八歳なるも健康勤勉振りは壯者を凌ぐ、然も四人の子息皆協力一致父を助く成功の所以は實に其である、新しく日本よりも數家族を呼寄せて益々盛大に發展しつゝあり、家族員、雇人の增加に伴ひ昨年工事を起し先頃漸く廣大莊麗の住宅が出來上つた、其れで同氏は既に耕作地内に都合三軒の住宅を有するのである。



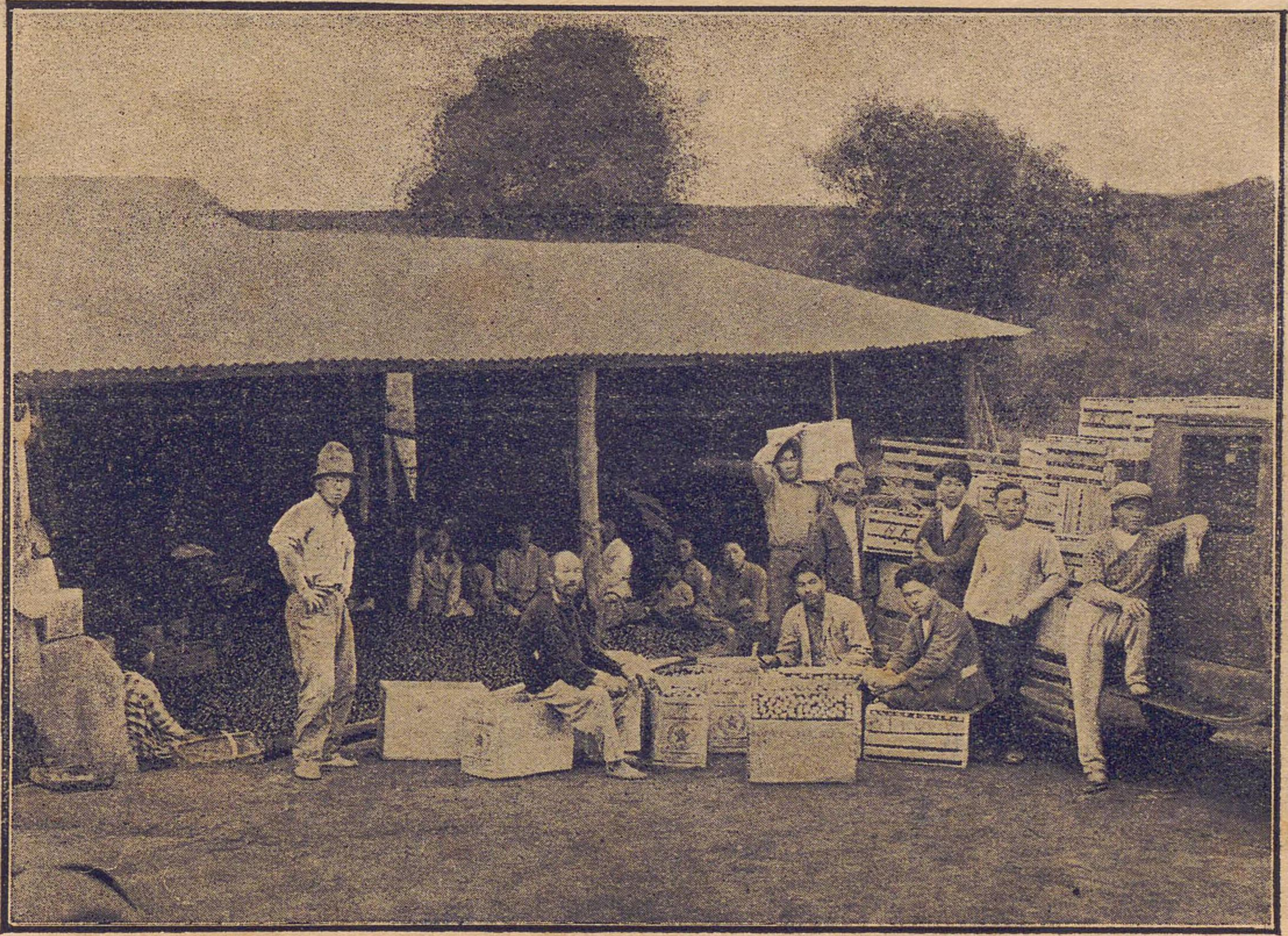
Moradia do Snr. K. Nakamura na Colonia Nipponica em Itaquéra.

中村今朝吉氏の六萬本トマテ畑の收穫

當植民地で今年度のトマテ畑では同氏の此の畑が最大である、此頃殆んご收穫が終了した、一千本平均して四十箱、約二千五百箱が收れた、平均して一箱三十釺で全收入は七十五コントス（日本金一萬八千圓）である、此のトマテが終れば此の畑に六萬餘のキウリが植付けられる、此の畑の外に下方に亦一町二段の低地キウリ畑が準備中である、一本のキウリの枝から四本の結實さ見て十二ダース入一箱さ計算し、二千五百箱さなる、一箱平均十釺が例年の相場である。

Colheita de TOMATES (60.000 pés) do Snr. Nakamura.

中村今朝吉氏のトマテ保管所と其の荷作り

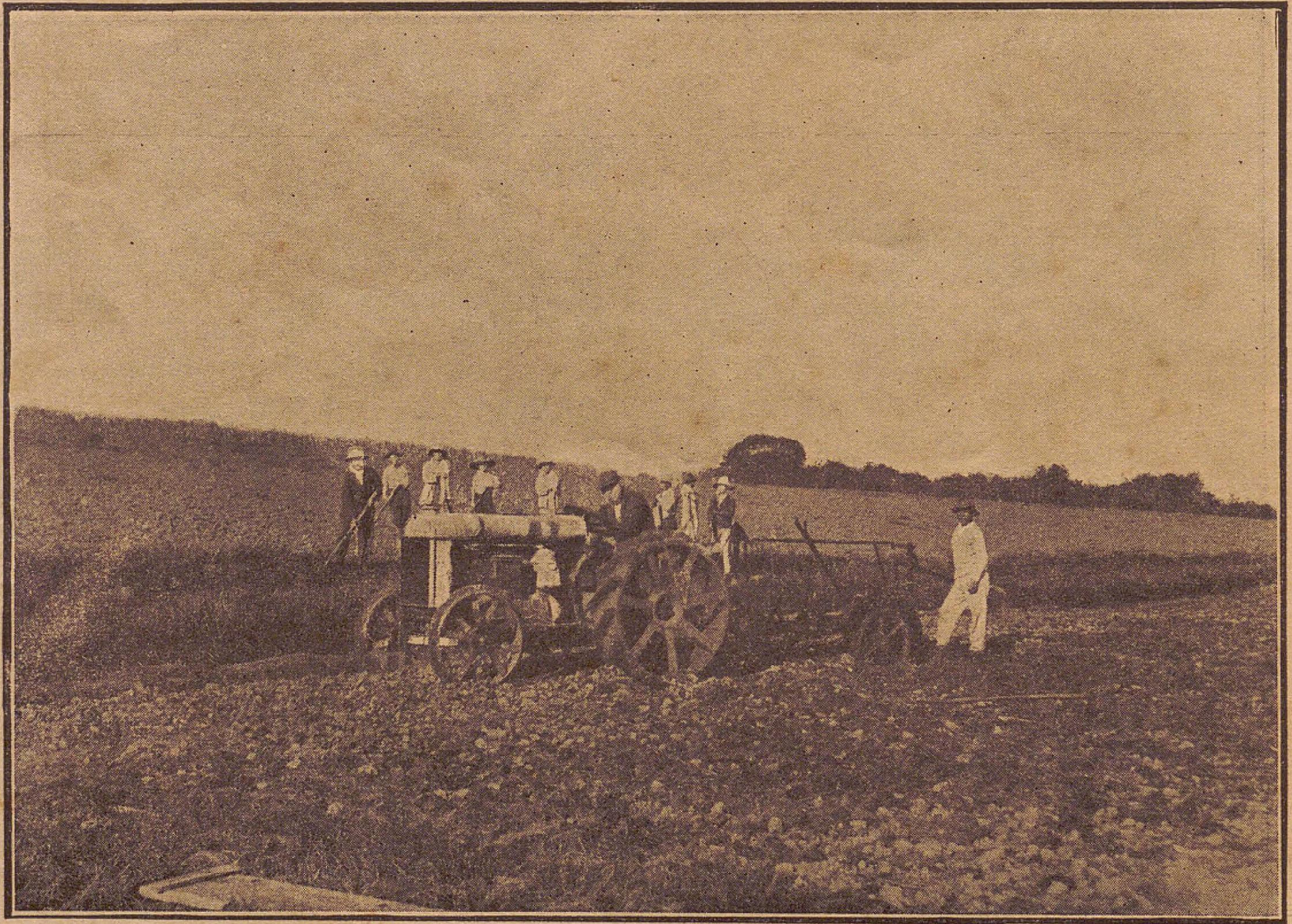


Encaixotamento de TOMATES colhidos na propriedade do Snr. Nakamura.

當植民地の蔬菜栽培中トマテは最も主要なる産物である、中村氏の如きは一度に一畑に五、六萬本を植付くる、一千本のトマテから平均して一、〇〇〇—一、五〇〇基瓦の收穫がある。

圖は收穫したトマテの保管所と貨物自動車で直接に市場に出す可く箱詰中である。

中村氏のキウリ畑の耕耘の景

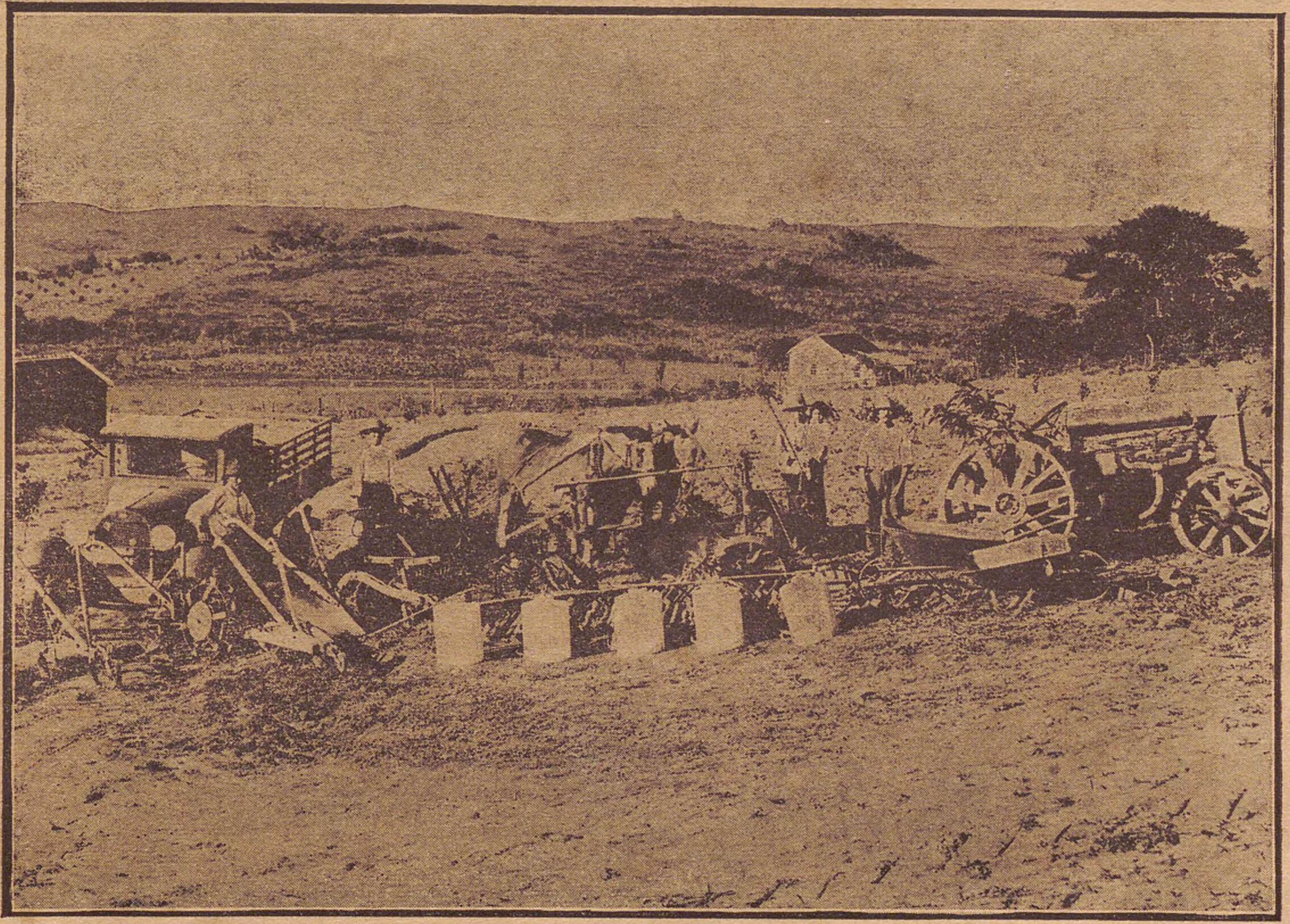


O Snr K. Nakamura faz a Aração de seus Terrenos com Tractor.

サンパウロ市の青物市場で冬期のキウリは非常に高價である、其の好期に出す可く中村氏はキウリ畑をトラトールで耕耘中である、亦同氏は冬期の霜に對して豫防策さして米國カリフオルニヤ州で近時灌漑に用ゆる廻轉噴水装置を實行してゐる。

蔬菜作と云へば日本では鍬一本腕一本で充分の樣に思はれるが、當植民地の植民者は一般に作付面積が廣いから種々の大農具機械を要する、殊に中村氏の如きはトマテ畑（六萬本）キャベ（三萬本）伊太利南瓜（幾萬株）甘藍四五町歩を一時に蒔付管理するので、種々の多數の農具と機械を用意してゐる。

中村氏の畑に使用する種々の農具と機械

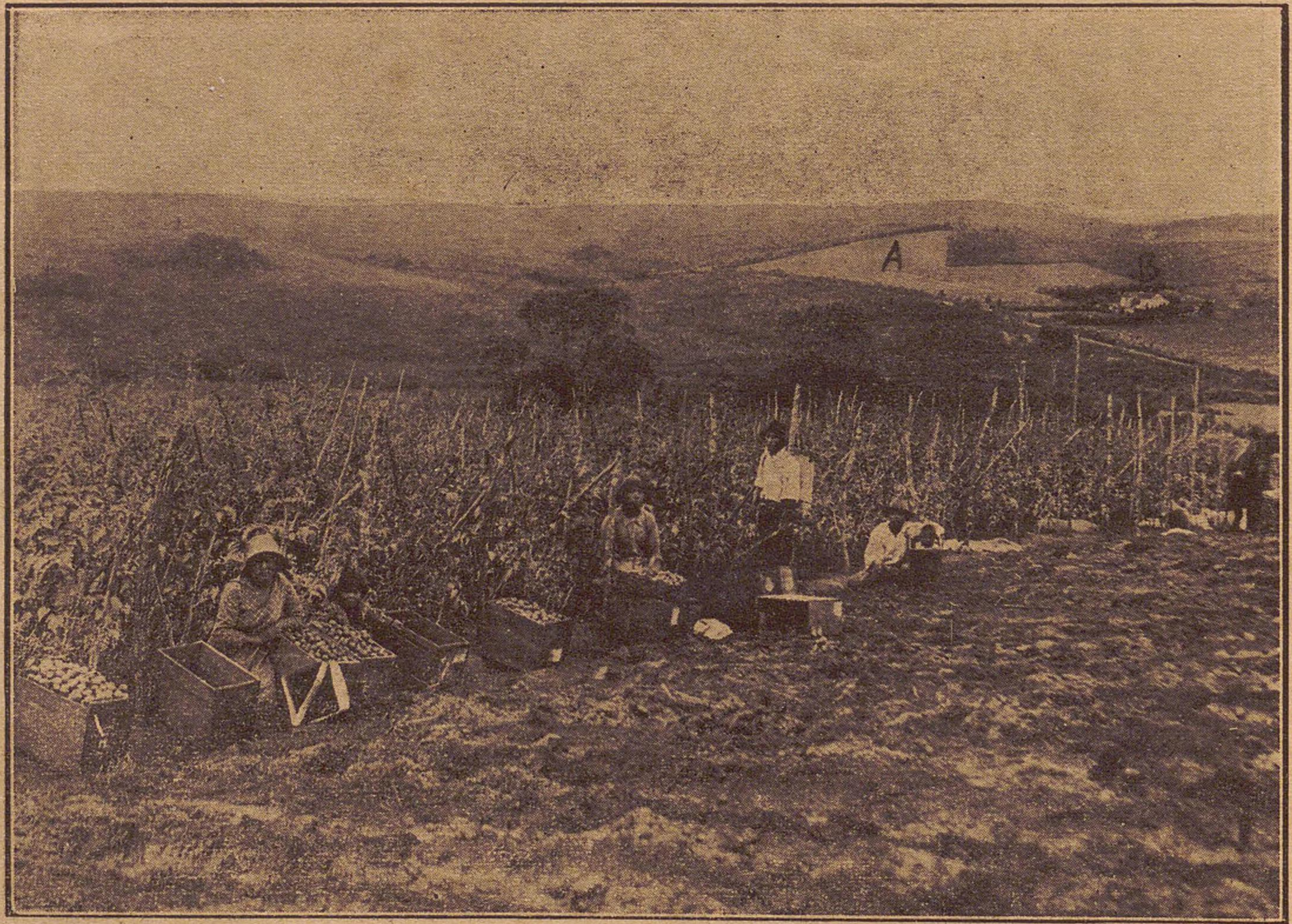


MACHINAS E APPARELHOS AGRICOLAS DE PROPRIEDADE DO SNR. K. NAKAMURA.

圖中にある主なるものはトラター・ホルドソン、此に附屬の大農具、カデン・トラター・ホンケード、二臺のカミニオン其の他馬曳用の農具一切とパルケル除草機等で價額を總計すれば少なくとも二十五コントス（日本金六千圓）内外、これに吸上ポンプ發動機、鐵管等を加へたら優に三十コントス（七千圓）の巨額に達すると思ふ。

豊吉竹次郎氏のトマテー畑の收穫

豊吉氏は北海道十勝國加東郡出身、大正十三年渡伯同十四年入植す、令兄眞水路氏がイタケラ町の商業に從業する樣になり現今は獨立自營して居る、圖は一萬本のトマテ畑の見事な豊作の收穫である、此の外に二反歩半の伊太利南瓜、花椰菜畑二反歩内外を栽培中である。



Colheita de TOMATES na Propriedade do Snr. T. Toyoshi.

今のトマテーが終了すれば次回には同じく一萬本を蒔付くる準備に忙しい、圖のB印は押本瀧輔氏の住宅と其の畑Aが遠く眺むるの景。

萬木繁氏のトマテー栽培

萬木氏は東京の人、昭和三年渡伯、同五年當植民地に入植された、同氏も山木辰藏氏と同様に獨身の青年である、三人の青年と固く協力和合して其の農事に勵しんでゐる事は近代浮薄に流れる青年に取つての良模範となる。

Cultura de TOMATES pelo Snr. S. Yorogui.
(K. Yamamoto)

圖は一萬五千本のトマテーの手入中で此と同時に四千本の花椰菜をも栽培してゐる、來る季節には五萬本のトマテーを栽培する計畫だと物語るを聞く丈でも心地がよい。

萬木繁氏の農園の耕耘

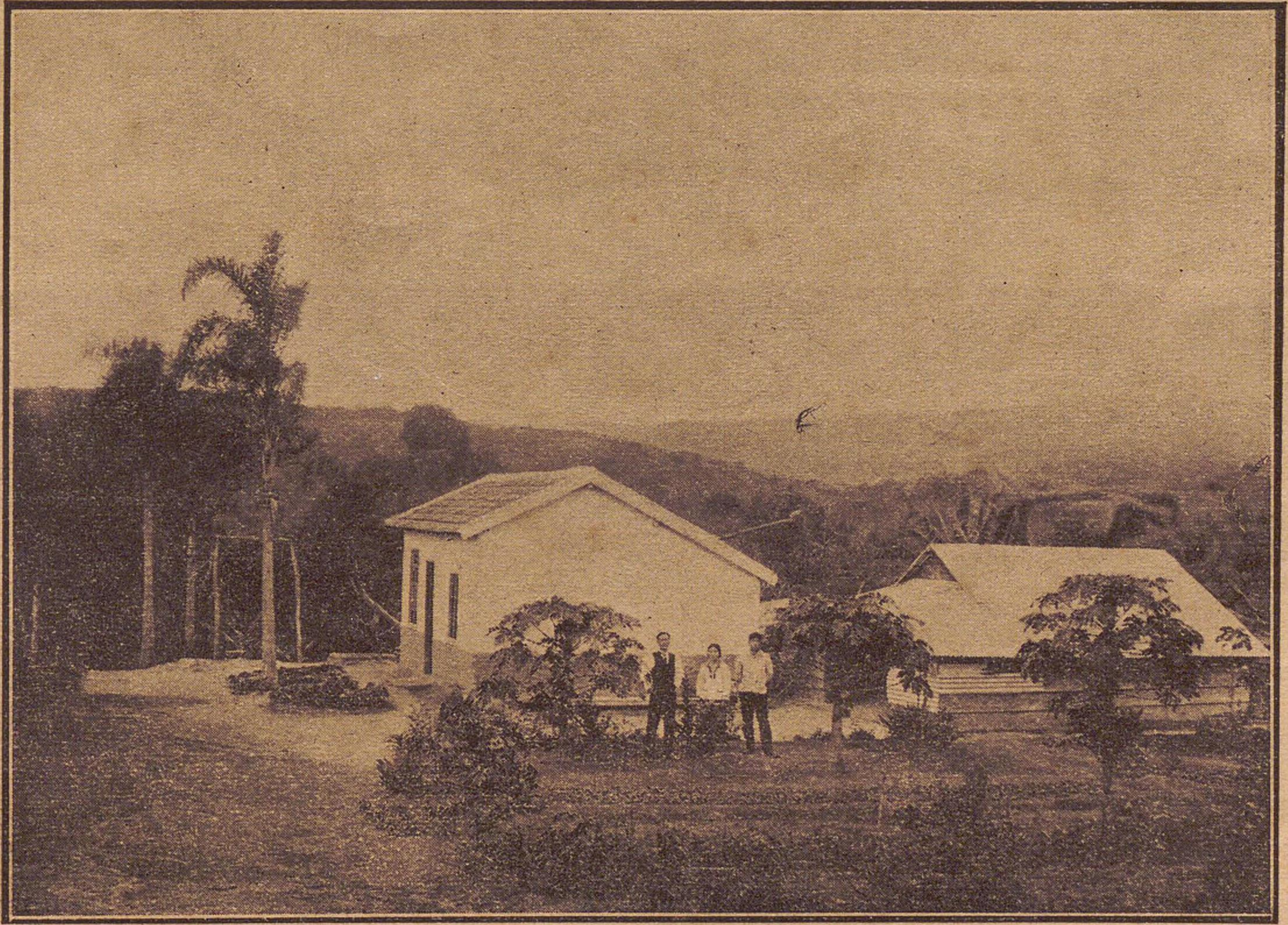
Arando Terra na Propriedade do Snr. Yorogui.
(K. Yamamoto)

同氏の畑は全部で六アルケーレス（十五町歩）主としてトマテー栽培が盛大である、此外にコーベ・フロール（花椰菜）四千本を植付けてゐる、此は平均して年中相場は一ダース三釬である、圖は同氏の畑のトマテー畑の耕耘中で後方白色のものは花椰菜である。

乾俊衛氏の住宅

乾俊衛氏は北海道札幌市出身で北星協會員である、伯國を見ない内に已に能く調査し研究された結果當植民地を撰擇し昭和三年來伯直に入植された、氏は元來農業に經驗がないので入植直ちに知人豊吉増二氏の畑に落付き、實地練習に從事した、現今の農園を新しく開發なした堅實の人である。

圖は同氏の住宅で後方にあるのは農具、收穫物保管小舍である、天然にあつた棕呂樹を利用し庭前に風致を添へた點は新しい今後の入植者の良參考さなる。



Residencia do Snr. T. Inui.

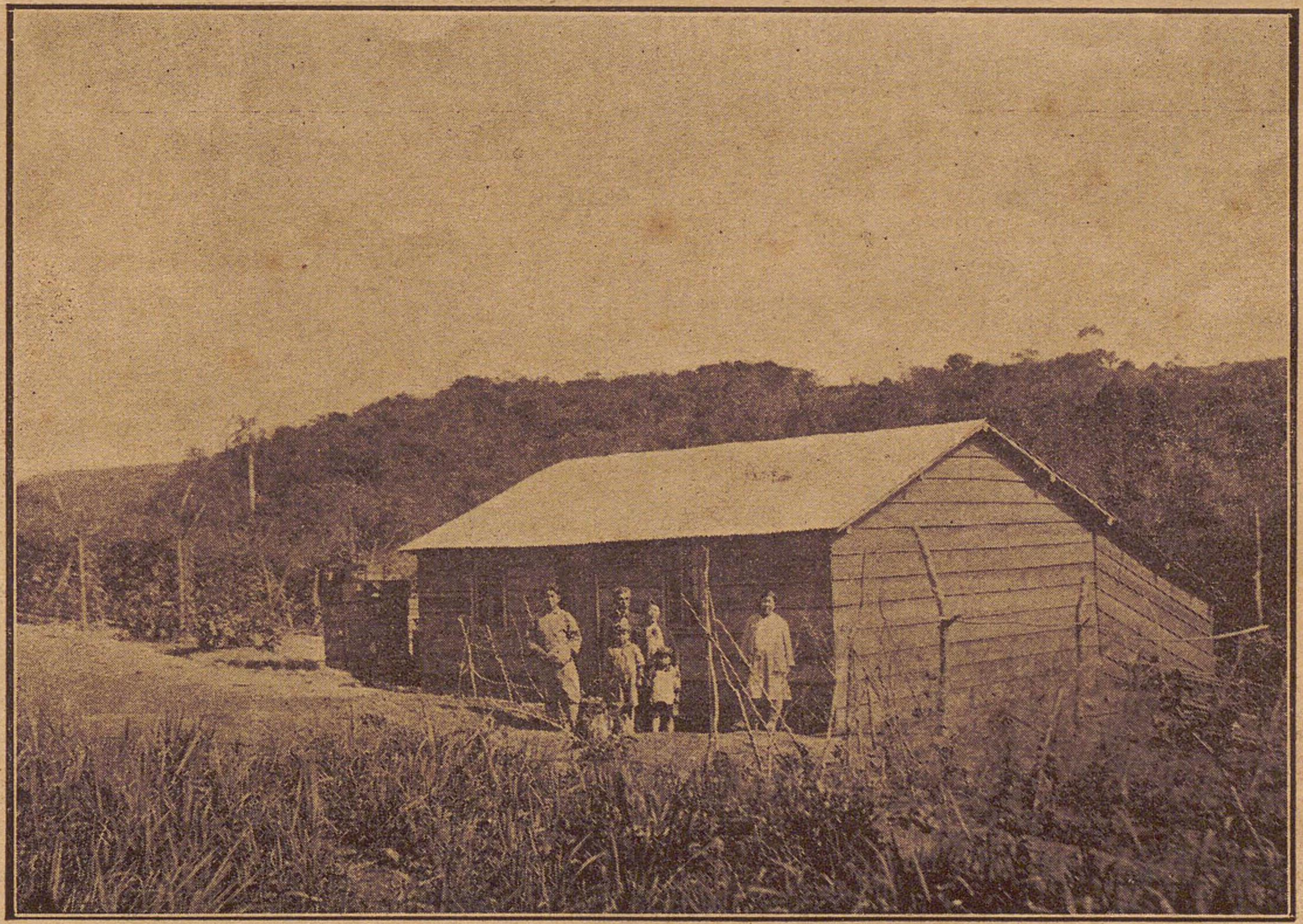
乾俊衛氏の農園

氏は當植民地で愈々適地を撰び農事に從事してから約二ヶ年に成る、今日迄八千本宛四同トマテーを栽培し益々多く實驗を積まれて相當の收穫を擧げつゝある、蔬菜栽培をやりつゝ必づ漸次果樹栽培に移る可しとは氏の根本意見である、昨年迄に已に六百本からの蜜柑を主として植付け、今年は少なくとも五百本を植付ける準備中である。

Lavouras do Snr. T. Inui.

柳生兵衛氏の住宅と家族

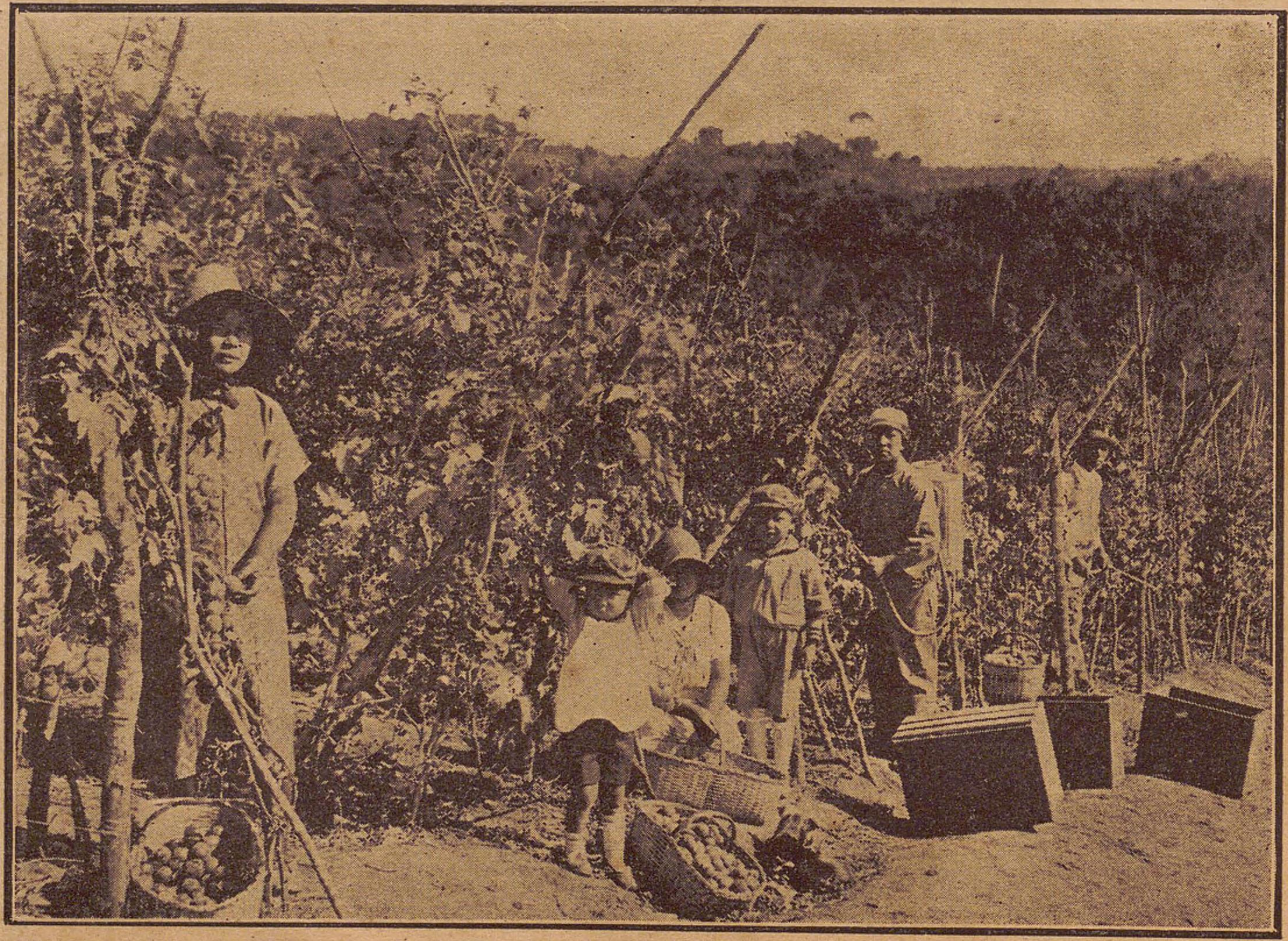
柳生氏は北海道札幌郡豐平町出身、昭和四年來伯、直に當植民地に入植された人である、住宅建築を急いだので日本式で板張と云ふ作り方、住み心持のよい經濟的家屋である。



SNR. YAGUIU E SUA FAMILIA.

柳生氏のトマテー栽培

氏の此のトマテー畑の發育のよい事當植民地中屈指である、植付本數一萬二千本、今丁度出盛りで忙しく家族總出で收穫中、氏は故國では全然農業に經驗のない初めてトマテーと云ふものを當植民地で先輩入植者から教へられて作つたので、其れで中々苦心しましたと苦笑しながら物語る處に意味がある。

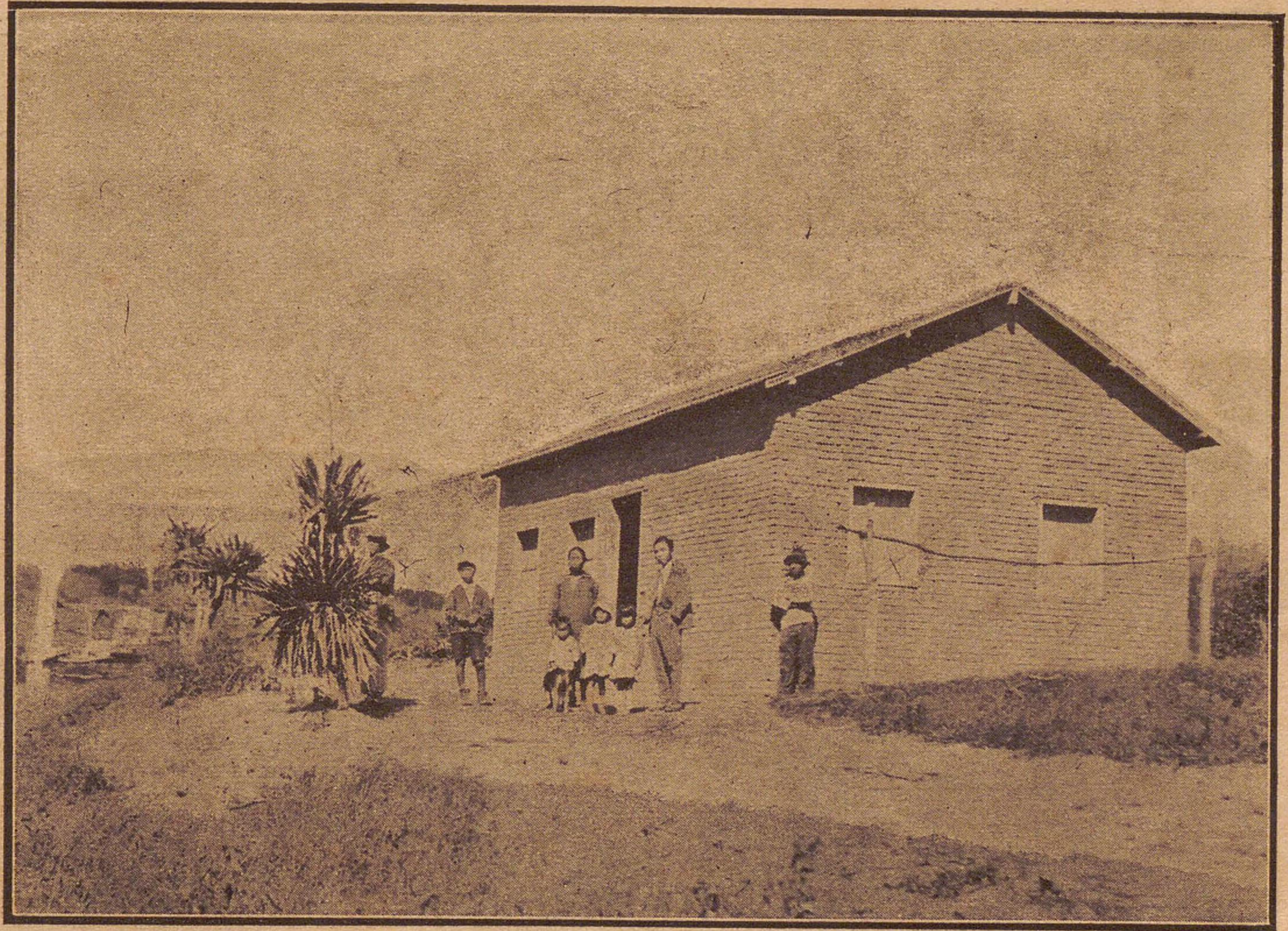


Cultura de TOMATES na Propriedade do Snr. Yaguiu.

3

700
24
31

森光次氏の住宅



SNR. MORI E SUA FAMILIA.

森氏は長野縣南安泉郡梓村出身、昭和三年來伯、同年當植民地に入植す、主作はトマテーで苗の一萬本が已に美しく發育して居り近い内に移植する準備中。

園原千鶴氏のトマテー栽培

園原氏は長野縣下伊那郡伍和村出身、大正十一年來伯、同十四年當植民地に入植、昨年初めて苺を栽培し相當に儲け、今年も二段歩内外の苺畑を經營す、同氏は圖に見る如くトマテー（八千本）も見事に栽培して居られる、苺は毎年五月末より十二月で終るので、年の半期は他の野菜栽培が出來る。

CULTURA DE TOMATES NA PROPRIEDADE DO SNR. SONOHARA.

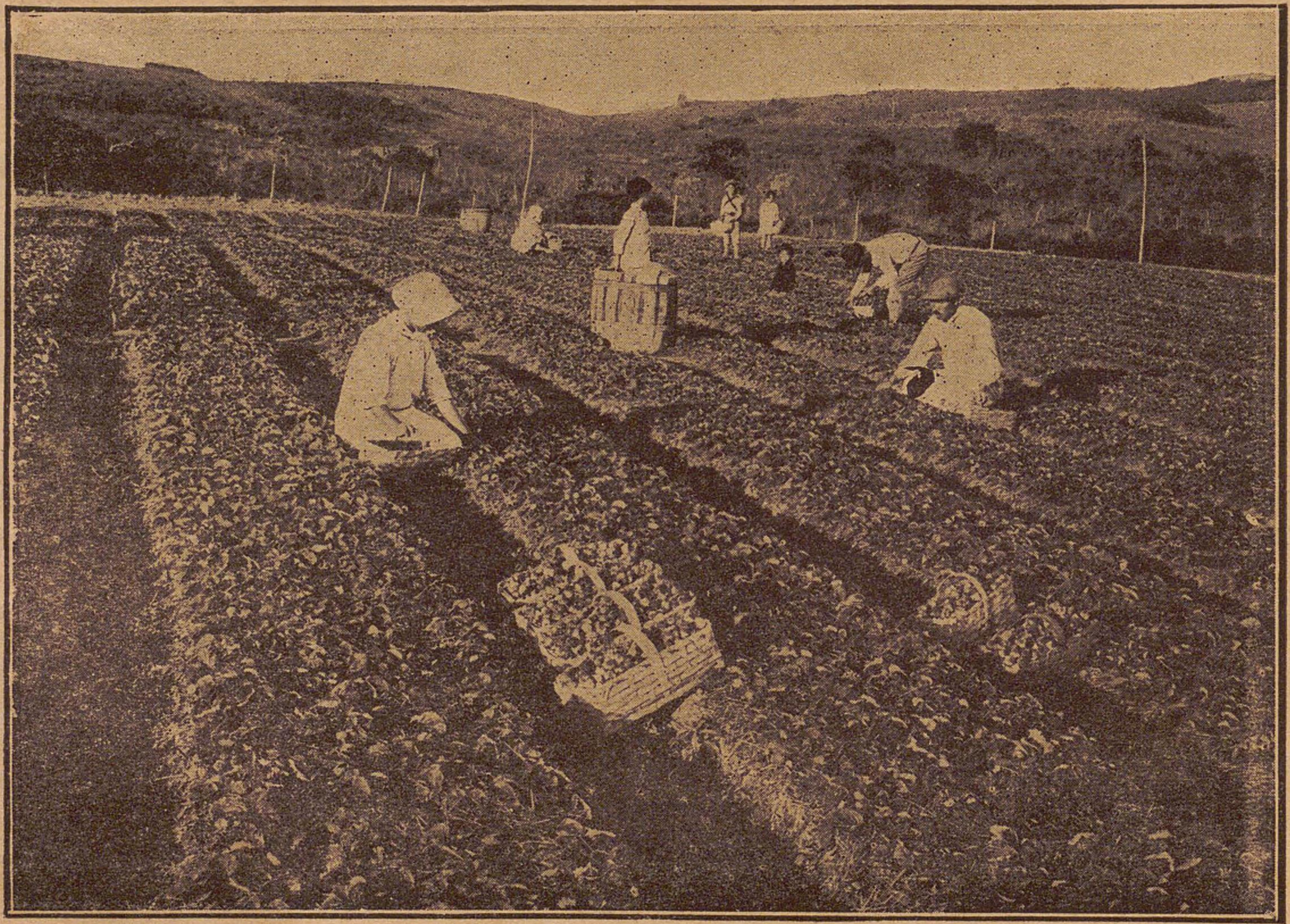
大場龍三氏の家族

Snr. R. Ouba e sua Familia.

大場氏は靜岡縣濱名郡豐西村出身、大正十五年來伯、昭和四年當植民地に入る、岡上氏と隣接して苺栽培に從事す、今年の苺植付面積は一段二畝初めてイチゴを栽培したに拘らず非常好な成績で樂しく儲けながら働いて居られる。

岡上與之助氏の苺栽培

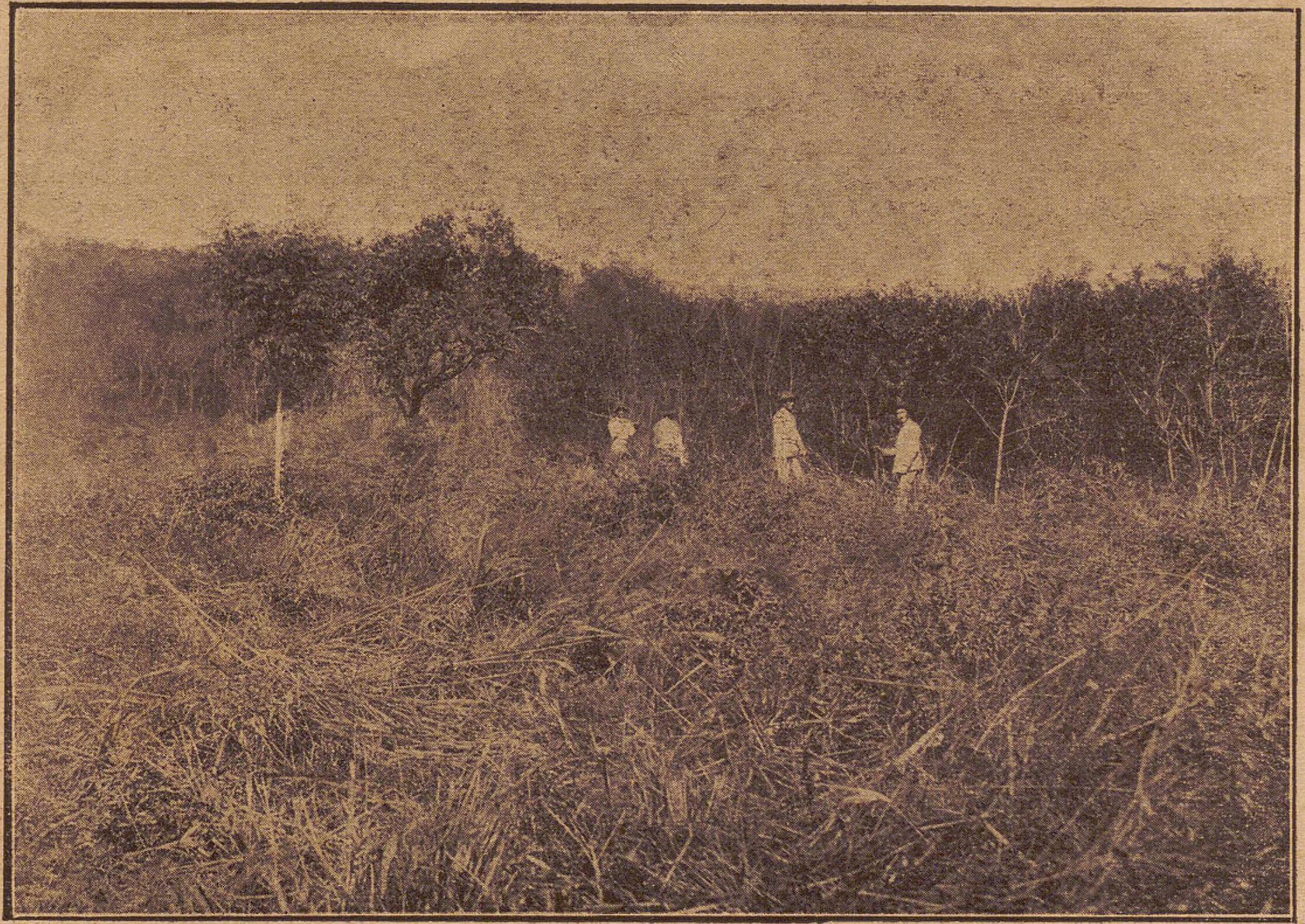
岡上氏は石川縣熊美郡西尾村出身、大正七年來伯、同十五年當植民地に入り專心イチゴの栽培に從事す、今年の植付面積は一段八畝、氏のイチゴの發育の優良な事は珍らしい、今年のイチゴの出初は五月二十八日からでスザナ地方（イチゴ作で有名な所）よりも約二週間早く



GRANDE CULTURA DE MORANGOS NA PROPRIEDADE DO SNR. Y. OKAUÉ.

市場に出た、夫で圖に見る小籠一個の相場五十五𦈢（十三圓）を唱へた、同氏は一段歩よりの收穫は五〇〇―七〇〇籠と謂ふて居る。

村田氏のロツテ切り開き

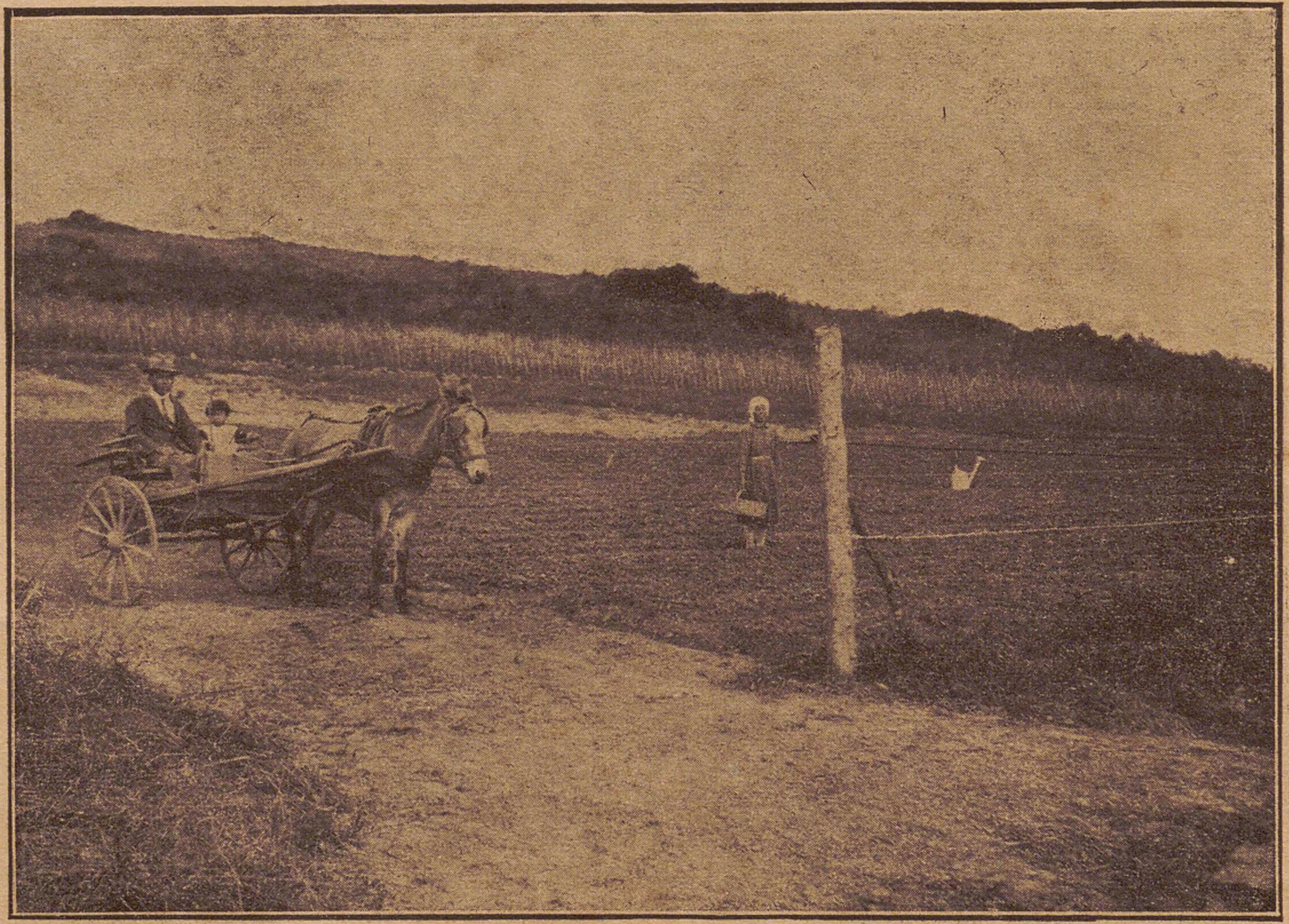


Roçada no Lote do Snr. Y. Murata.

村田氏は靜岡縣出身、陸軍の要職に永らく居られたので現に豫備大尉である、渡伯前日本の農事試驗場で精しく果樹蔬菜栽培に關し實地研究して來られた丈あつて當地の農業に非常な博識と趣味を以て進んで居られる、今年始めて入植忙しく農園の開發に自ら從事して居る。

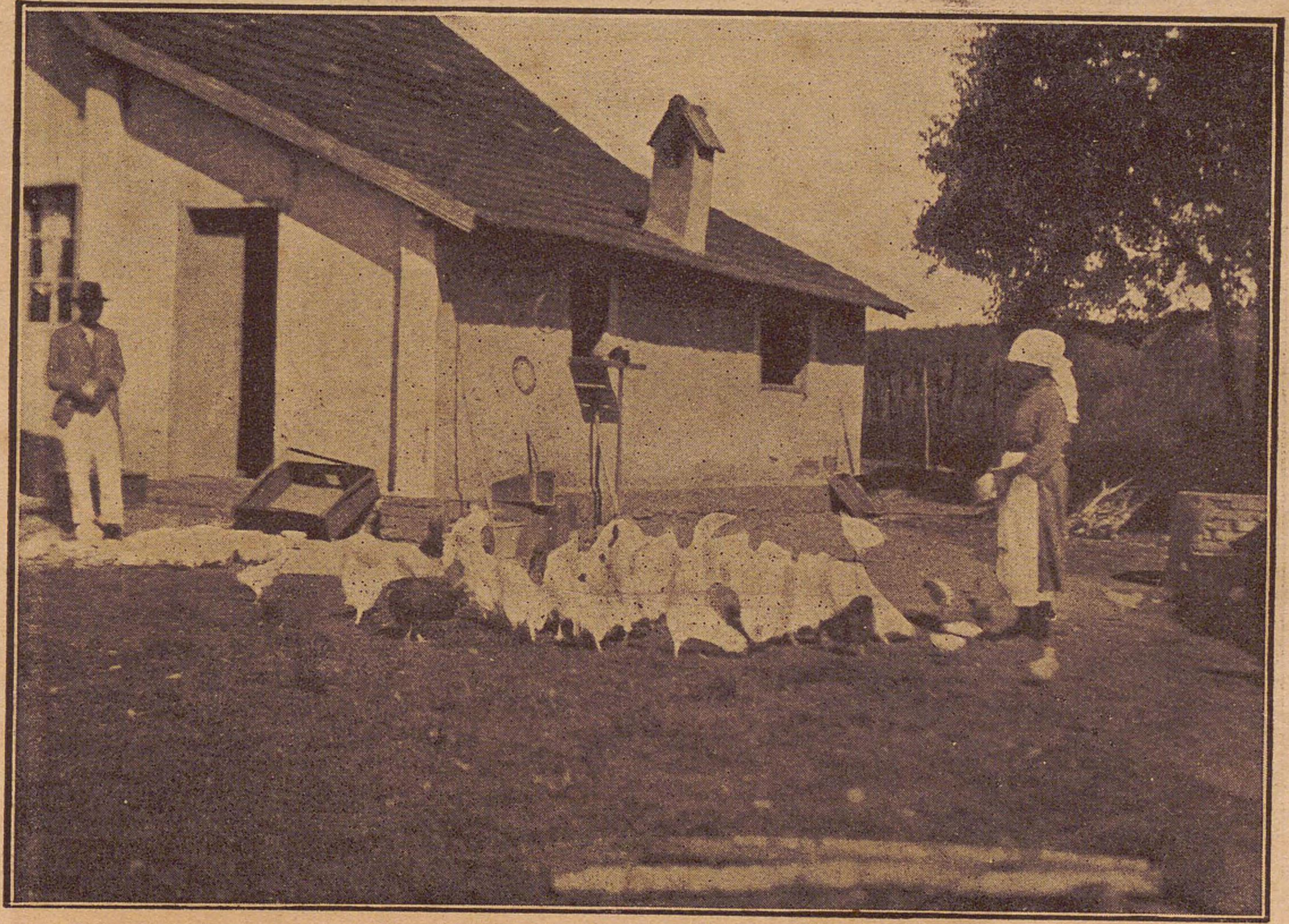
重田義一氏の苺栽培

重田氏は山口縣佐波郡島地村出身、昭和三年來伯し當植民地に入つたのは同四年である。イチゴ栽培を主とし二段步內外の畑を經營すイチゴ作に最も大切の灌水は畑の上方に遠方より水を引き埋想的に容易に行れてゐる、圖でイチゴ畑の上方に見るのは莢豆畑で約一段步。



Cultura de MORANGOS e TOMATES na Propriedade do Snr. G. Shigueta.

永島巖氏の養鷄

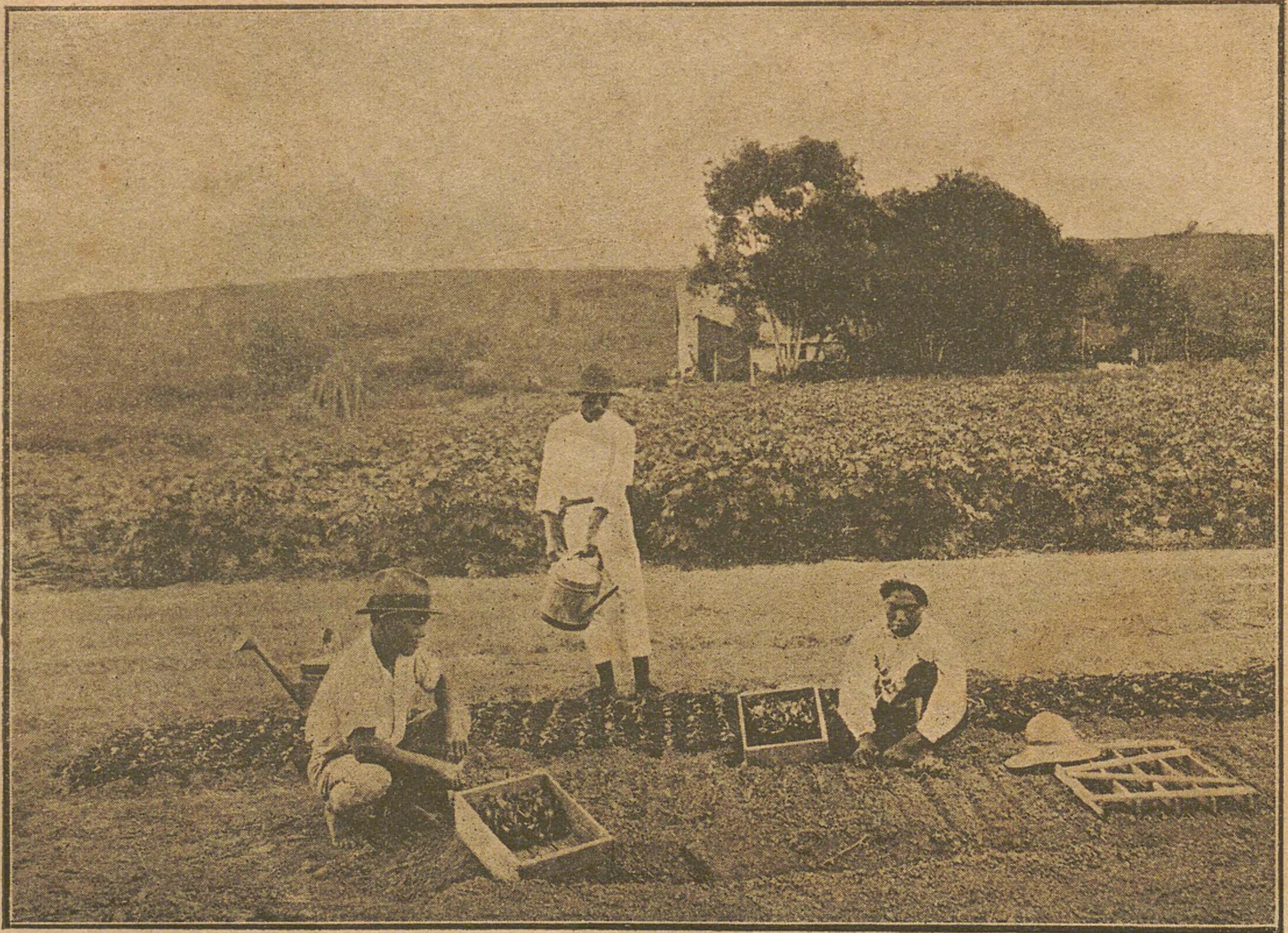


Criação de Gallinhas pelo Snr. I. Nagashima.

永島氏は茨城縣人で令兄鼎氏と共に千葉農藝學校出身、來伯後久しくイグアペ植民地に居られ當植民地に入つたのは一九二六年である、蔬菜、果樹栽培の側ら養鷄に熱心して居る、優良の白色レグホンを主として飼ふ、昨年日本より鷄を輸入し繁殖を計つて居る。

永島氏野菜畑の甘藍の移植

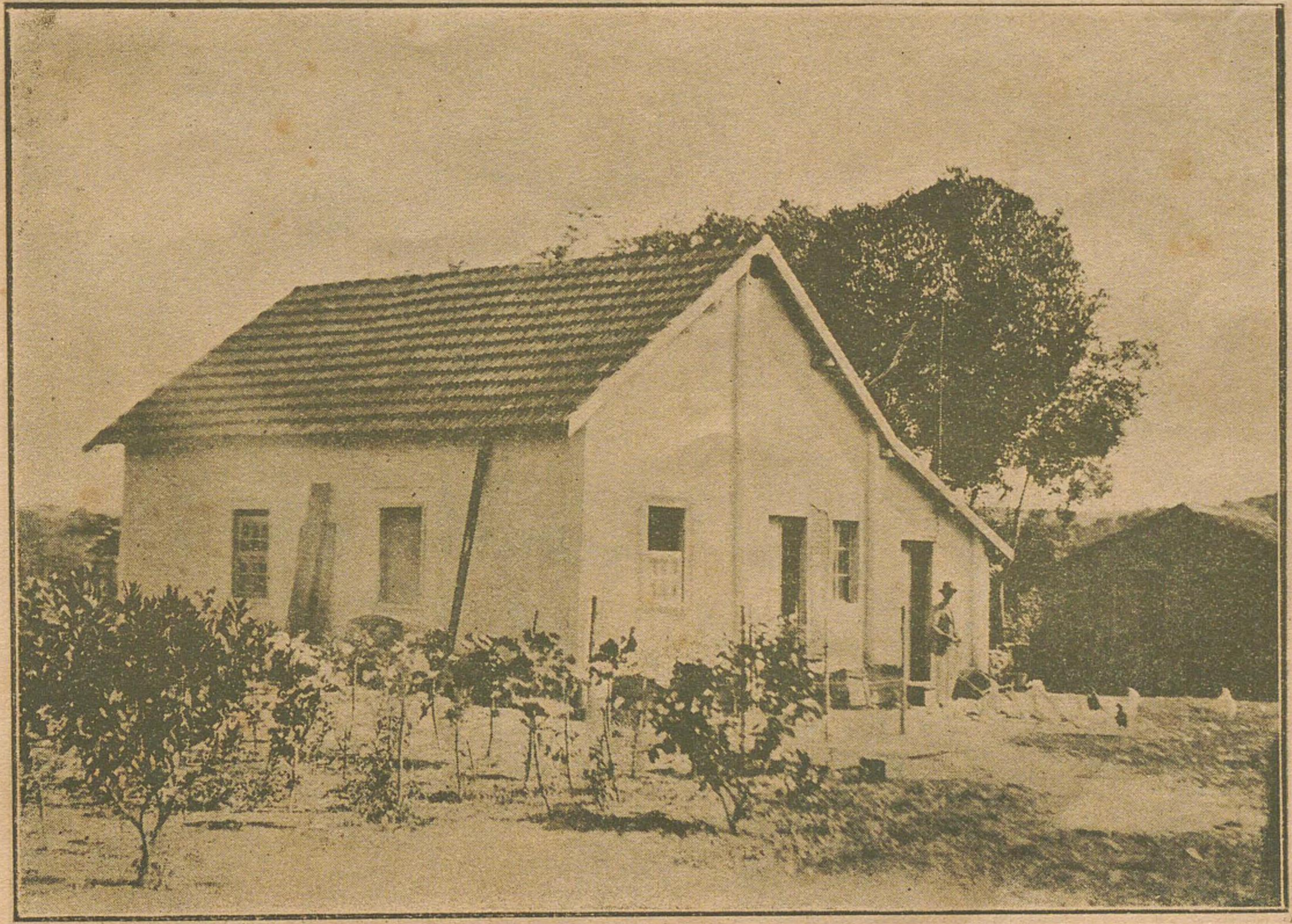
圖は永嶋鼎氏の周到な注意で野菜の手入をして居るもの、氏はイグアペ植民地の農事試驗場長として勤務した事もあり、伯國農業には精通して居られる。



TRANSPLANTAÇÃO DE REPOLHOS, LAVOURA DO SNR. I. NAGACIMA.

永島氏の住宅

永嶋嚴氏は昨年よりサンパウロ市ブラジル移住組合に勤務し令兄鼎氏は專ら植民地の自宅で農務に忙し。



Residencia do Snr. I. Nagacima.

松本圭一氏の住宅と家族

氏は静岡縣志太郡大富の人、大正十四年南米諸州を一巡して歸朝後直に渡伯し當植民地に入る、氏は駒場農大卒業にて稀に見る實際で今や盛んに果樹を栽培しつゝ亦白色レグホン系の養鷄家さして知られてゐる。

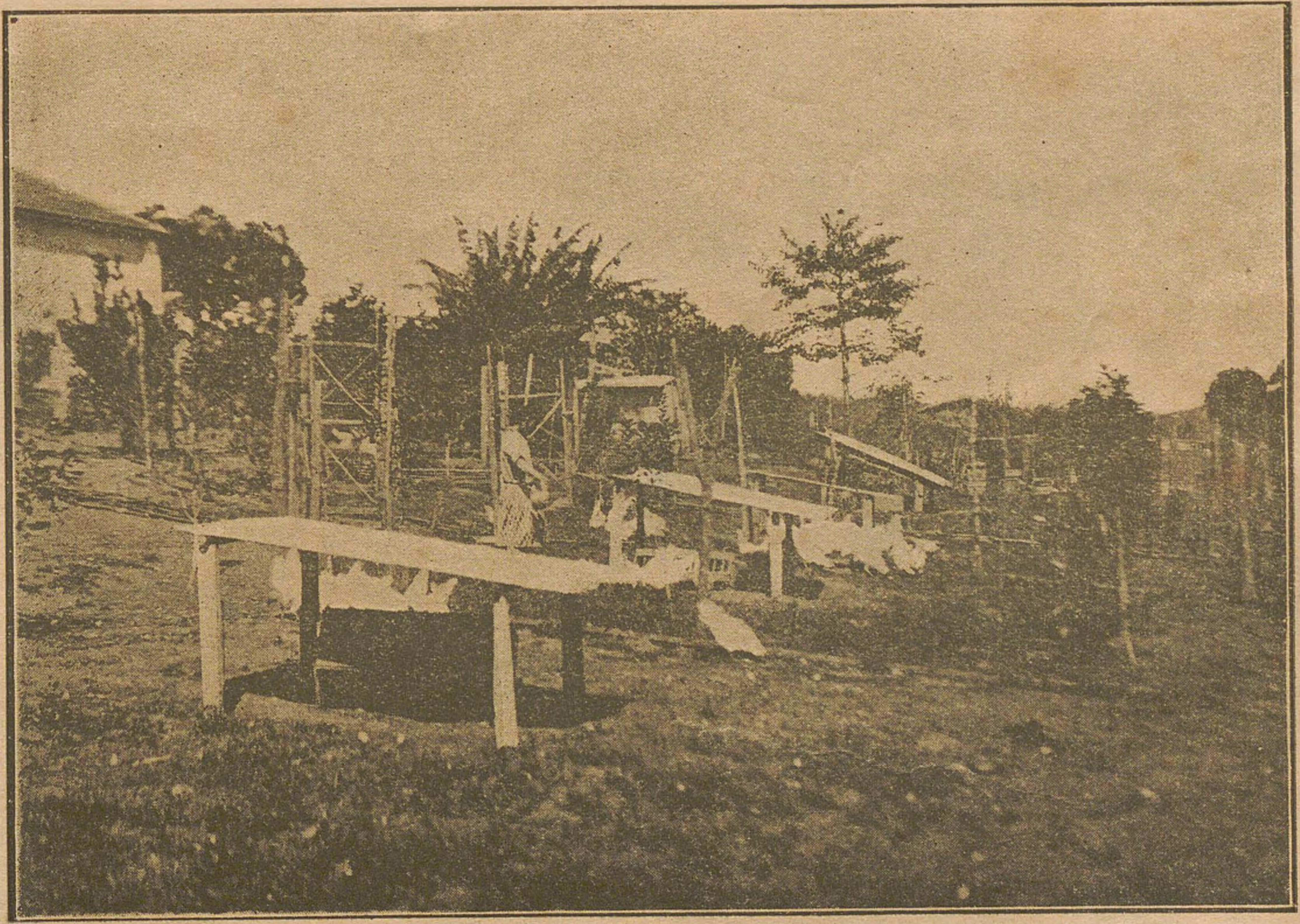
RESIDENCIA DO DR. K. MATSUMOTO.

昨年より氏はサンパウロ市のブラジル移住組合の調査部長さして招聘されて當植民地私宅に時々來られる。

松本氏の養鶏

當植民地はサンパウロ郊外の養鶏適地として知られてゐる、同氏は繁忙の要職に居りながら盛んに養鶏を經營してゐる、白色レグホン純粹種の牝鶏は目下二百五十羽と幼鶏七八十羽を飼育す、今や繁殖好期に入つたので孵卵器で盛んに繁殖を計つてゐる。

松本氏の夫人は自ら養鶏に趣味を持たれ朝夕自ら飼料を與へて居る。



Secção Avicola do Dr. K. Matsumoto.

氏は和歌山縣西牟婁郡稻成村出身、大正十三年渡伯、一九二七年當植民地に入る。

氏は今尚獨身である、然も一人で一萬本のトマテを植付け立派に管理し三百五十箱の收穫を擧げ畧十コントス（日本金二千五百圓）を四ヶ月間の短期に得た平均して一人の管理本數は五千本とされてゐるに同氏は一萬本を唯一人で經營した點は實に勢力と精力に感服するの外はない。

山本辰藏氏のトマテ畑の中耕

CULTURAS E PREPARAÇÃO DO SÓLO PELO SNR. T. YAMAMOTO.

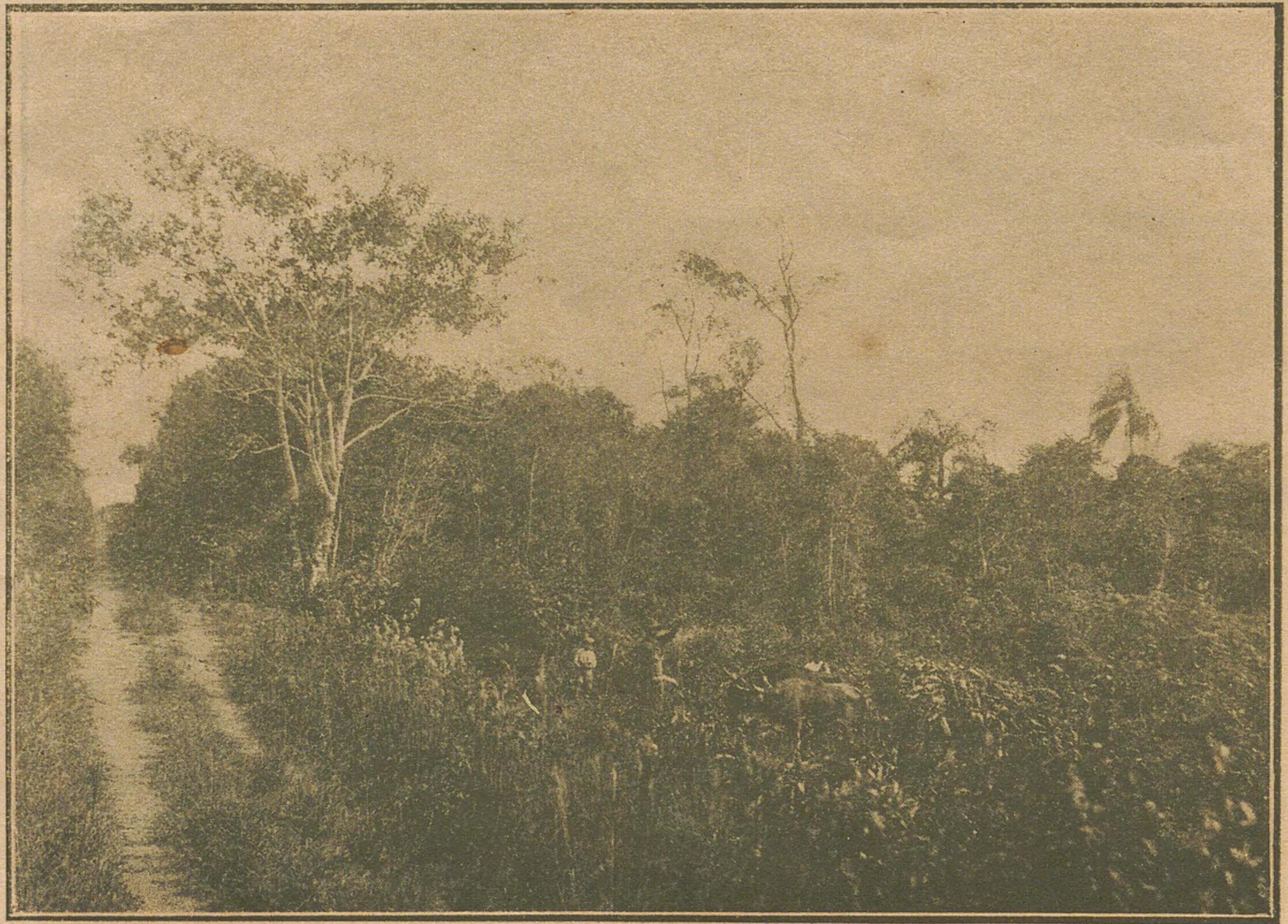
平野元義氏の伊太利南瓜畑

Lavoura de ABÓBORA Italiana do Snr. M. Hyrano (15.000 pés).

氏は石川縣江活郡勅使村の出身、大正十一年渡伯、同十五年當植民地に入る、同氏は最も手廣く此のイタリヤ南瓜を目下栽培をやつて居る、一段歩植付本數は千二百本とする、收穫は段當四十箱、平均相場は十五釬内外、昨年は此の南瓜丈の栽培で平野氏は畧二コントスの純利を擧げたとの實話、同氏の家族は今の所子息も幼少で少家族である割合に當植民地では相當に收穫が多いので名高いものだ。所有面積四アルケール半（十一町歩）である。

平野氏所有地內の森林

當植民地の地帶は昔時は大森林で覆れてゐた事は今尚住民の傳ふるものである、サンパウ市に近いので建築、薪炭用に亂伐され現時の森林は二十年內外の新しいものである。



LOTE DE TERRAS PERTENCENTE AO SNR. M. HYRANO.

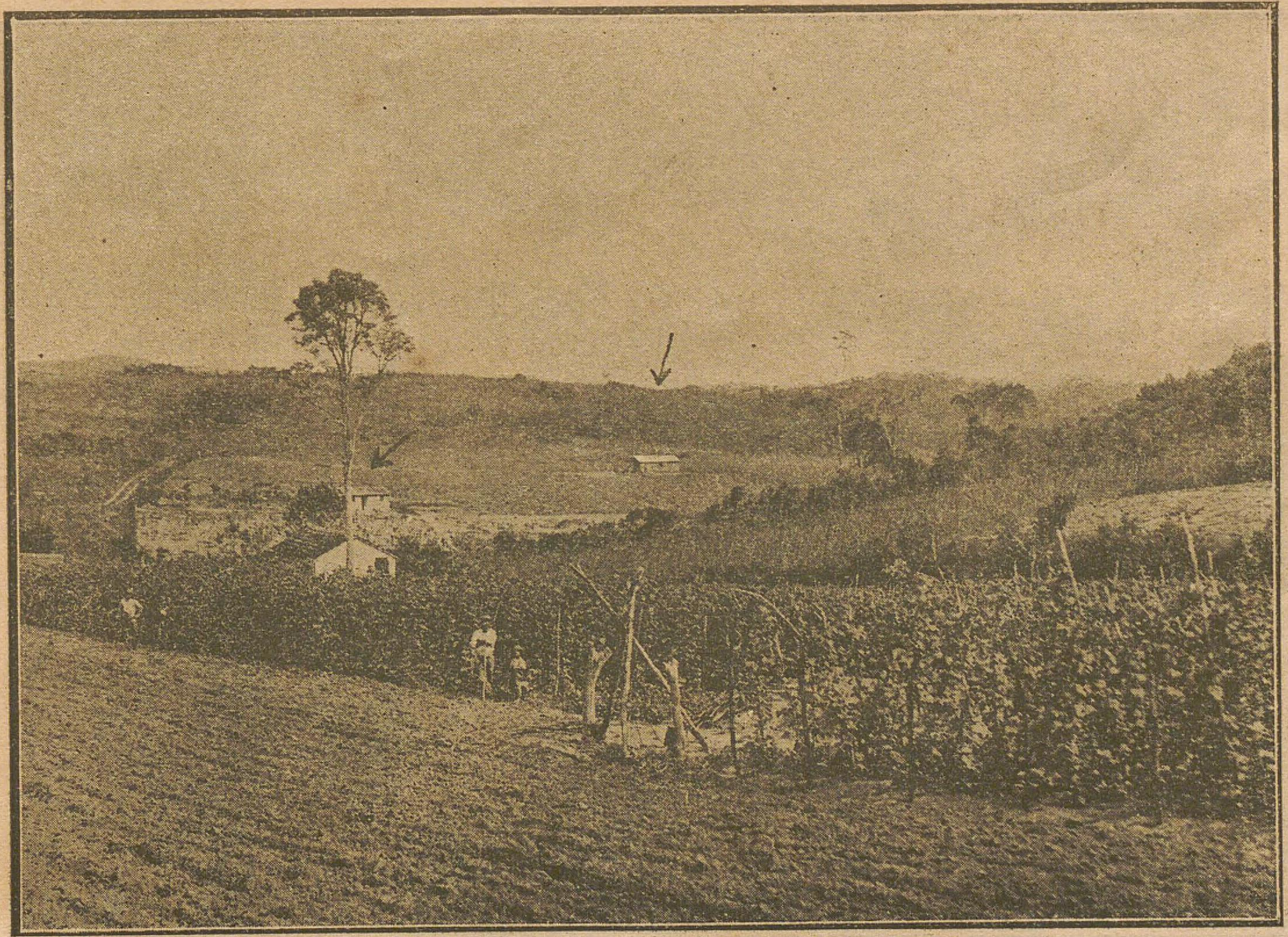
圖に見る平野氏のロッテは過半此の森林で覆はれ幾分昔の大森林を忍ばせる、森林地は何處でも地味が良く何んでもよく出來る、昔は煙草、甘蔗等を盛んに作つたと傳へられてゐる。

山中三五郎氏の莢豆とトマテーの栽培

氏は和歌山縣西室郡三栖村出身、大正十年渡伯、當植民地に大正十四年に入つた主なる蔬菜栽培はトマテ、甘藍、花椰菜、莢豆、キウリ等である。

圖は同氏の莢豆畑の手入である、此の畑は一段半、豫想收量は百箱内外であらふ、サンパウロ市場の相場は安すい時で箱六鈩、高い時は二十鈩内外に達する、手數が掛らないで莢豆は割合に面白い野菜である。

圖に遠眺する矢印は山本辰藏氏の住宅、小屋を示す。

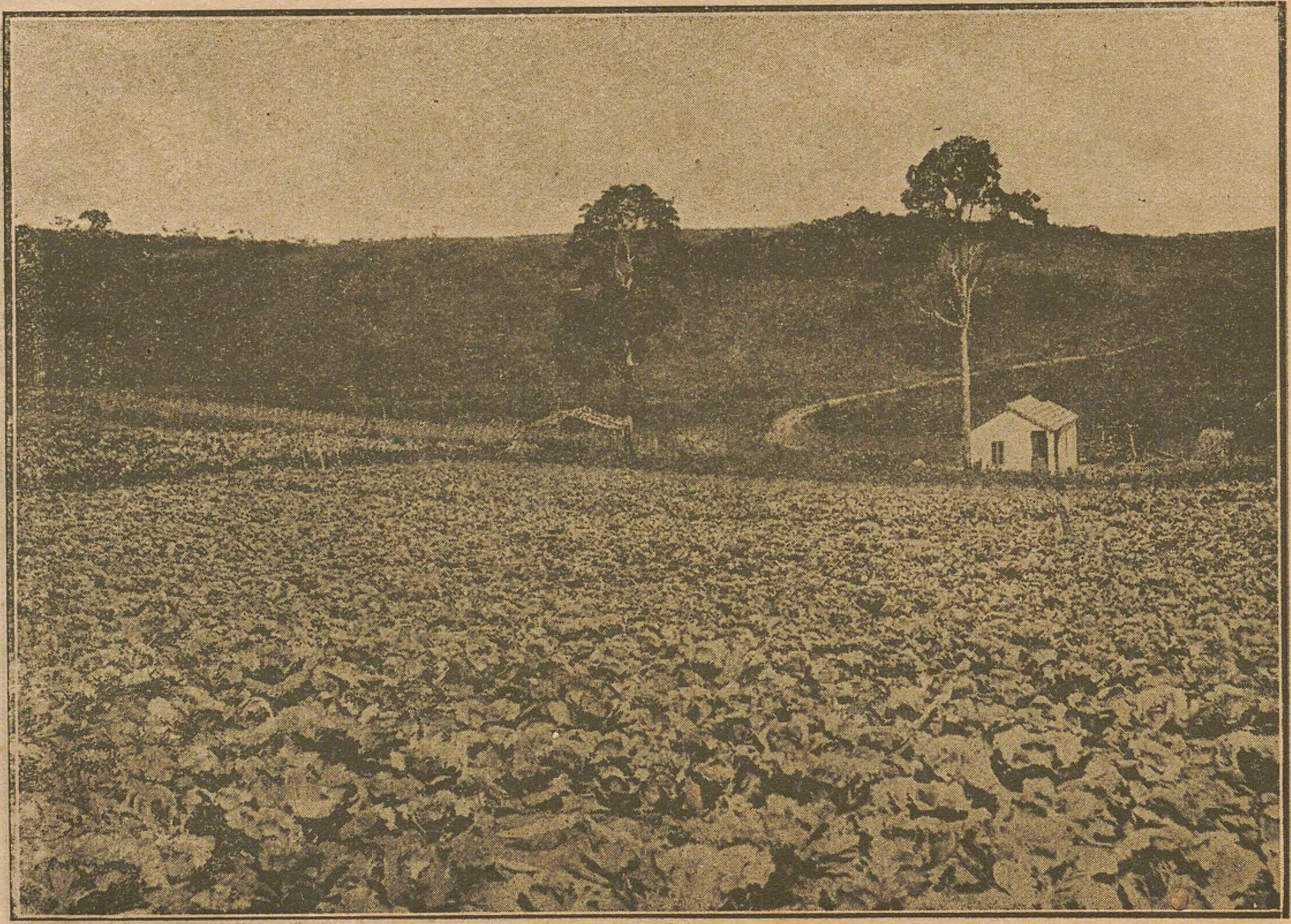


LAVOURAS DO SNR. S. YAMANAKA.

山中三五郎氏の甘藍畑

山中氏は毎年甘藍を大きく栽培して居られる、圖に見る甘藍畑は畧二段歩のもので同氏は畧六千個の收獲を豫想して居る。

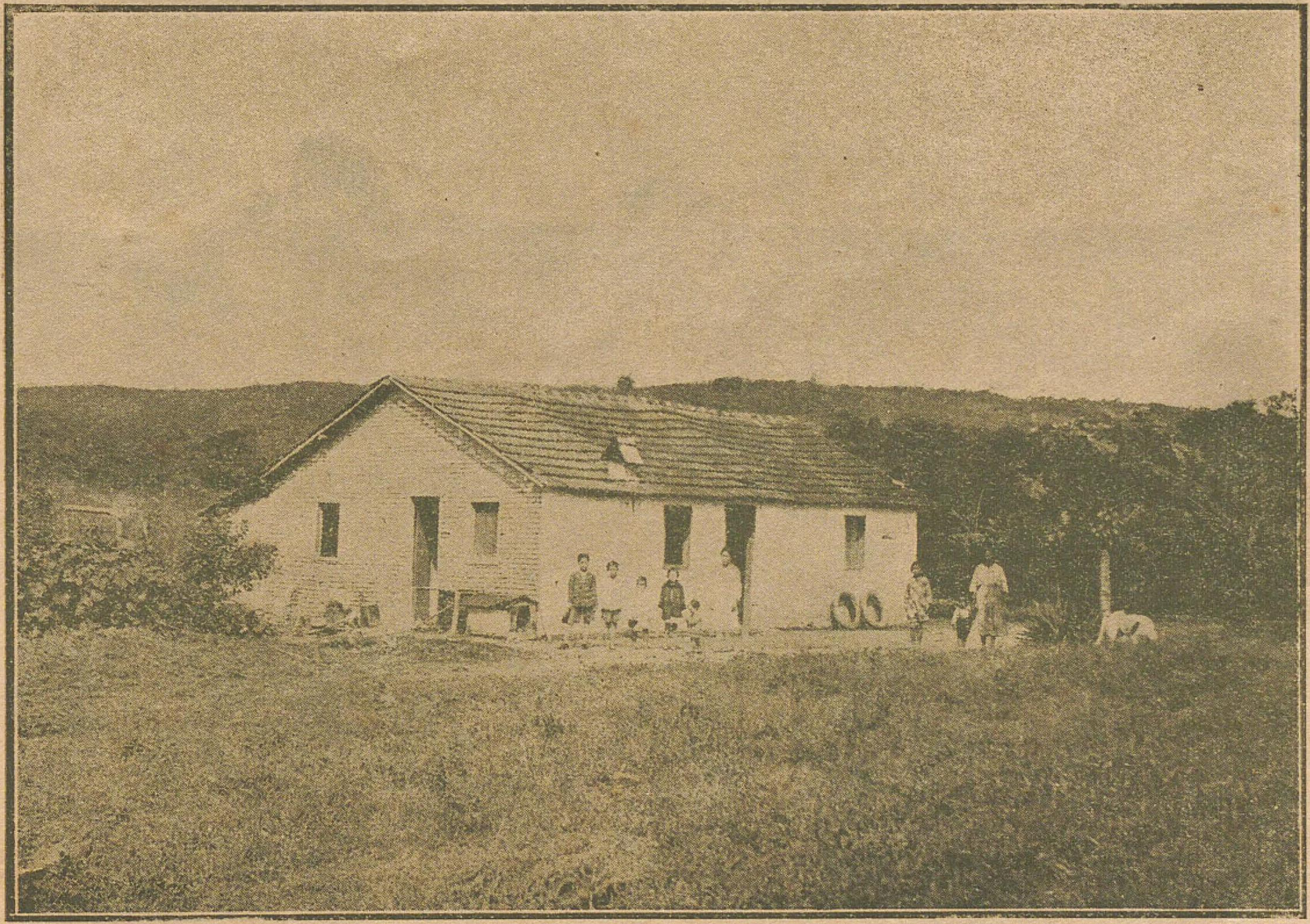
當植民地では甘藍栽培は一般にトマテと並んで一般植民者が大々的に植付くる、サンパウロ市場では甘藍は穀物袋に入られて取引する、袋には大小に從ふて差があるも平均して二十個であらふ、一袋の平均價格は六釪内外である、其れで一段歩から九〇〇釪の收入となる、手數の掛らない割合によい野菜である。



Grande Lavoura de REPOLHOS pertencente ao Snr. S. Yamanaka (15.000 pés).

野間常夫氏の農園と家族

氏は長崎縣大村出身、工業學校卒業、渡伯後久しくリオ港内造船所技師として勤められた、一九二六年當植民地入植、二アルケール（畧五町歩）の農園を開き始めた、種々の野菜を栽培と共に近頃は果樹植付に熱心だ。



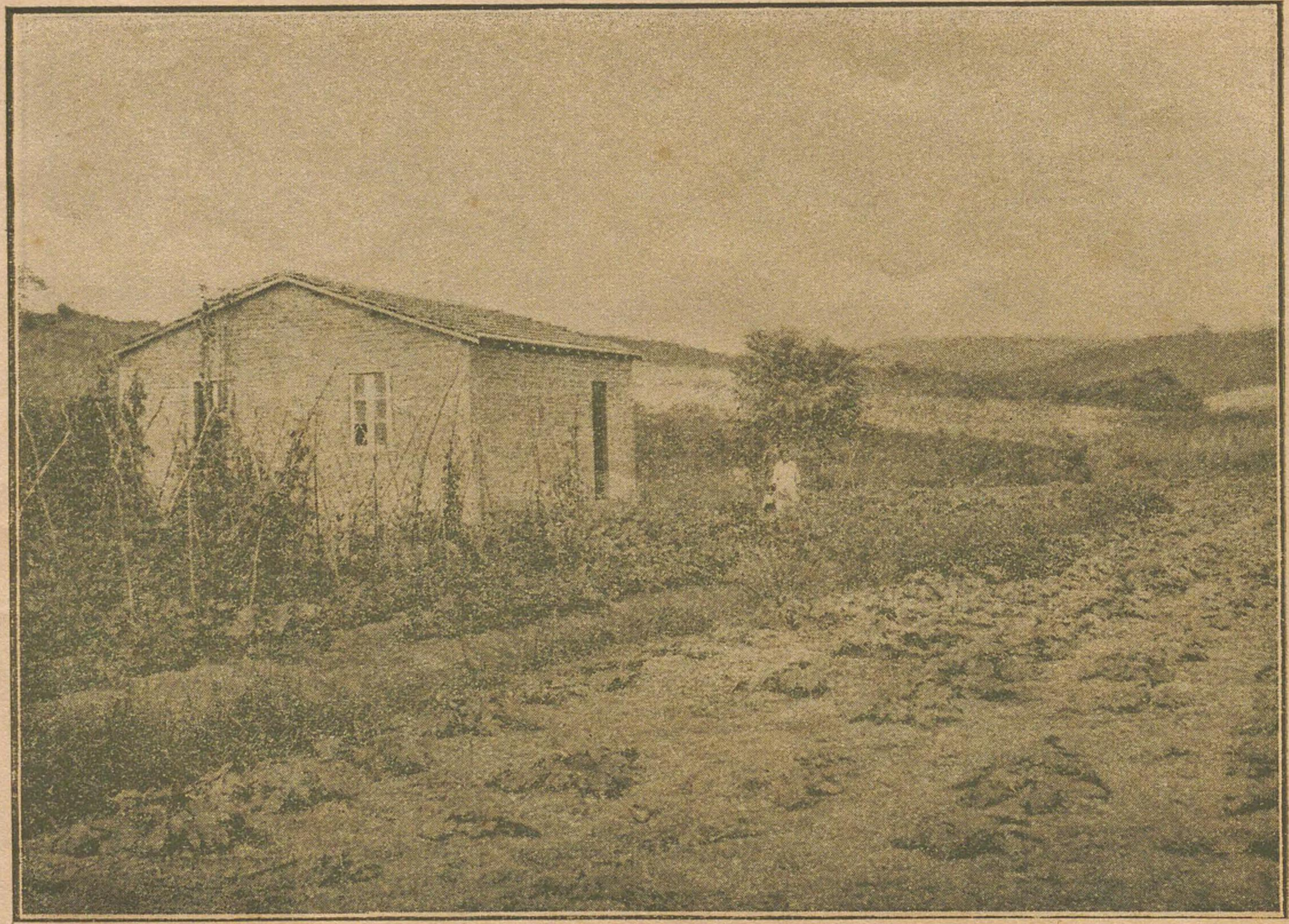
Residencia do Snr. Tuneo Noma.

昨年よりサンパウロ市ブラジル移住組合に工務係として就職さる農園は日本人家族を入れ管理せしめてゐる。

佐藤善一氏の蔬菜園

氏は福嶋縣那麻郡熊倉館村出身、一九〇九年渡伯、一九二七年當植民地入植、同氏は當國で永く土木機械工事に從事し深い經驗を有す。家族を當植民地に樂しい田園生活をさせ、自分はサンパウロ市のブラジル拓植組合所屬の製材所に勤務す。

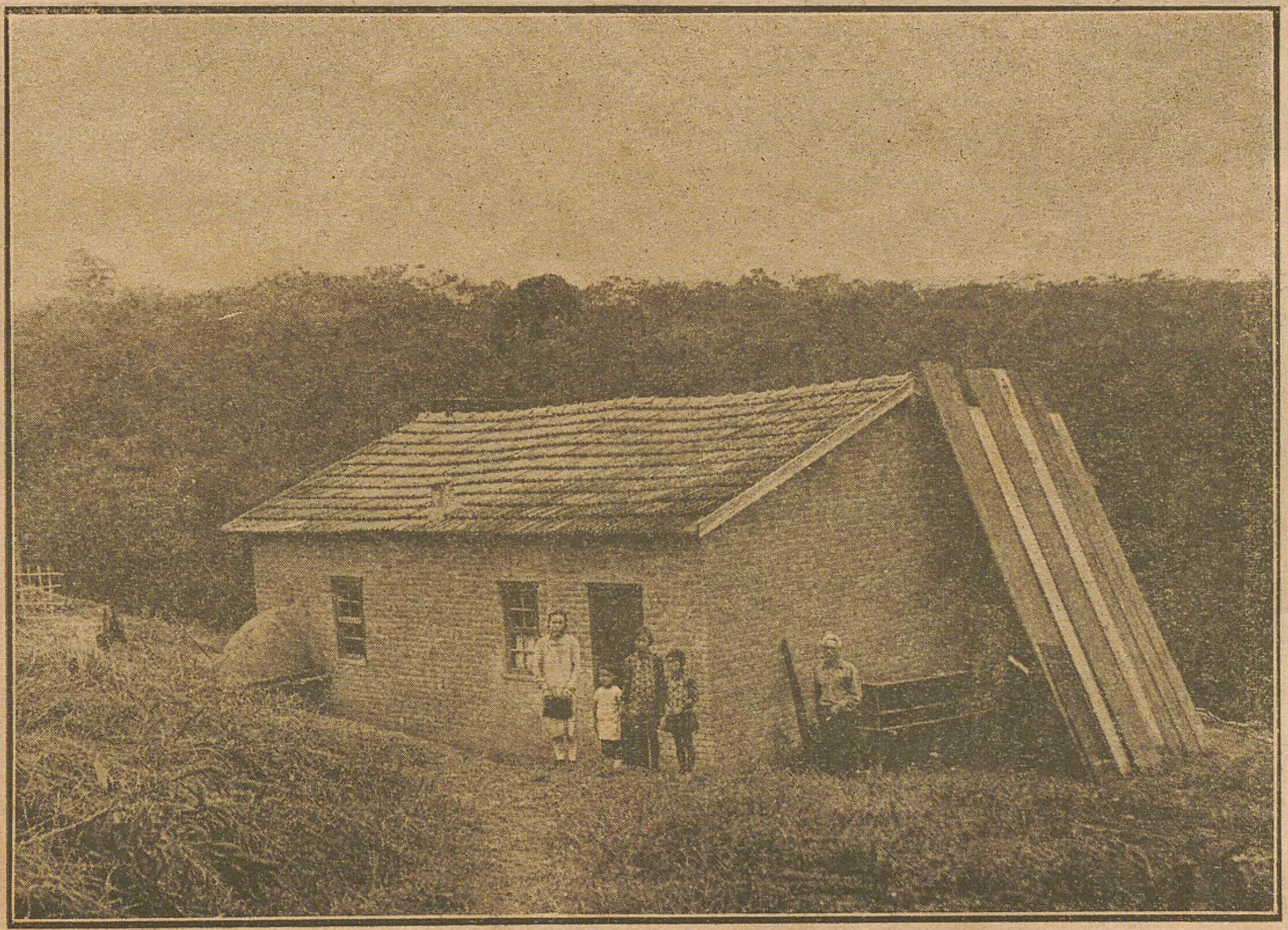
圖はイタリヤ南瓜畑で四千餘株が美しく發育しつゝある　野菜からの收入は子供の學資です」と樂しく語りつゝ奥さんは愉快に手入して居られる。



LAVOURA DE ABÓBORA ITALIANA PERTENCENTE AO SNR. Z. SATÓ.

菊地常八氏の家族

氏は福嶋縣耶麻郡喜多方村出身、一九一六年の渡伯、今年當植民地入植。在伯年數も永い丈け同氏は充分なる經驗を有し此から植民地に新らしく果樹栽培と養鷄事業を開始す可く專ら準備中である。圖に見る如く同氏住宅の裏手一面は鬱蒼たるカポエーラで果樹栽培地としては最も適良。



SNR. T. KIKUCHI E FAMILIA.

竹本京藏氏の蔬菜園

同氏は長野縣長野市出身、大正七年渡伯、當植民地には一九二七年入植、家族丈で三段内外の蔬菜を主として栽培し其の殆んどをイタケサ町に毎日小賣にして居る。

K. TAKEMOTO.

渡邊泰一郎氏の茄子栽培（植付本數一萬五千本面積約五段步）

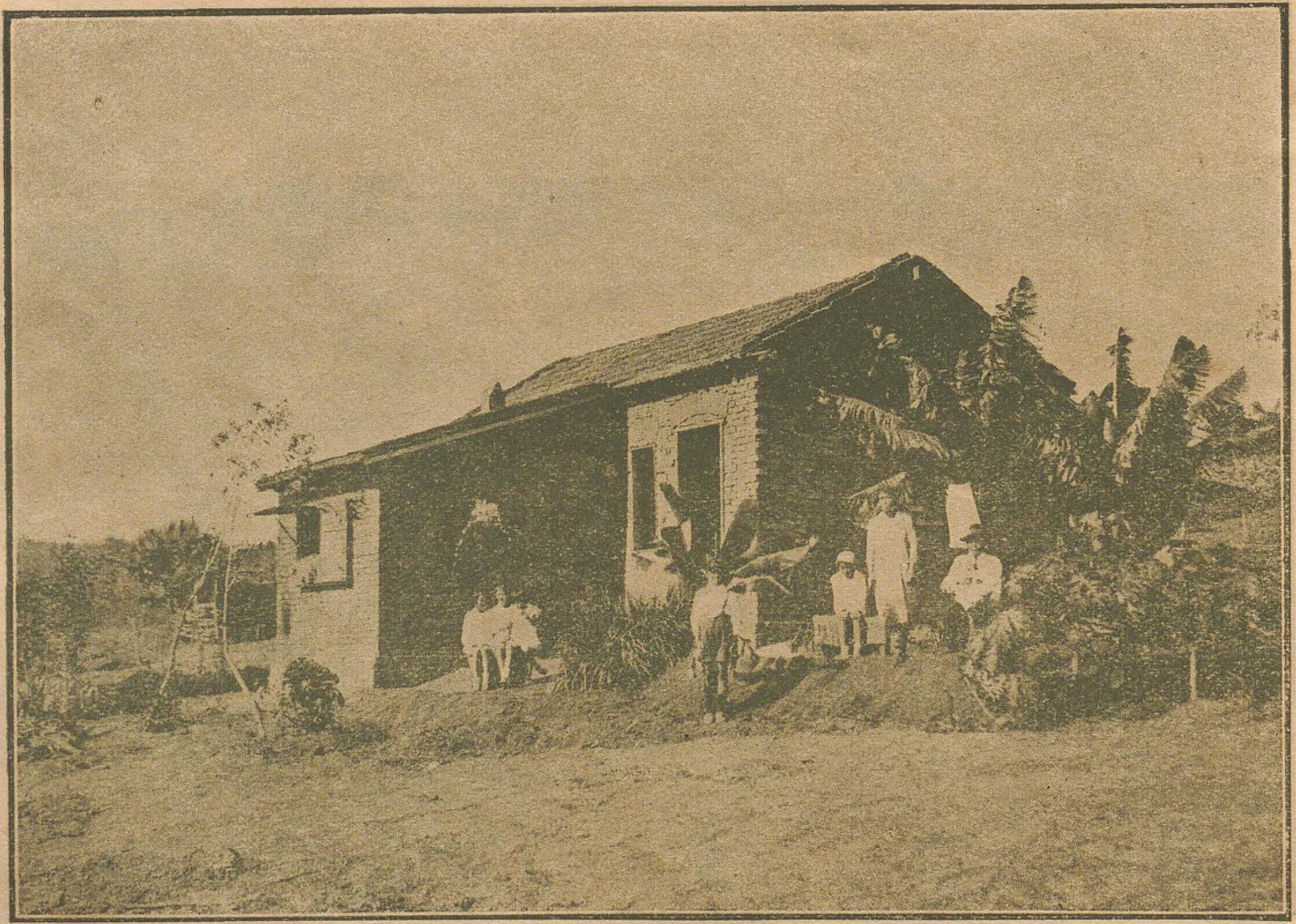
Grande Lavoura de BERINGELAS pertencentes ao Snr. T. Wattanabe (15.000 pés).

氏は新潟縣刈羽郡刈羽村出身、縣立農學校ヲ卒ヘ一九二三年渡伯當植民地には一九二五年八月第一番の入植である。

蔬菜栽培が前衛で果樹栽培で本陣の備を固める所に同氏の卓見がある。目下葡萄は五千本内外を有し李苗五百本の植付準備中所有面積五アルケールス（畧十五町步）。

松林氏の住宅と家族

氏は長野縣更郡桑原村出身、大正七年渡伯、同十五年入植せられた、主として野菜栽培に従事し、目下トマテ四千本、キウリ四千株、甘藍五千株を手入しつゝある、茲數年にして子供方の成長後の目覺しい發展を期待される同氏は元氣よく樂しく働いて居られる。



RESIDENCIA DO SNR. I. MATSUBAYACI.

氏は新潟縣西蒲原郡國上村出身、大正十三年渡伯、昭和元年入植す、氏の農園は非常に灌水に便利であるのを利用して昨年から盛大にイチゴを栽培してゐる、目下栽培のものはトマテ

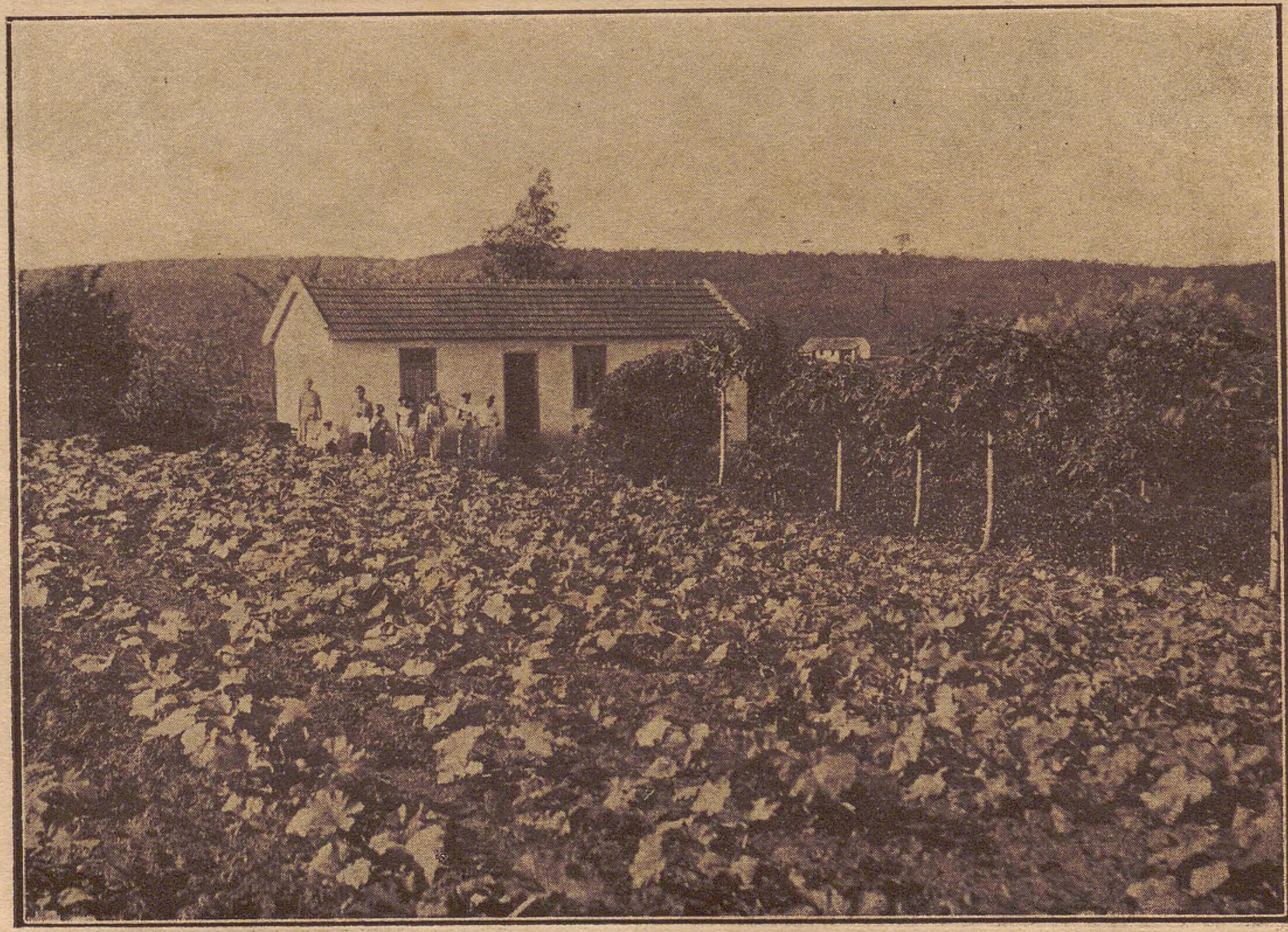
夏目萬平氏の苺栽培

LAVOURA DE MORANGOS PERTENCENTE AO SNR. M. NATSUMI.

一萬一千本、キウリ八千本、甘藍一萬株である、圖は二段歩のイチゴ畑を後方にトマテ畑を見る。

押本瀧輔氏の住宅と家族

氏は千葉縣安房郡出身、大正十一年渡伯、同十五年入植された、久しく北米に居つた經驗よりして、金儲歸國主義は大嫌ひで樂しく生活の出來る所として當植民地を撰れたと云ふて居る、入植當時から蔬菜に熱心であるが將來の爲め果樹栽培を忘れない。圖は住宅前のイタリヤ南瓜の畑で約一萬株を植付けたもの。



CULTURA DE **ABÓBORA** ITALIANA (10.000 PÉS) LAVOURA DO SNR. OCIMOTO.

押本瀧輔氏の果樹園

氏は果樹栽培には當植民地では最も熱心の一人である、入植と同時に植付けた蜜柑、桃、柿等は發育良好である、故國より輸入した雲州ミカンは昨年より結實し、然も其の發育の良い事と實の大きく美味な事は日本本土より優れて居ると云はれてゐる、住宅の前には茶園があり上等の茶を自製して飲料に供して居られる。

POMAR DE T. OCIMOTO.

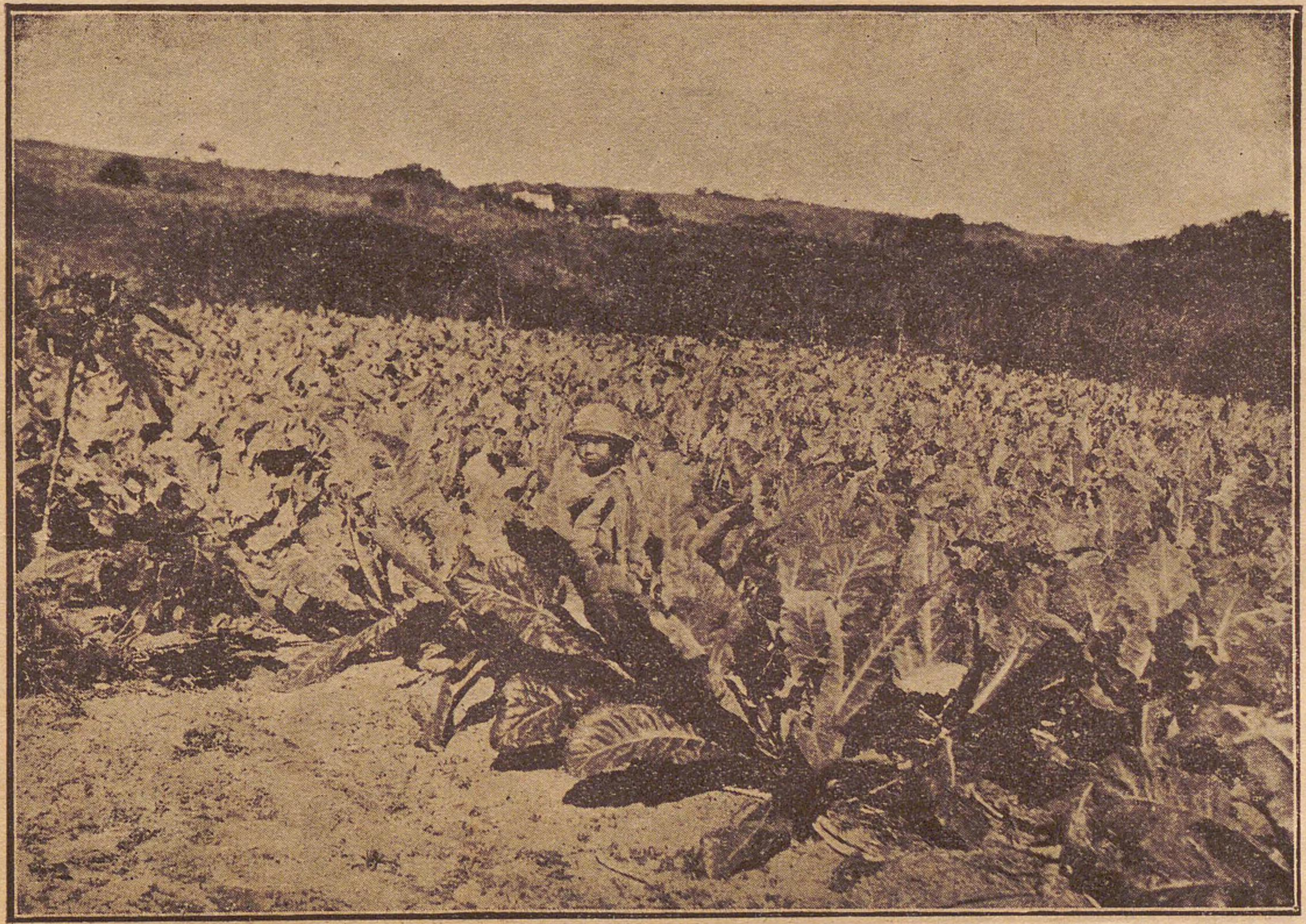
押本瀧輔氏の雲州ミカン苗木仕立

氏は雲州ミカンの栽培家である、圖は同氏の苗木の栽培を示す。雲州蜜柑は伯國在來ミシリカ、クラボ、タンゼリナ等の種類に酷似して居るが非常に優良である、乃ち外觀の美くしい事、大きい事、中に種子の無い點美味の點で數等以上の伯國在來種に優る近い將來に伯國柑橘界にウンシュ種が名高くなると共に同氏の名譽も高まるであらう。

O Snr. T. Ocimoto, fazendo enxertos da TANGERINA "UNXÚ".
(Qualidade sem sementes, saborosa e tamanho grande).

押本氏の花椰菜の栽培

氏は果樹栽培を盛んにやつて居ると共に蔬菜も種々のものを作つて居る、圖は花椰菜畑で五段歩のものである、一段歩に約一五〇〇株が植付けられる、平均して年中の相場はサンパウロ市場で一ダース三釿内外である。



CULTURA DA COUVE-FLÔR PELO SNR. OCIMOTO.

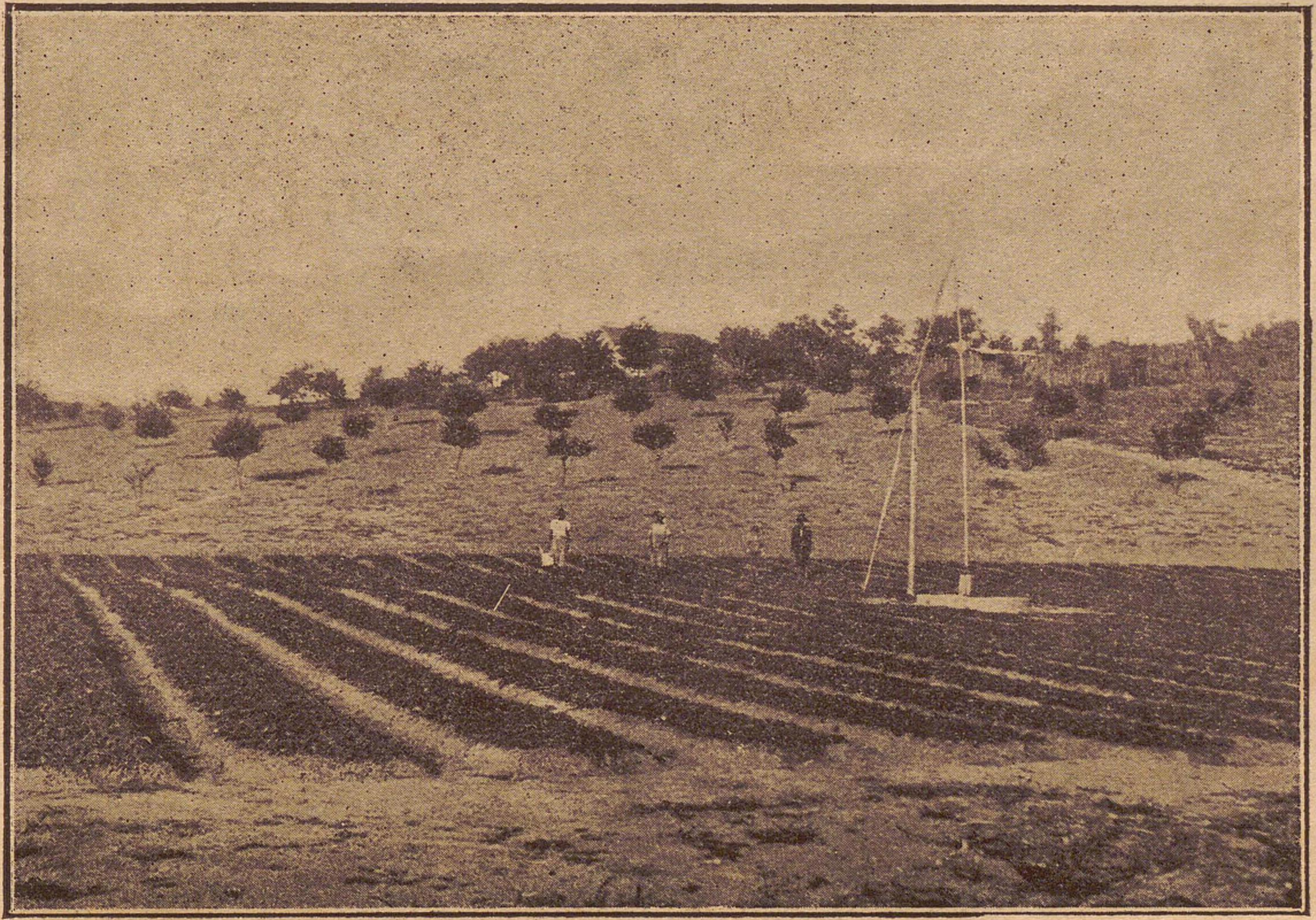
此の畑の外に近く冬期中のキウリ一段歩畑がある、三、四十箱の豫想で一箱冬期キウリは五十釿（日本金十二圓）内外の高價で賣れる。

富田實氏の白色レグホン種の養鷄

氏は福島縣伊達郡長岡村出身、大正三年渡伯、同十三年當植民地に入る、當植民地の一般植民者は皆蔬菜、果樹栽培に熱中して居る今日、同氏は養鷄を專門として立つて居られる、氏の苦心して撰擇した白色レグホン純粹鷄は植民地中最も優逸のものと知られる、同氏の養鷄場の牝鷄は一ヶ年二百より甚だしいのは二百三十個の産卵をするとの事である、近く氏は松本農學士の養鷄場より優等鷄を多數に買入れ一大養鷄家として立つ計畫と聞く。サンパウロ市鷄卵の需要は益々增加し新鮮のものは幾ら生産しても需要は多くして年中の平均一ダース價格は三鈃である、一家族三百羽を飼へば充分に生活が立つと同氏は物語つて居る、當植民地の將來は養鷄業の中心地として有望である。

CRIAÇÃO DE GALLINHAS LEGHORN BRANCAS DO SNR. TOMIDA.

ペードロ氏の苺畑

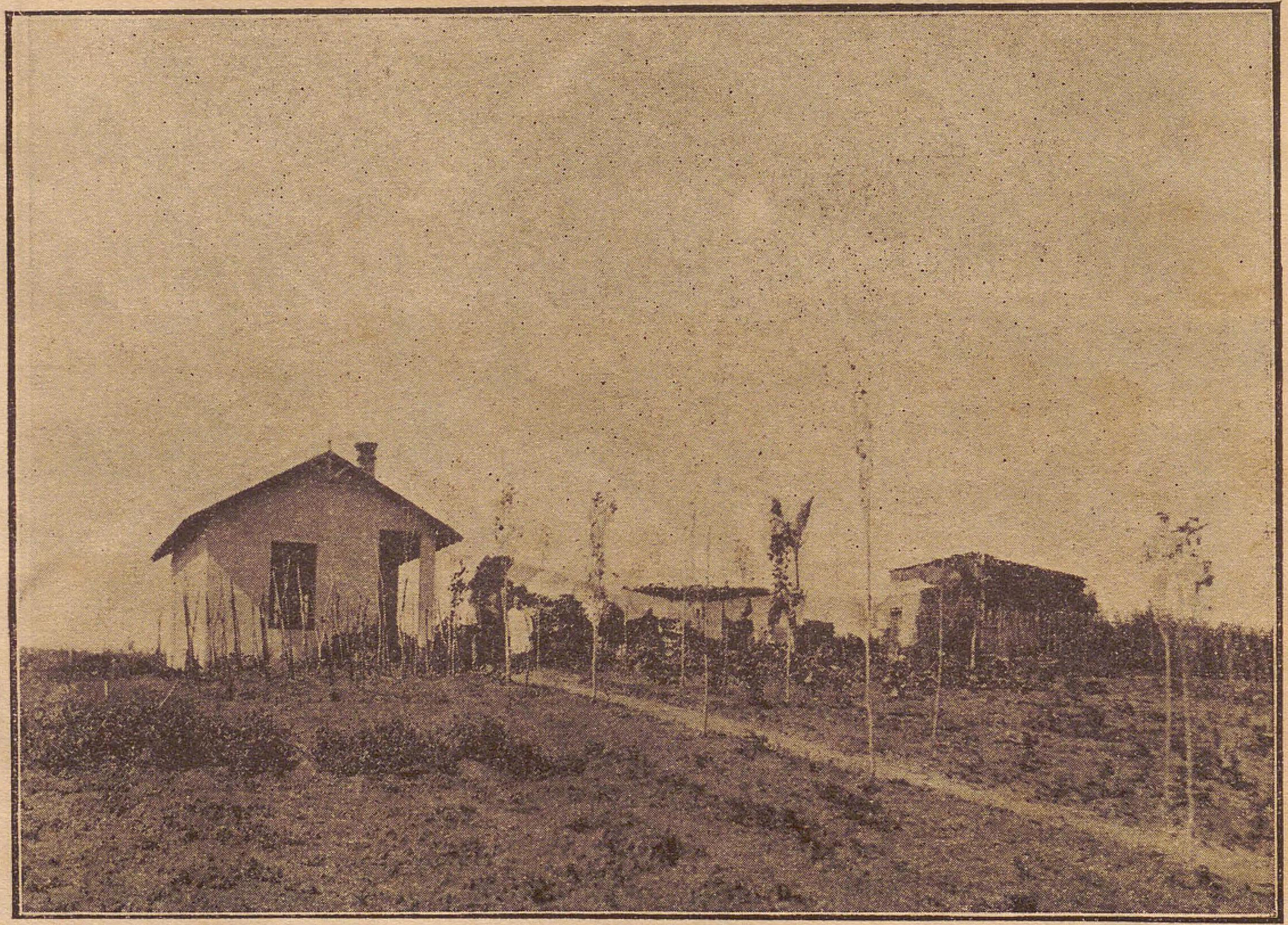


Cultura de MORANGOS pelo Snr. Pedro Feliciano.

ペードロ氏は伯國人でミナス州出身、左官職が本職で當植民地の開かれた當時に日本人の住宅を澤山請負建築した、其から日本人と親しみ農事に趣味を持ち、決然本職を止め當植民地に大正十四年に入植した、萬事は日本人に學び親しみ、稀に見る勉勵の伯人である。

當植民地に活動する獨逸農家ウリ氏

當イタケラ日本植民地は日本人が基礎で他國民でも優良のものなら入植を歡迎されてゐる、此のウリ氏の如きは同胞から栽培を見習ひつゝ漸次發展しつゝある、同氏の外に獨逸農家の當植民地に居るものも現時數家族を算する。



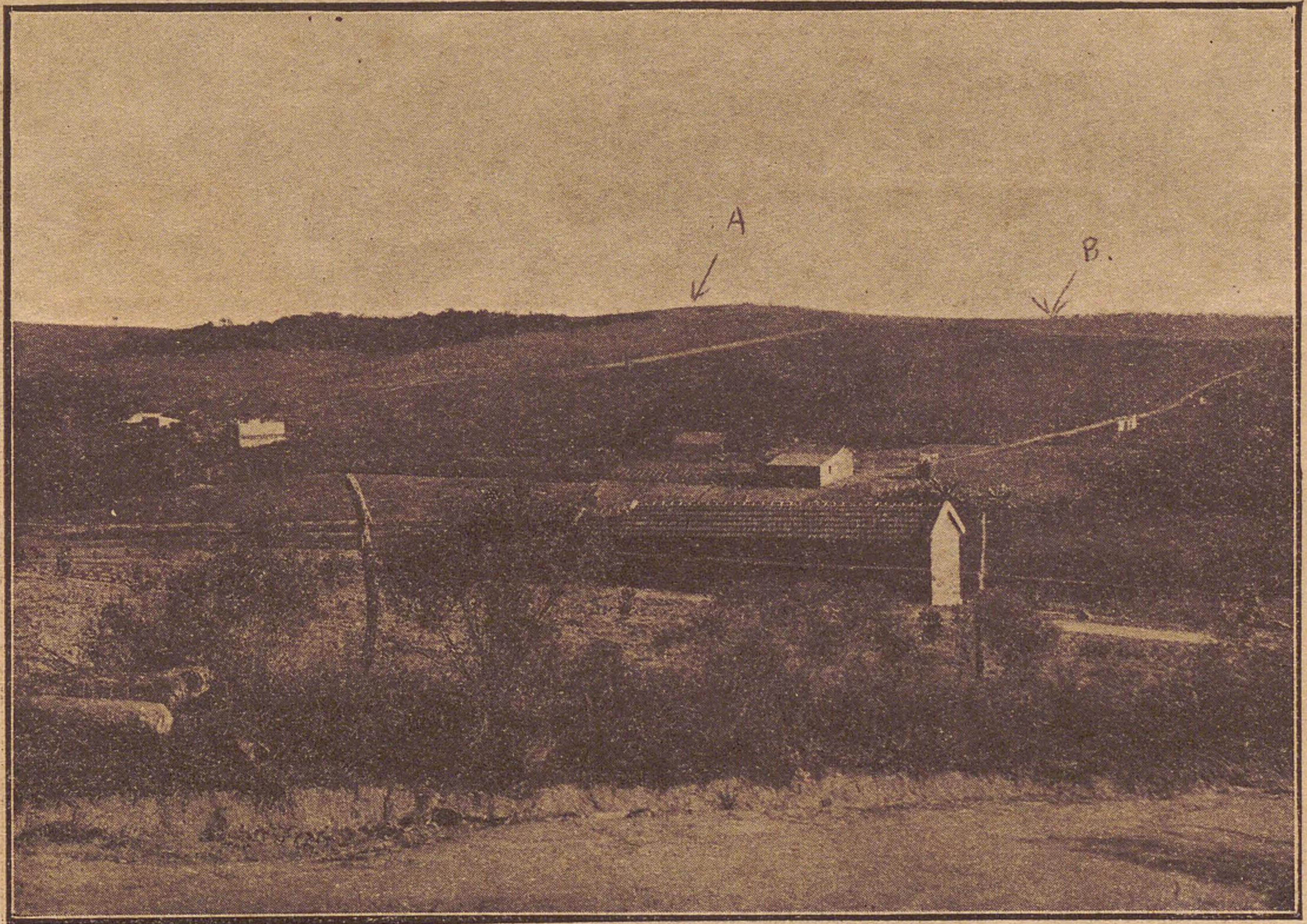
RESIDENCIA DO SNR. F. UHLI.

中村今朝吉氏の農園の前方に入植し盛に蔬菜栽培に從事する伊太利人ロツケ氏、イボ氏の二人家族が居る。

圖中Aはロツケ氏のトマテ畑で約二萬株で下方に新宅を建築中、此の畑には流水をガゾリーナ發動機ポンプで灌水する裝置が仕掛られてゐる。

Bはイボ氏のトマテ畑で約一萬五千株である。

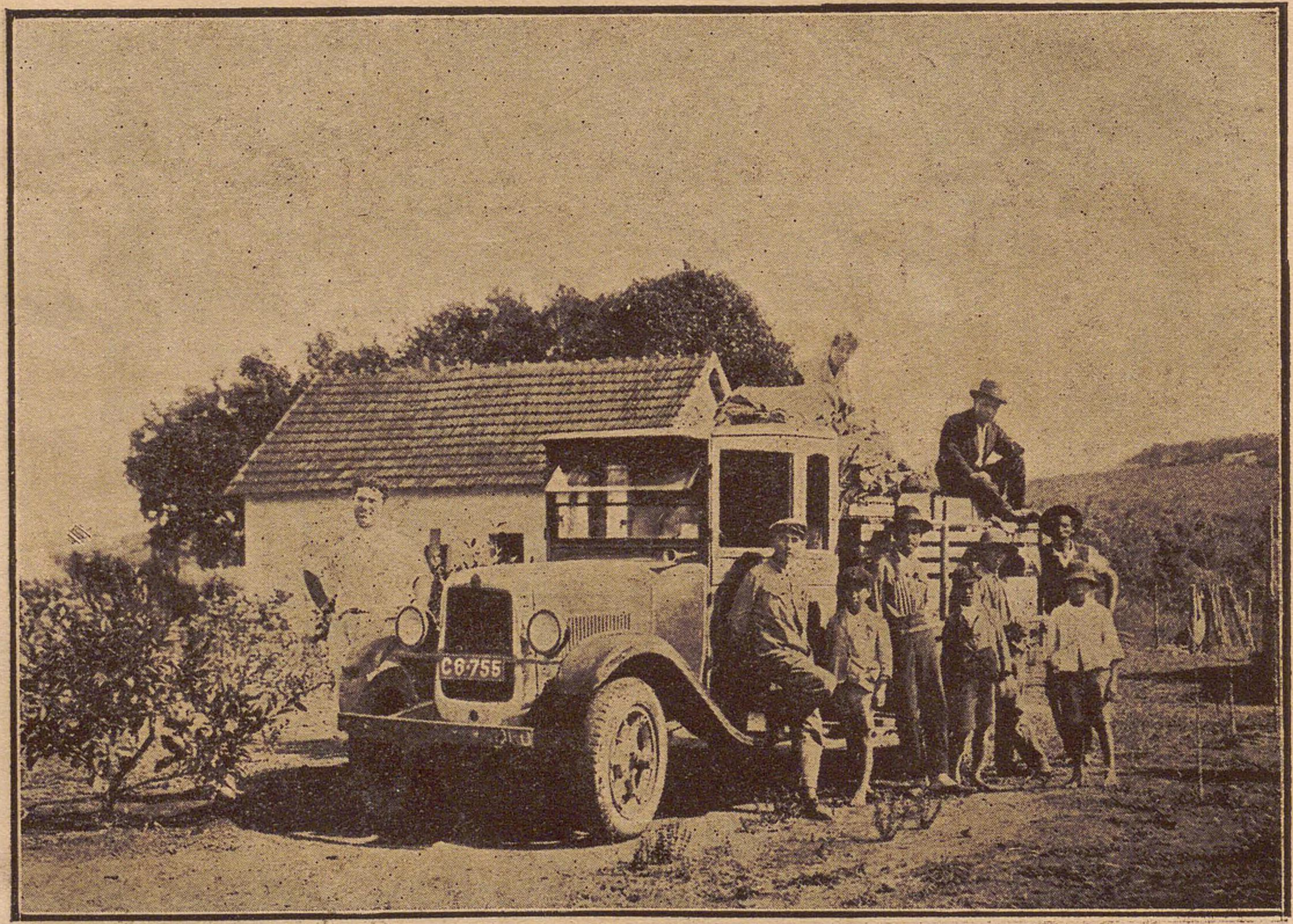
當植民地の植民者伊太利人ロツケ・カブト及イボ・シモーニー氏のトマテー畑



Lavouras dos Snrs. (A) Ivo Simone - (B) R. Cavuto.

生産する蔬菜を市場に送出す貨物自動車

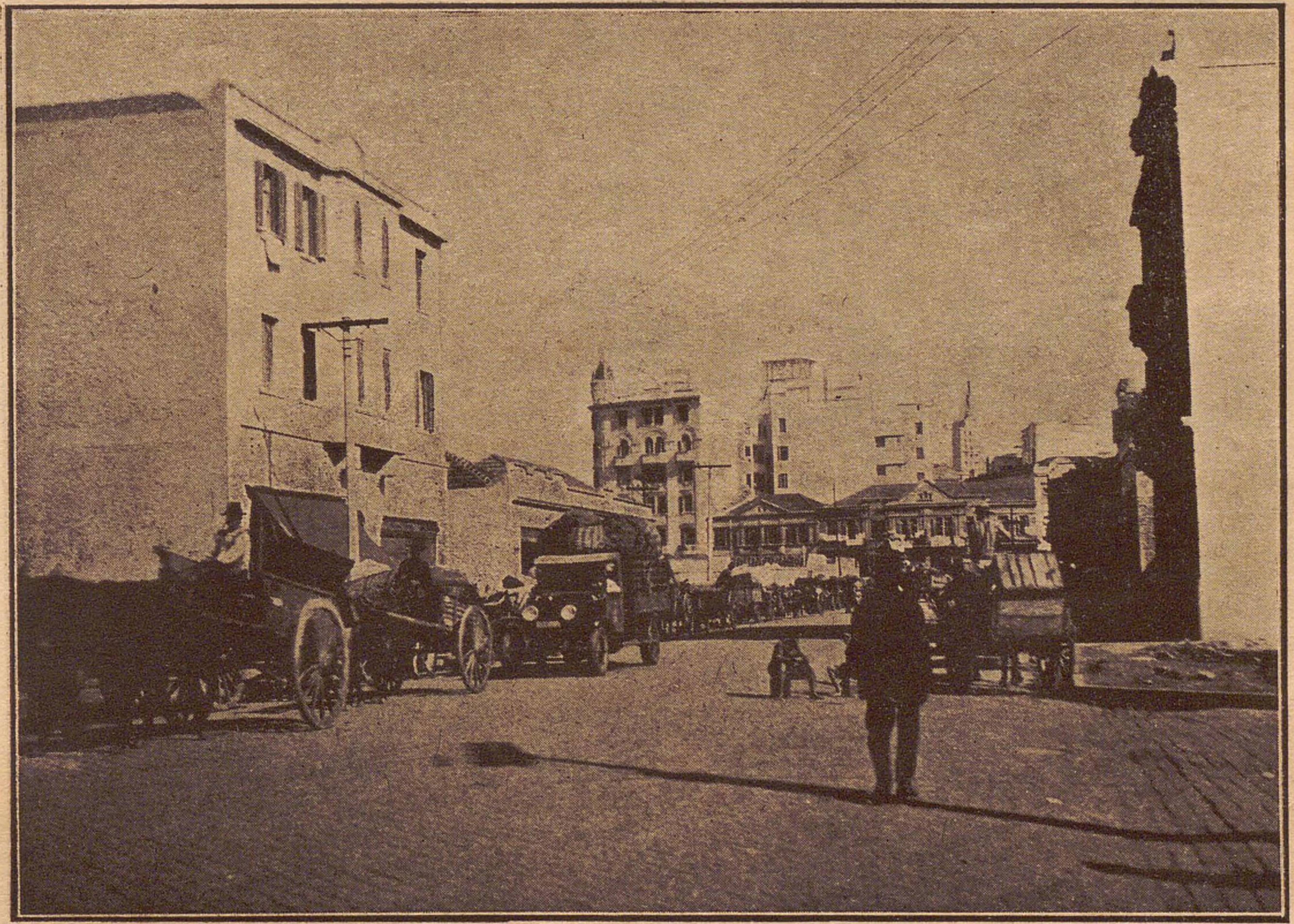
植民地からサンパウロ市中央市場迄はカミニオンで約四十五分で達するイタケラ町に當植民地の果物を運搬する者が居り、毎朝必ず市場迄往復するから各植民者は少しの物でも托して



O Transporte dos productos da Colonia Nipponica é feita por meio de caminhões.
(do Productor directamente ao Mercado Central).

出す事ができる、一臺満載すれば市場迄五十釺（十二圓）内外で一箱一俵なら一釺、産物の多い時は日に二三回も往復する。

青物市場前に開場を待つ青物生産者の列

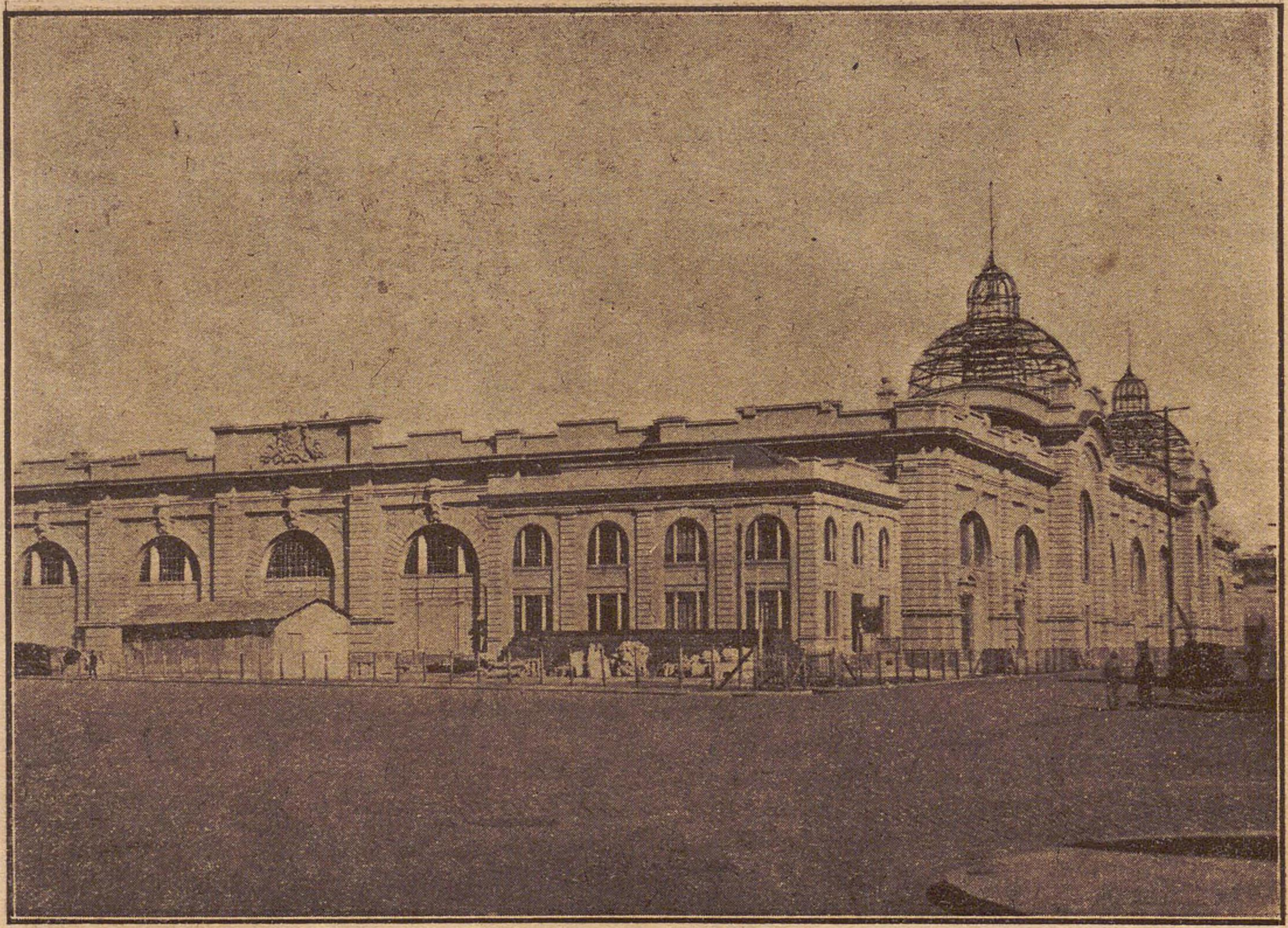


Aguardando a hora de entrada no Mercado.

現今のサンパウロ市の市場は至つて狹く爲に生産者は一時に市場に入る事が出來ない、長い列をなして待つて居る、當市の各地郊外より馬車、カミニオン、牛車と云ふ樣に數百臺が毎日市場の入口に輻輳する、新しい大市場の落成後は此の面倒がなくなるのである。

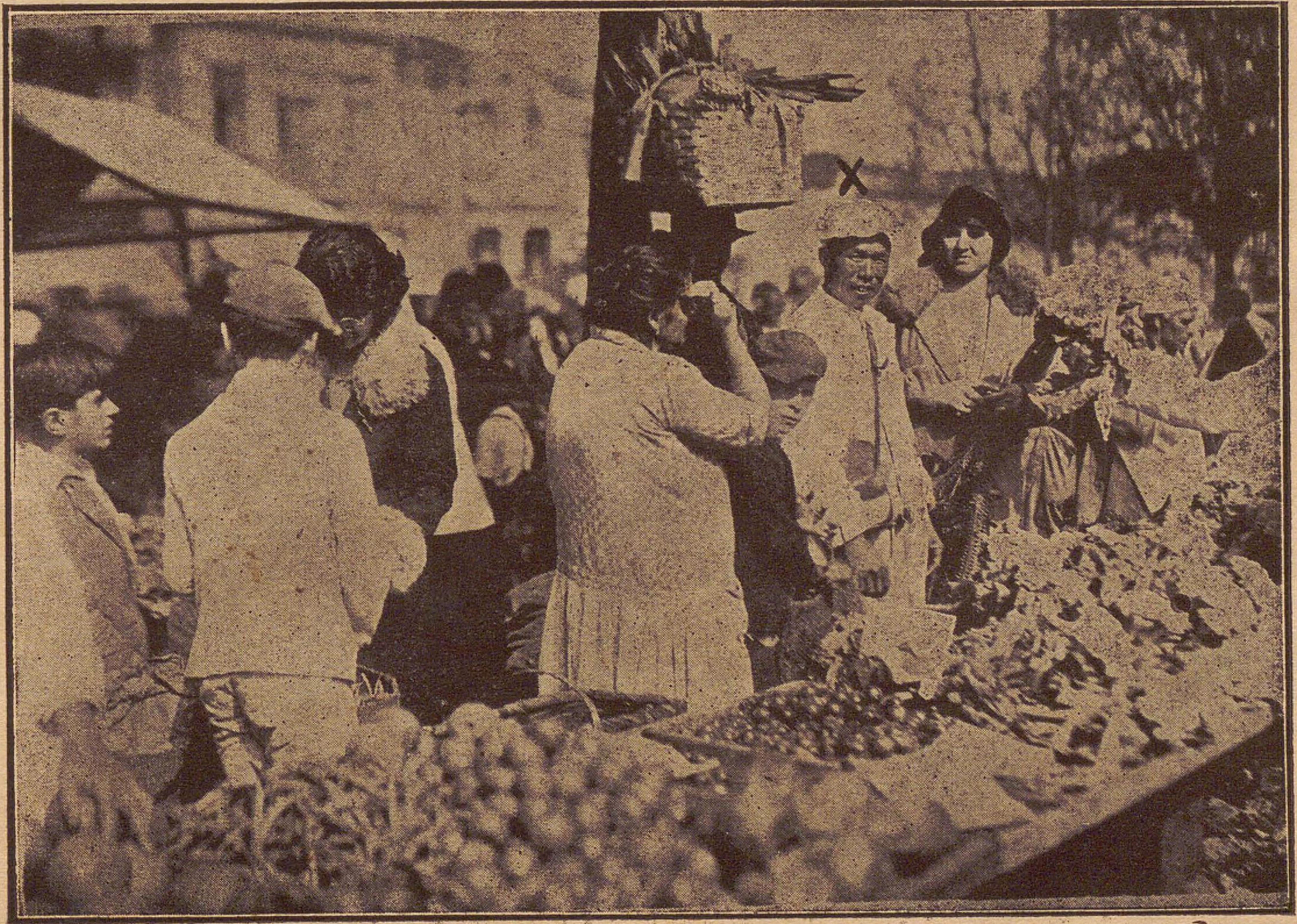
近く落成を告ぐるサンパウロ市の大中央市場

サンパウロ市の人口の激増は實に驚くの外はない、數年前迄は昔時建設された市場で充分であつたのが現今では狹小で日に入り込む產物を充分に受入るゝ事が出來ない、三年前より工事を進めた大中央市場も近く開場を見るであらふ、當市場は建築面積三萬三千メートル平方にて落成後は當市の大建築の一に算せられ、主なる鐵道は勿論電車も皆支線を經て當市場に連絡されてゐる、出入口は四方面にあるから物產の出入運搬に最も完全を盡すと言はれる。



VISTA PARCIAL DA CONSTRUCÇÃO DO GRANDE MERCADO CENTRAL DA CAPITAL,
A SER INAUGURADO DENTRO EM BRÉVE.

サンパウロ市の青物市に於ける日本人の野菜賣り



VISTA DE UMA DAS FEIRAS LIVRES NA CAPITAL.

近來蔬菜栽培に從事する日本人はサンパウロ市郊外に益々增加しつゝある、是れと同時に蔬菜、果物の販賣に從事するものも多く、圖中の×印にある如く市中の各所に開かれる青物市でも我同胞は盛に商賣しつゝある。